

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願ひいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

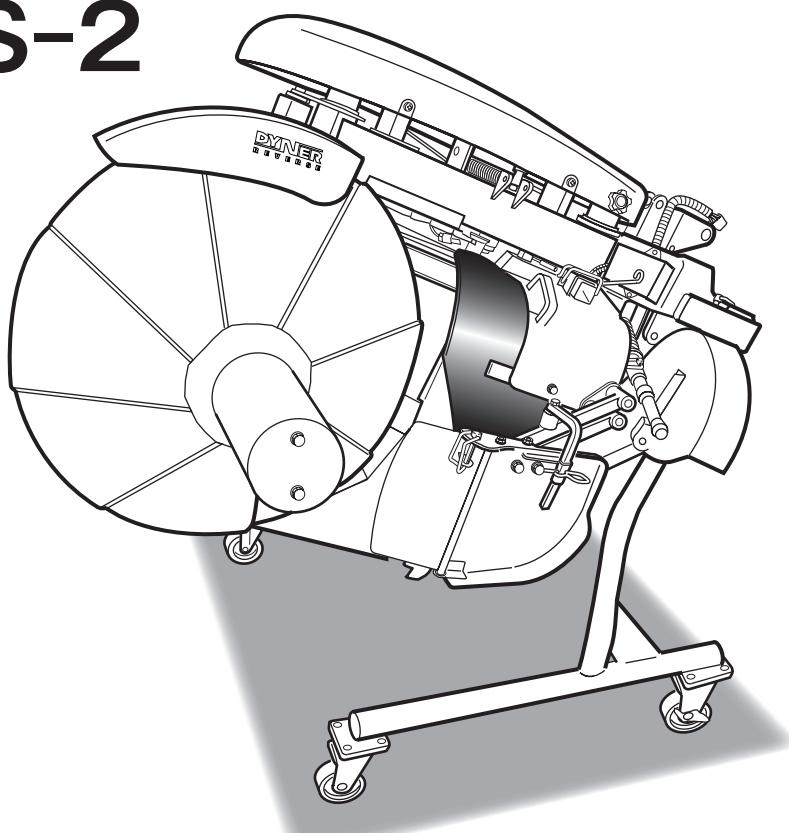
以上

小橋工業株式会社

コバシアセ"ローター

取扱説明書

RS-2



RS752F



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびはコバシアゼローターをお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、アゼローターの性能を十分に發揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、アゼローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲安全作業のポイント

- ◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。
- ◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。
必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

▲危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

▲警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

▲注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱い上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシアゼローターの使用目的・使用範囲

このコバシアゼローターは水田の畦塗用作業機です。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行なわないでください。

目次

▲ 安全に作業するために	1
1 はじめに	1
2 作業の前に	1
3 トラクタへの着脱	1
4 防護カバー類の取付け	2
5 装着時の前後バランスの確認	2
6 トラックへの積み・降ろし	2
7 一般走行	2
8 圃場への出入り	3
9 作業をしている時	3
10 作業中の点検	4
11 トラクタを止めるとき	4
12 その他	4
▲ 安全ラベルの取扱い	5~7
サービスと保証について	8
各部の名称	9
アゼローターの開梱	11
トラクタへの装着と取外し [日農工特殊3P]	12
1 装着前の準備	12
2 トラクタへの装着	12
3 トラクタからの取外し	14
日農工標準オートSヒッチの装着	16
1 装着前の準備	16
トラクタへの装着と取外し [日農工標準3P]	18
1 入力軸セフティカバーの取付け	18
2 トラクタへの装着	18
3 トラクタからの取外し	22
トラクタへの装着と取外し [標準3P直装]	24
1 装着前の準備	24
2 トラクタへの装着	24
3 トラクタからの取外し	26
ジョイントの取付け準備と取付け方法	27
1 ジョイントの取付け準備	27
2 切断方法	27
3 取付け方法	27
4 長さの確認	29
フロントウェイト装着表	30

トラクタへの電源接続と配線	32
配線接続方法及び取付方法	33
1 配線接続	33
2 バッテリハーネスASSY取付方法	34
コントローラの取付／操作方法及び注意事項	38
作業前の点検	40
圃場の準備	41
移動、圃場への出入り	42
前進作業と後進(リバース)作業の切り換え動作	43
前進作業と後進(リバース)作業のセットの仕方:電動仕様	44
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合	44
2 前進作業状態から後進(リバース)作業状態にする場合	45
3 後進(リバース)作業状態から移動(格納)状態にする場合	45
前進作業と後進(リバース)作業のセットの仕方:手動仕様	46
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合	46
2 前進作業状態から後進(リバース)作業状態にする場合	47
3 後進(リバース)作業状態から移動(格納)状態にする場合	48
畦塗り作業の仕方	49
1 作業前の各部の調整	49
2 上手な畦塗りの仕方	54
作業後の手入れ	56
部品交換方法と注意事項	57
1 シャーボルト	57
2 耕うん爪	57
3 ドラム	59
保守・点検	61
1 作業前点検	61
2 定期点検	61
保管・格納	68
点検整備一覧表	70
トラクタ別装着表	71~78
作業機のトラブルシューティング	79
コントローラのトラブルシューティング(電動仕様)	81
消耗部品	82
主要諸元	83~88
オプション部品について	89
用語解説	91

⚠ 安全に作業するため

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



1-6 次のような状態では運転しないでください。

① 飲酒運転

② いねむり運転

③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき

④ 若年者

⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますが、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。



3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。

3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図あいましょう。

3-5 ジョイントのノックピンが確実にPTO軸溝に、又、作業機入力軸溝にはまつたか確認してください。



3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



4 防護カバー類の取付け

4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバーフロントカバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウェイトがかかるように、フロントウェイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たくなる場合もありますので注意してください。

又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウェイトを取付けてください。



5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

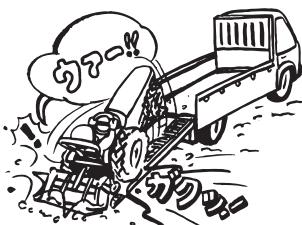
6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。

6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。

6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又、途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。

6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクスшенションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

7 一般走行

7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

などに引っかけて事故の原因になります。



- 7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



- 7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



- 7-4 作業機の回転を止めて走行してください。

- 7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。

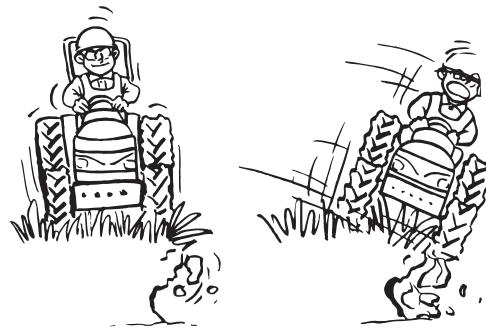
- 7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。

- 7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



- 7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたためる箇所は折りたたみ走行してください。又、スタンドがついている場合も必ず外してください。

- 7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



- 7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。

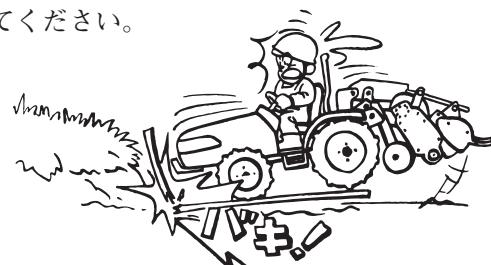
- 7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。

- 7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圏場への出入り

- 8-1 圏場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。

- 8-2 圏場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



- 8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

- 9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようならかじめ体調を整えてください。

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。

- 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散しないように調節してください。



9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



10-2 点検のために外した防護

カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



10-3 ラジエーター、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 その他

13-1 作業機指定のPTO回転速度を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。

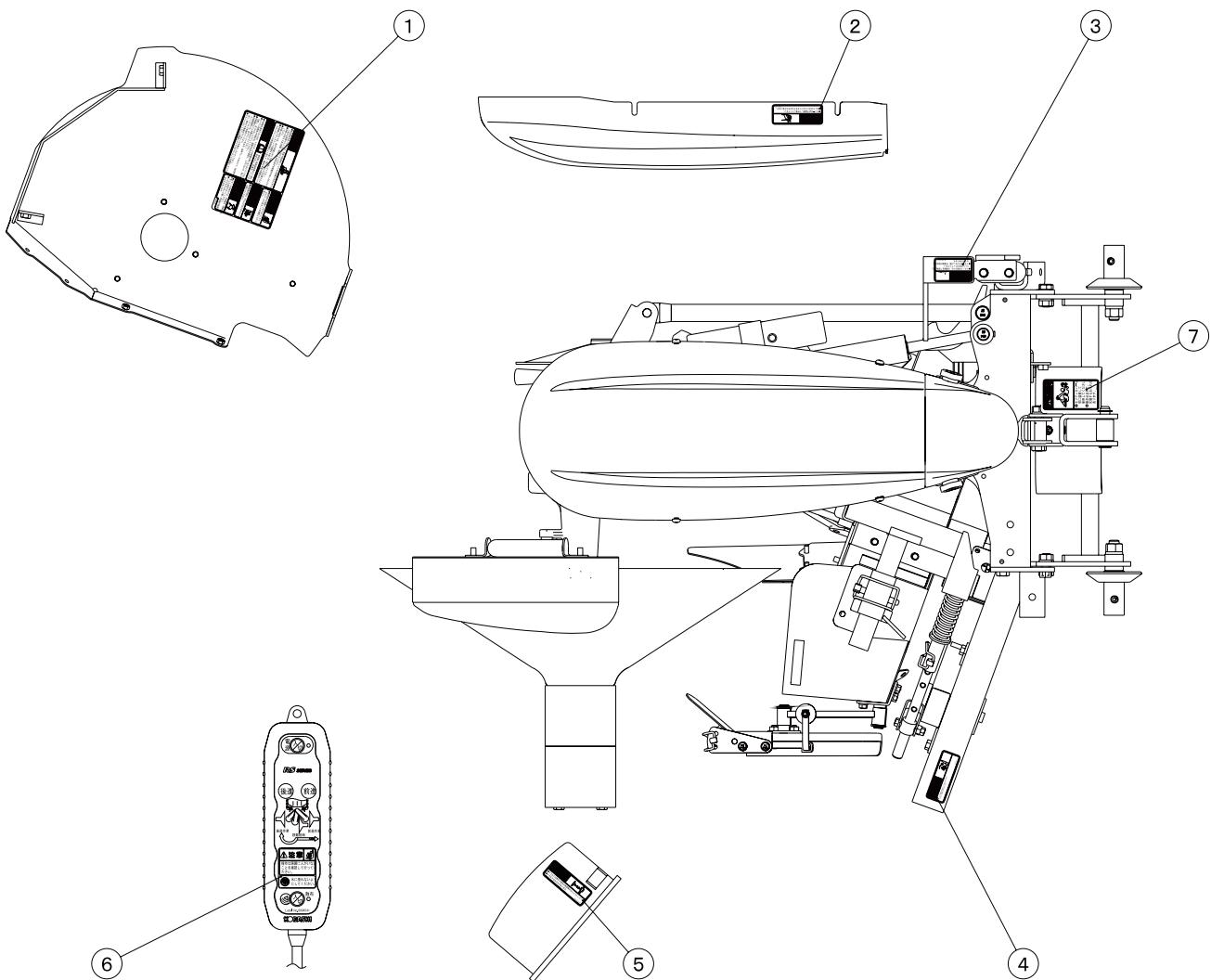
13-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

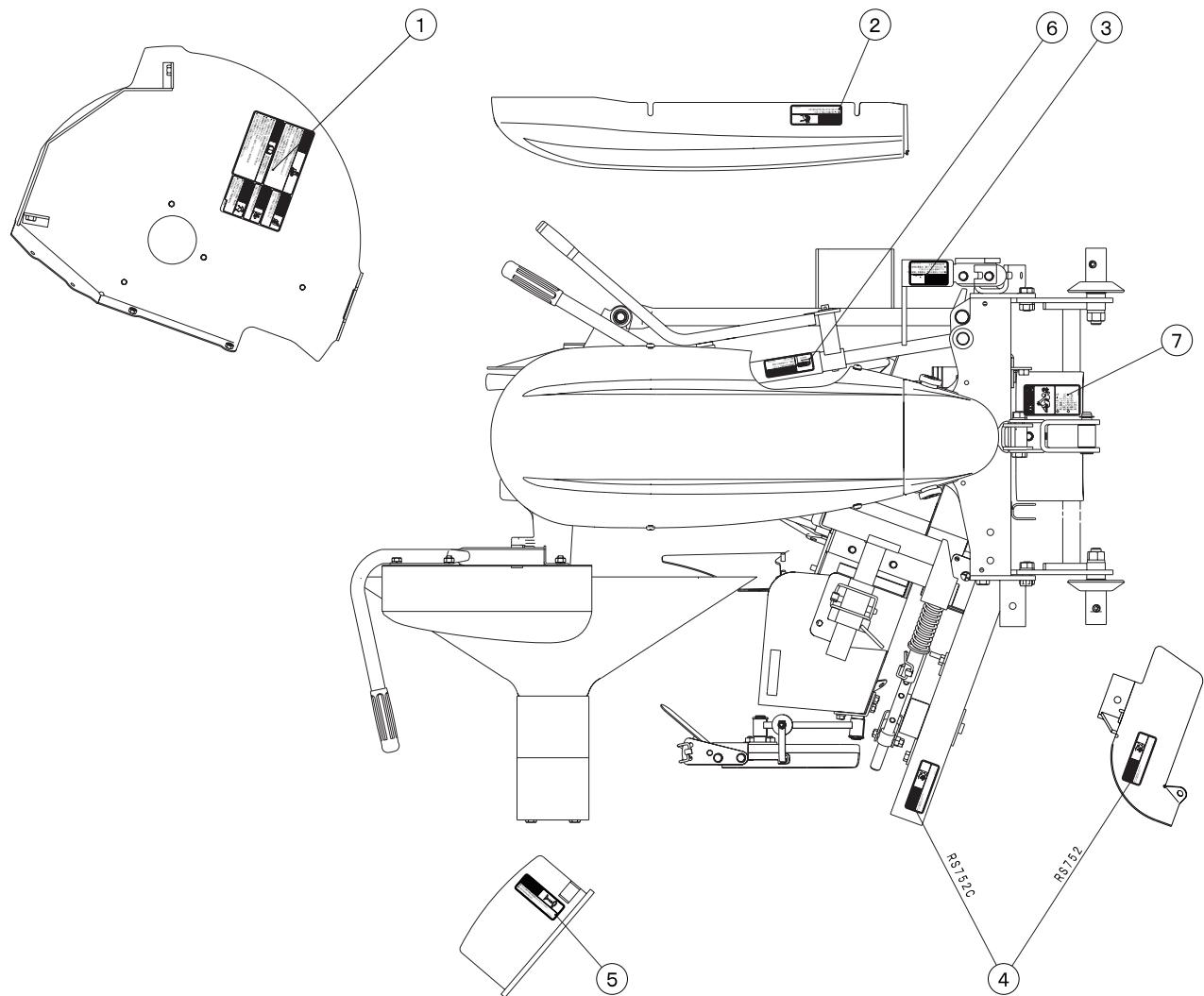
- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシアゼローターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。

RS752F(B)



RS752C(B)
RS752(B)



①コードNo.9993948

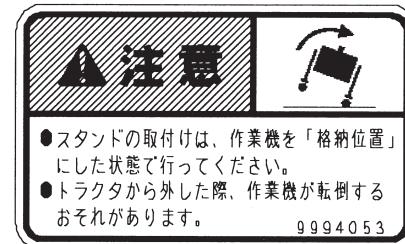
▲警告		▲注意	
<ul style="list-style-type: none"> ●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないよう充分な前部ウェイトを取り付けてください。 ●は場への出入り及び移動（格納）する時は必ず作業機を中央に入れてから行ってください。 ●は場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。 ●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。 		<ul style="list-style-type: none"> ●開閉操作は周囲に人がいないことと、十分なスペースがあることを確認して行ってください。 	
▲注意		▲注意	
<ul style="list-style-type: none"> ●作業機を着脱するときは、トラクターと作業機の間に立たないでください。 ●エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 ●作業機の上に人を乗せないでください。 ●点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。 また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。 ●ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。 		<ul style="list-style-type: none"> ●開閉操作時は、手などがはさまれないよう注意してください。 	
▲注意		▲注意	
<ul style="list-style-type: none"> ●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。 ●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。 		<ul style="list-style-type: none"> ●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。 ●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。 	

9993948

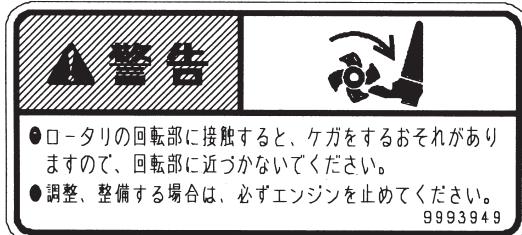
②コードNo.9993951



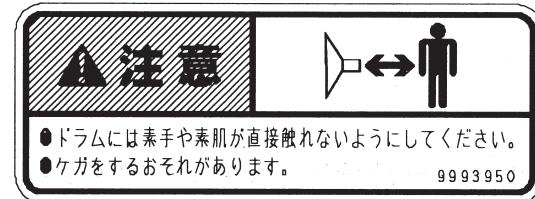
③コードNo.9994053



④コードNo.9993949

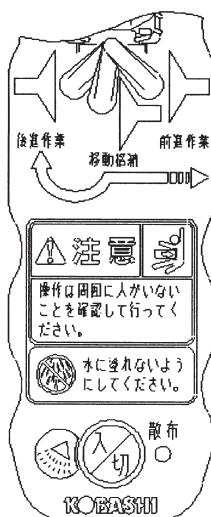


⑤コードNo.9993950



⑥コードNo.9994267

※電動仕様のみ



⑥コードNo.9994266

※手動仕様のみ



⑦コードNo.9992126



サービスと保証について

1 保証書について

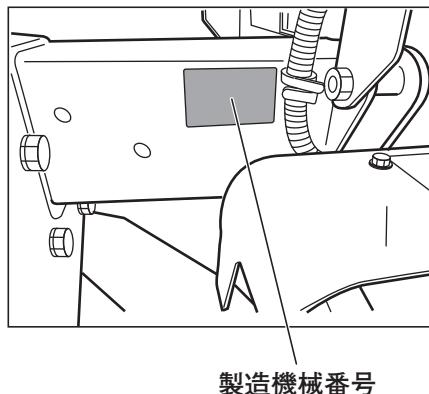
コバシアゼローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

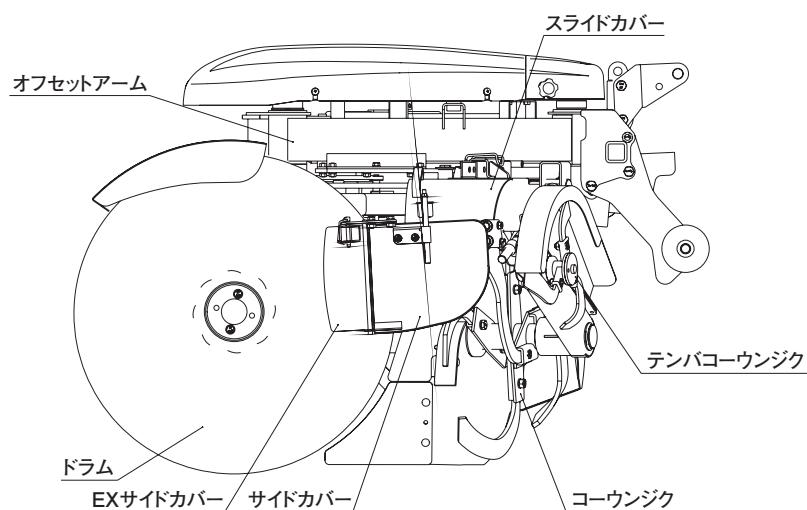
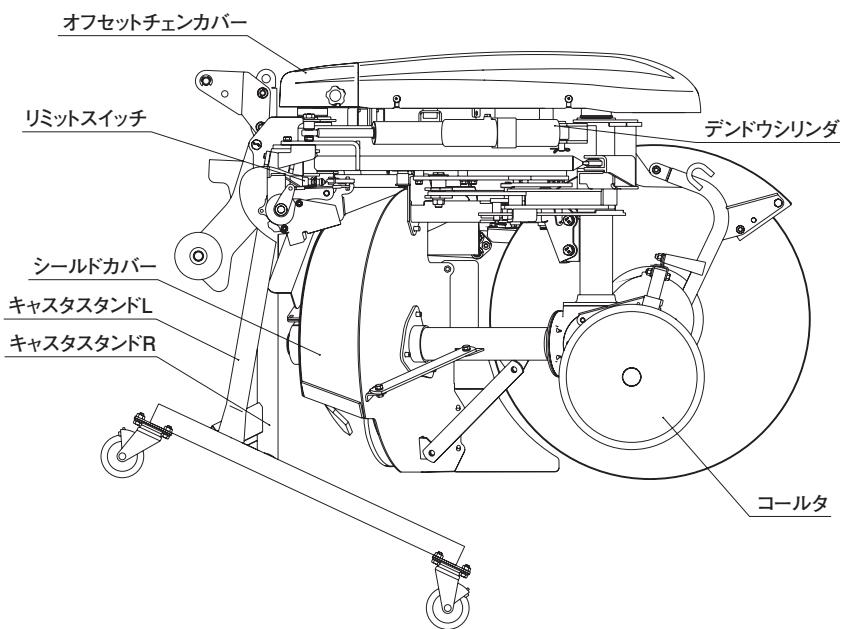
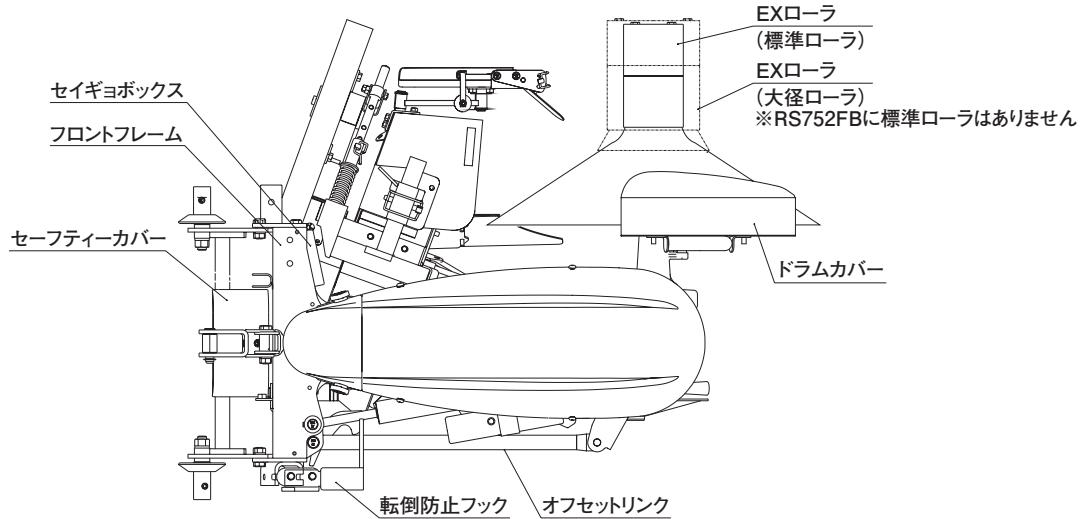
従いまして、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきますので、ご了解賜りますようよろしくお願い申し上げます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

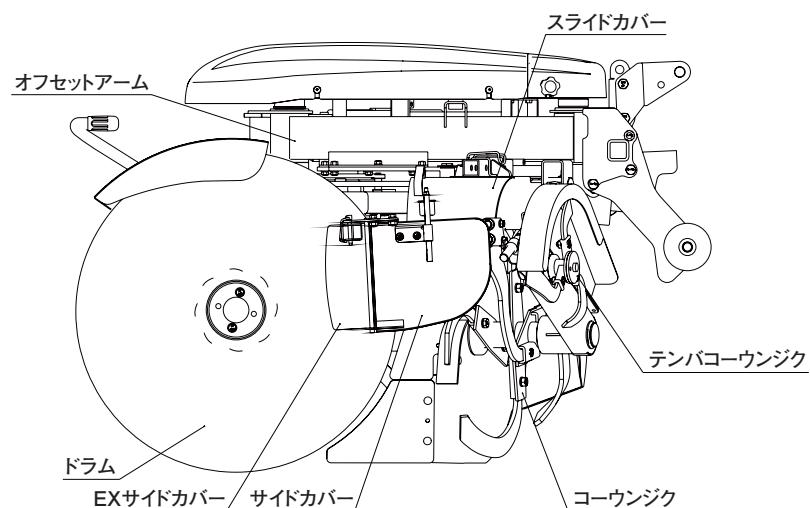
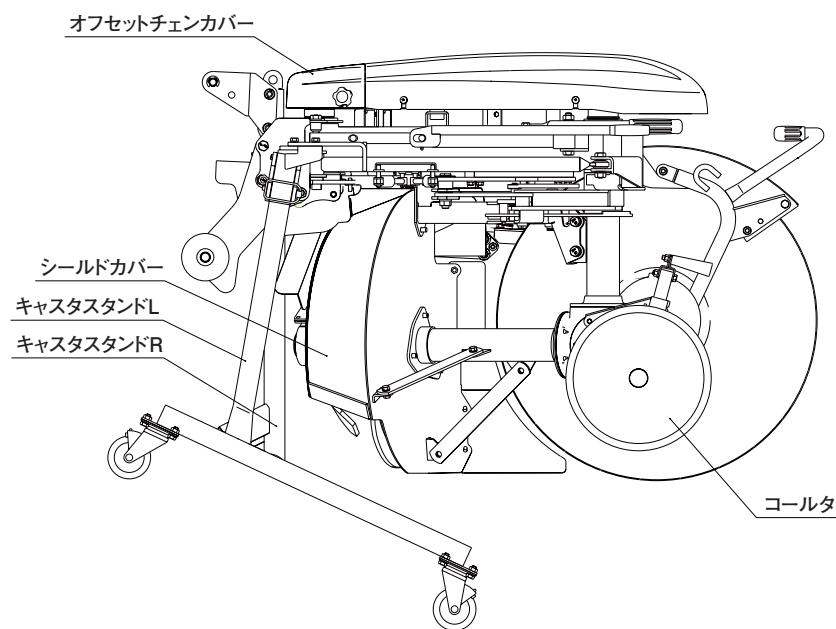
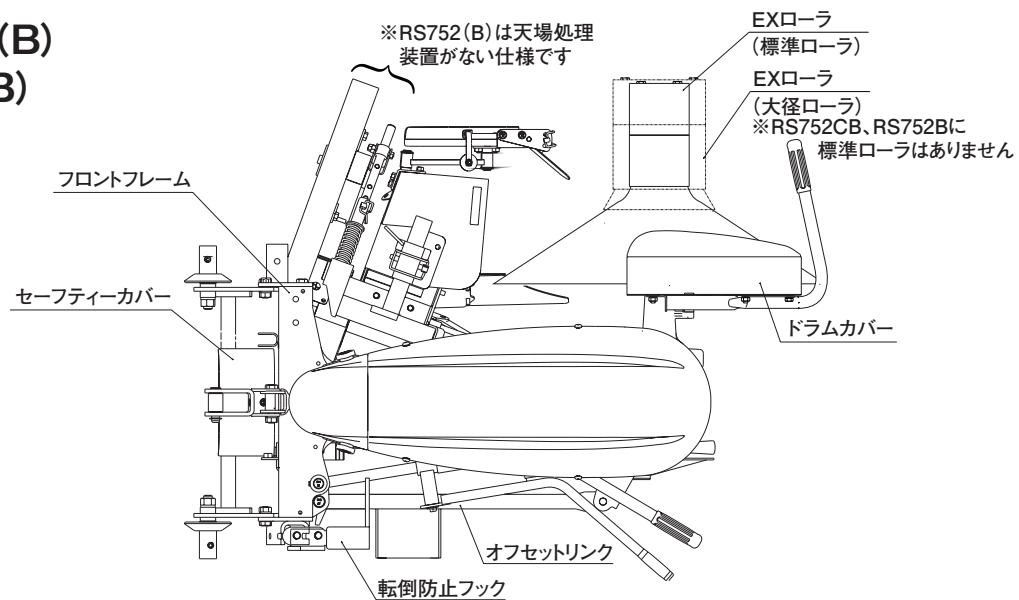
各部の名称

RS752F (B)



各部の名称

RS752C(B)
RS752 (B)



アゼローターの開梱

1. 開梱

アゼローターは、鉄枠梱包されています。鉄枠に貼付けられている「開梱要領書」を熟読の上、開梱してください。

▲ 注意

開梱する時は、丈夫な手袋を着用して行ってください。鉄枠梱包には、スクリュウネジが使用されています。ネジの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

標準装備品

部品名	数量	数量
キャスタースタンド L/R	各1	
シャーボルト M8×30 ナイロンナット	各10	メイン用 シャーボルト予備
コガタボルト M8×25 ナイロンナット	各10	天場コーウンジク用 シャーボルト予備 RS752F (B)、 RS752C (B) 仕様 のみ
束線バンド	5	RS752F (B) 仕様のみ
ハーネス M	1	RS752F (B) 仕様のみ
オートヒッチアーム	1	4S、3S 仕様のみ
ジョイント (TC71M)	1	4S 仕様のみ
ジョイント (TC69)	1	3S、1S 仕様のみ
取扱説明書	1	
品質保証書	1	

◆ アゼローター(RS-2) はトップマスト、ヒッチブラケットを交換することにより、日農工標準 3P 仕様、日農工特殊 3P 仕様 (A-1 形、A-2 形、B 形)、標準 3P 直装することができます。詳しくは販売店、農協にご相談ください。

トラクタへの装着と取外し 日農工特殊 3P

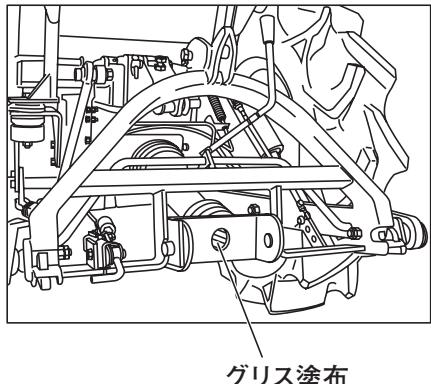
アゼローターはトラクタに装着されている純正ロータリと同様の手順で、作業機の取付け、取外しができます。又、純正ロータリのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

- ①ロアーリング、リフトロッドは純正ロータリと同じ取付位置で装着できますので、ロータリを外し、そのままアゼローターの着脱ができます。
- ②オートヒッチのヒッチピンロック用のフックを閉じた状態にしてください。
4P仕様の場合は、装着前にアゼローターの入力軸とジョイント結合部に十分グリスを塗布してください。



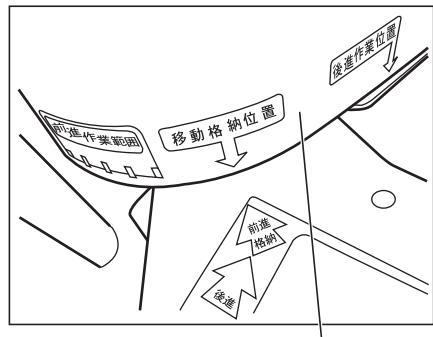
グリス塗布

2. 作業機の確認

作業機が「移動・格納位置」状態にあるか確認してください。格納・移動位置以外では、安全に装着することができませんので、補助具(ホイストなど)を使用し作業機のバランスを保ってください。

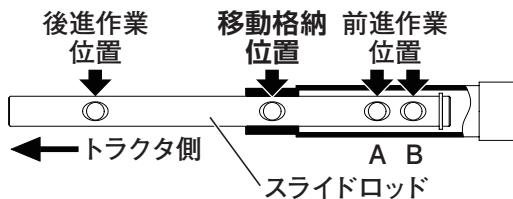
※ RS752F(電動仕様)の場合、チェンカバーラベルの矢印が移動・格納位置に合っているか確認してください。

トラクタ側から見た図



オフセットチェンカバー

※ RS752(C)(手動仕様)の場合、スライドロッド穴位置が移動・格納位置であるか確認してください。



2 トラクタへの装着

警告

1. 作業機の装着は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
5. 作業機を装着する際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」にしてください。
6. トラクタ型式及び装着方式によりフロントウエイトが必要になります。フロントウエイト装着表 P30 ~ 31 を確認の上、トラクタメーカーの純正ウエイトを取付けてください。

1. トラクタを作業機の中心に合わせ、オートヒッチアームを下げておきます。トラクタをゆっくりバックさせ作業機に近づきながら作業機のマスト先端とオートヒッチアームのフックを合わせます。この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。

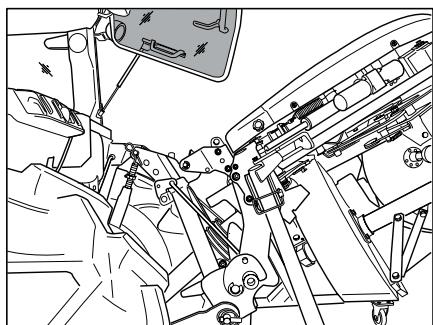
2. フックを合わせてリフトアップ

オートヒッチアームのフックで作業機のマストをすくい、ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップしていくと、オートヒッチアームのロアーフックが接続されます。

ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

取扱上の注意

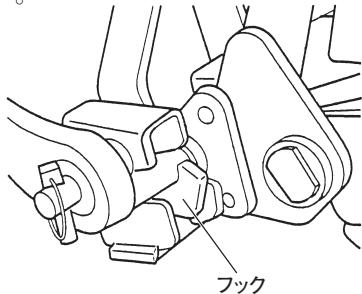
- 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。



- トラクタによっては、スイッチを押すと自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため、10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
- 水平制御装置付トラクタの場合は、作業機を持上げた際、手動で左右に傾けてトラクタと作業機が干渉しないことを確認して下さい。(操作方法はトラクタの取扱説明書をご覧下さい。)
作業機が接近しすぎる場合は、10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

3. ロックの確認

ロックレバーを確実にロックします。ロックレバーは装着されると前後に動き、自動的にロック状態になります。アゼローターのヒッチピン(左右)にフックが確実にかかっていることを確認してください。

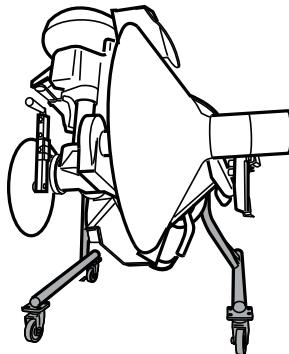


▲ 注意

作業が終わってアゼローターを取り外すまでは、レバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除しアゼローターが外れます。

4. スタンドの取外し

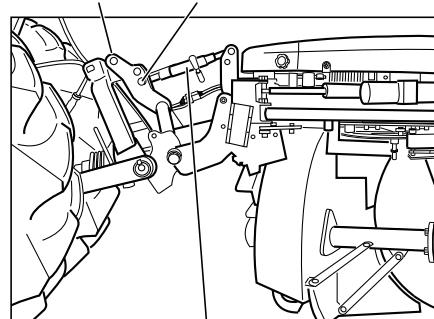
スタンドを固定しているロックピンを抜き取り、スタンドを持ち上げてから取外してください。



5. 作業姿勢の調整

作業機を接地させ、オフセットアームが地面に対して水平になるようにターンバックルを調整してください。ターンバックルの調整で作業機が水平にならない(前斜になる)場合は、ダブルフレームの穴位置を下側に変更してください(出荷時は上側)。

水平姿勢がとれない場合は
ダブルフレーム 穴位置を下側に変更



ターンバックル

6. リフトロッドの調整(左右の水平)

油圧を下げる、後方から見て作業機が左右水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

7. ジョイントの異音について

ジョイントはトラクタのPTO軸と作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置で高さ規制を行ってください。

▲ 危険

- 装着後は、特殊3Pオートヒッチアームのロックが確実にされていることを確認してください。ロックされていない場合、走行中や作業中に作業機が外れて大変危険です。
- 作業が終わって作業機を取外すまでは、特殊3Pオートヒッチアームのロックレバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

3 トランクタからの取外し

▲ 危険

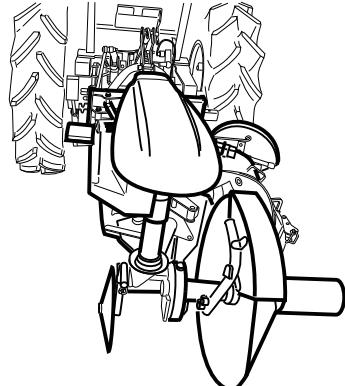
スタンドの取付けは作業機を格納位置にした状態で行ってください。作業機が「格納・移動位置」以外の状態でスタンドを取付けると、トランクタから取外した際に作業機のバランスが悪く、転倒する恐れがあり危険です。

▲ 警告

- 作業機の取り外しは、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
- 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
- トランクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
- 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
- 作業機を取外す際は、トランクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」にしてください。

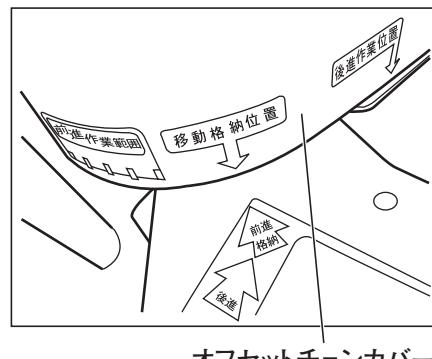
1. 作業機を移動・格納位置にする

作業機を下図のように移動・格納位置にしてください。

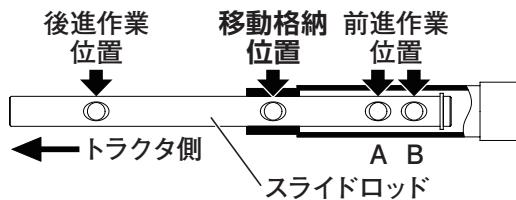


※ RS752F（電動仕様）の場合、チェンカバーラベルの矢印が移動・格納位置に合っているか確認してください。

トランクタ側から見た図



※ RS752 (C)(手動仕様) の場合、スライドロッド穴位置が移動・格納位置であるか確認してください。



2. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、作業機両端のブラケットにキャスタースタンドL / Rを取付け、ロックピンで固定します。

※スタンドは、作業機を「移動・格納位置」にした状態で取付けてください。
「移動・格納位置」にしていないと、キャスタースタンド L が取付きません。

3. ロックの解除

オートヒッチアームのロックを解除します。

4. 作業機を下げる

ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、アゼローターを下げるとロアーフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させるとアゼローターは外れます。

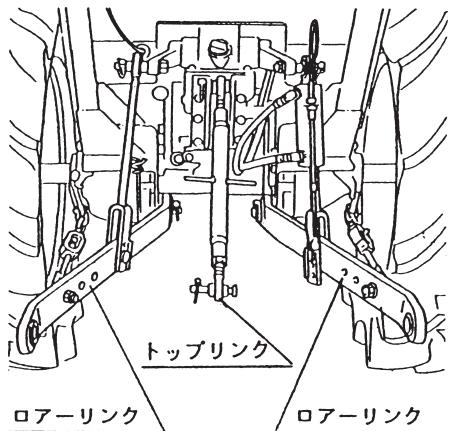
※外れない場合は、場所が平坦でない、ターンバッカル長が不適切などの原因があります。

日農工標準オートSヒッチ(0、I形)の装着

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は、標準3点リンク式のヒッチです。もし、トラクタに特殊3点リンク式のロータリを装着されている場合は、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドローバーがジョイントに干渉する場合は、ドローバーの位置を変えるか、取外してください。



3点リンクの取付位置は、本書のトラクタ別装着寸法表(P71~P78)を参照の上、トップリンクやロアーリンク、リフトロッドの穴位置を指定の位置に取付けてください。また、トップリンクの長さも指定の長さに調整してください。

取扱上の注意

トップリンクは目安の長さです。作業時に再度水平を確認し調整を行ってください。

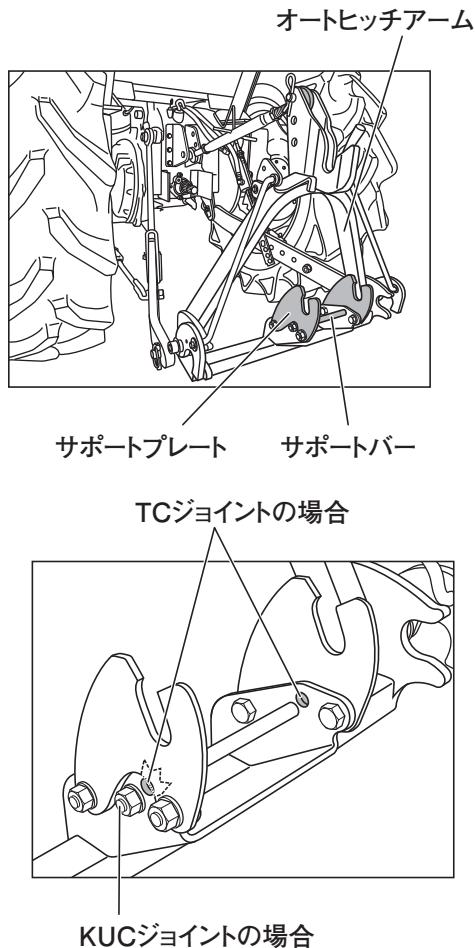
2. オートヒッチアームの準備

4セットの場合

オートヒッチアームにジョイントをセットするサポートプレート、及び、サポートバーが確実に取付けてあることを確認してください。

3セットの場合

サポートプレート、サポートバーがないことを確認してください。

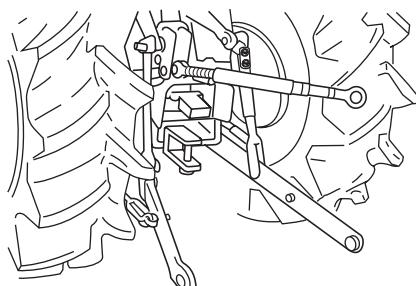


3. トラクタへのオートヒッチアーム取付け

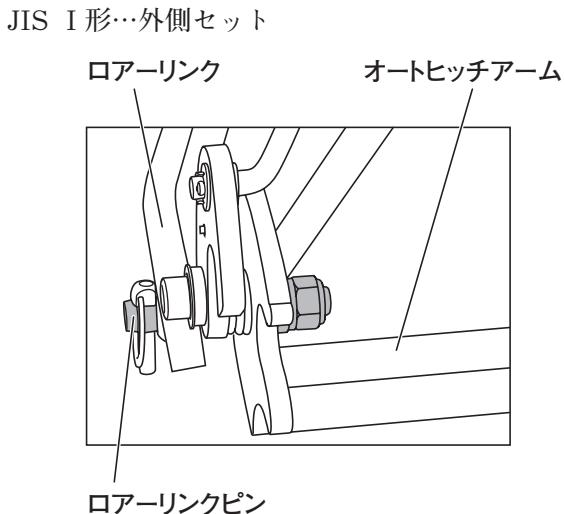
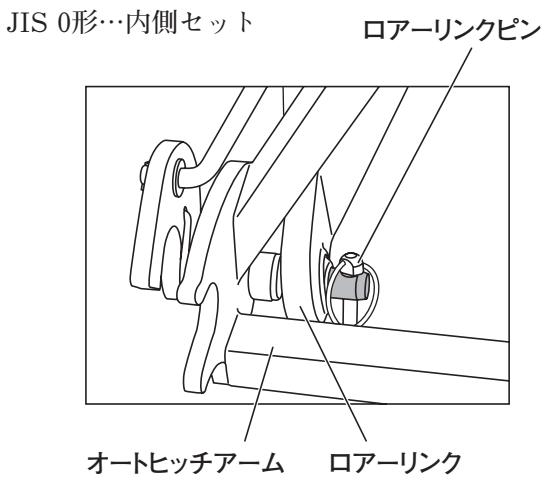
⚠️ 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

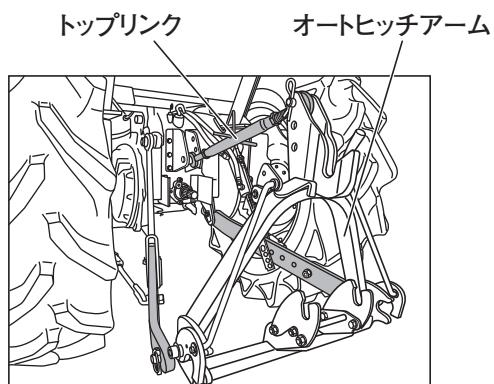
- ① トラクタのポジションコントロールレバーを下げる、ロアーリンクをいっぱいまで下げます。



- ②オートヒッチアームの左右ロアーリンクピンを、トラクタのロアーリンクに取付けます。取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。
- ※トラクタの3点リンク規格により、ロアーリンクピンの内側セット(JIS 0形)と外側セット(JIS I形)がありますので規格に合わせてセットしてください。(トラクタの取扱説明書をご覧ください。)



- ③オートヒッチアームとトップリンクを取付けます。取付け後は、リンチピン(またはRピン)で抜け止めをしてください。(トップリンクピンとリンチピン(またはRピン)はトラクタ付属品を使用してください。)



④ジョイントの取付け (4セットのみ)

オートヒッチアームが4セットの場合、ジョイント取付けます。取付け手順はP27～P29を参照してください。

3セットの場合は、作業機装着後に取付けを行います。

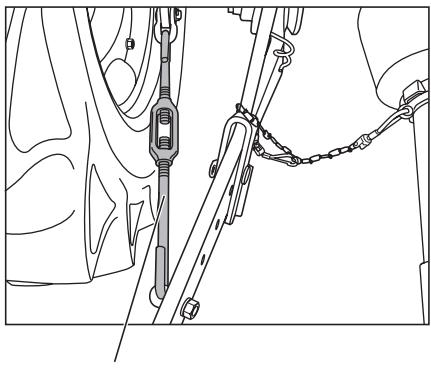
取扱上の注意

4セットは作業機装着後にジョイントを取り付けることはできません。作業機装着前にジョイント取付けてください。

⑤チェックチェンの調整 (左右の振れ)

オートヒッチアームの中心(フック先端)とトラクタのPTO軸が一直線になるように左右のチェックチェンを調整します。

横振れが5mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。



チェックチェン

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

取扱上の注意

取付け後は、油圧をゆっくり上げながら、トップリンク等がトラクタと干渉しないことを確認してください。

トラクタへの装着と取外し 日農工標準オートSヒッチ(O、I形)

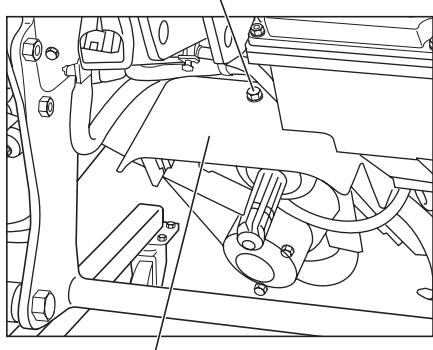
1 入力軸セフティカバーの取付け

▲ 危険

セフティカバーを取外して使用すると死傷する事がありますので、必ず取付けた状態で使用してください。

セフティカバーとカバープラケットをM8ボルトで固定してください。

ボルトM8



セフティカバー

2 トラクタへの装着

ここでは日農工標準オートSヒッチでの作業機の装着/取外しを説明します。

▲ 警告

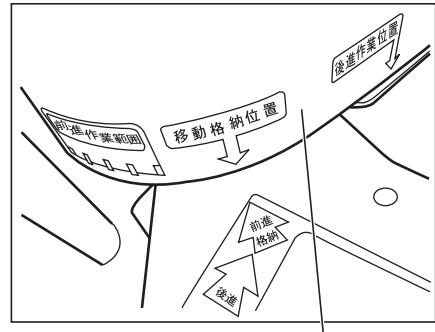
1. 作業機の装着は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
5. 作業機を装着する際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」にしてください。
6. トラクタ型式及び装着方式によりフロントウェイトが必要になります。フロントウェイト装着表(P30~31)を確認の上、トラクタメーカーの純正ウェイトを取付けてください。

1. 作業機の確認

作業機が「移動・格納位置」状態にあるか確認してください。移動・格納状態以外では、安全に装着することができませんので、補助具(ホイストなど)を使用し作業機のバランスを保ってください。

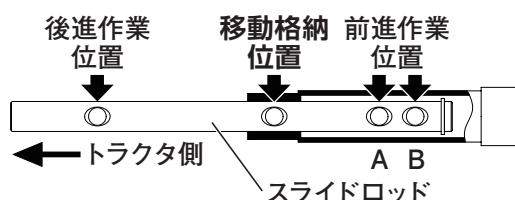
※ RS752F(電動仕様)の場合、チェンカバーラベルの矢印を格納位置に合わせて(→←)から行ってください。

トラクタ側から見た図



オフセットチェンカバー

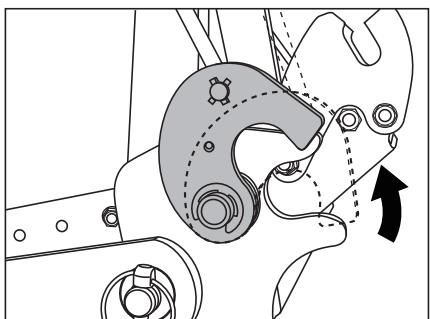
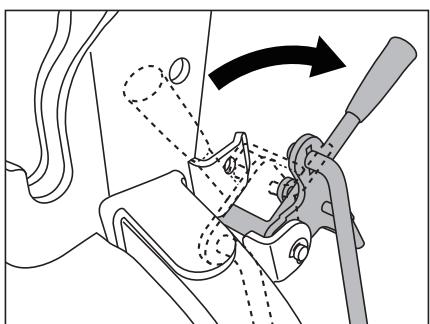
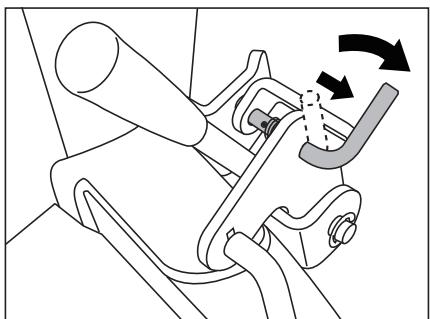
※ RS752(C)(手動仕様)の場合、スライドロッド穴位置を格納位置にしてください。



2. オートヒッチフックのロック解除

装着前に、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。



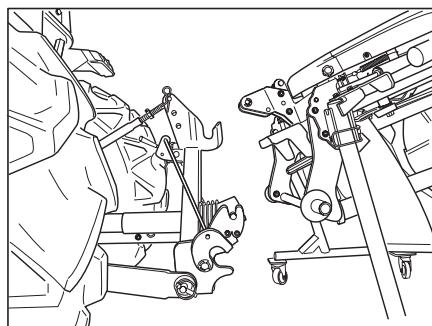
▲ 注意

レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

3. 作業機の装着

トラクタを作業機の中心に合わせ、オートヒッチアームを下げておきます。トラクタをゆっくりバックさせ作業機に近づきながら作業機のマスト先端とオートヒッチアームのフックを合わせます。この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



4. フックを合わせてリフトアップ

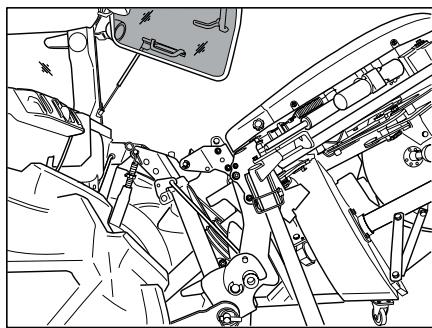
オートヒッチアームのフックで作業機のマストをすくい、ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップしていくと、オートヒッチアームのロアーフックが接続されます。

また、4セットの場合はジョイントのクラッチ部が自動的に接続されます。

ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

取扱上の注意

- 最初の装着時には、油圧をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。

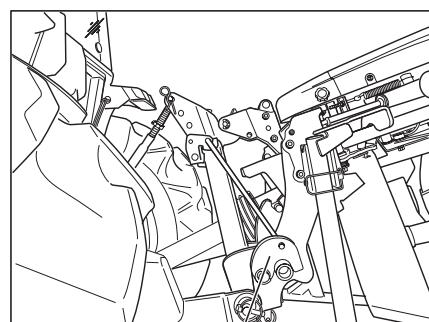
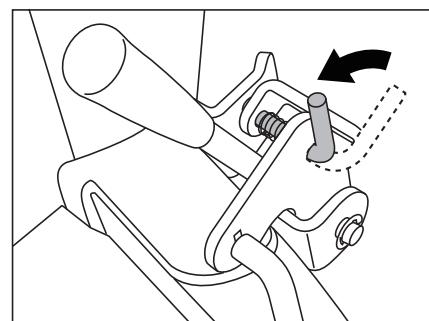
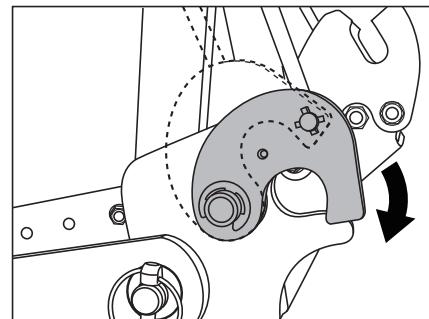
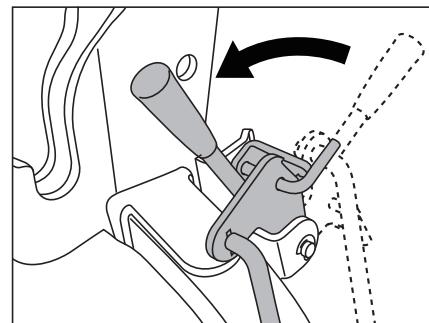


- トラクタによっては、スイッチを押すと自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため 10cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
- 水平制御装置付トラクタの場合は、作業機を持上げた際、手動で左右に傾けてトラクタと作業機が干渉しないことを確認して下さい。(操作方法はトラクタの取扱説明書をご覧下さい。)
作業機が接近しすぎる場合は、10cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

5. オートヒッチフックのロック

オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両方とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを作業機側に倒してフックを閉じます。

レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に挿入して、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。



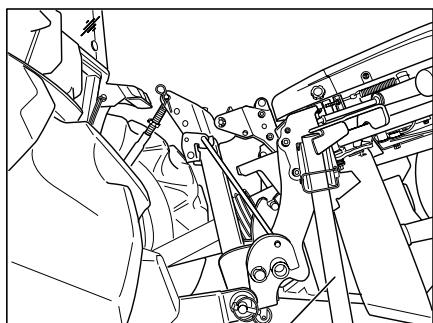
フックを確実にロック

▲ 危険

1. レバーを下げる後、ガイドカラー用フックが確実にロックされていることを確認してください。
ガイドカラー用のフックがロックされていない場合、走行中や作業中に作業機が外れて大変危険です。
2. 作業が終わって作業機を取り外すまでは、オートヒッチレバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

6. スタンドの取外し

スタンドを固定しているロックピンを抜き取り、スタンドを持ち上げてから取外してください。取外した後は作業機をゆっくり上下させ干渉等の確認をしてください。



スタンド

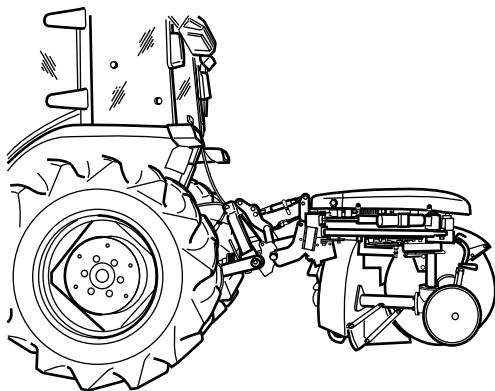
※3セットの場合は、スタンド取外し後、作業機を下げるジョイントの取付けを行ってください。取付け手順はP28～29を参照してください。

取扱上の注意

1. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
2. トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
3. 左右の水平調節についても注意してください。

7. 作業姿勢の調整

作業機を接地させ、オフセットアームが地面に対して水平になるようにトップリンクを調整してください。



8. リフトロッドの調整(左右の水平)

油圧を下げて、後方から見て作業機が左右水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

9. ジョイントの異音について

ジョイントはトラクタのPTO軸と作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置で高さ規制を行ってください。

3 トラクタからの取外し

▲ 危険

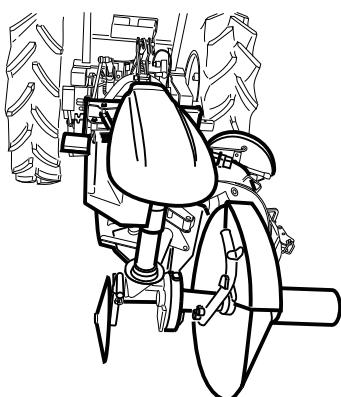
スタンドの取付けは作機を格納位置にした状態で行ってください。作業機が「格納・移動位置」以外の状態でスタンドを取付けると、トラクタから取外した際に作業機のバランスが悪く、転倒する恐れがあり危険です。

▲ 警告

1. 作業機の取外すときは、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
5. 作業機を取外す際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」にしてください。

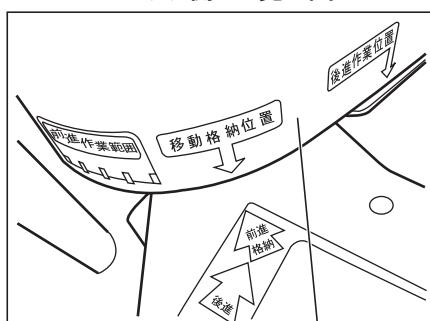
1. 作業機を移動・格納位置にする

作業機を下図のように移動・格納位置にしてください。



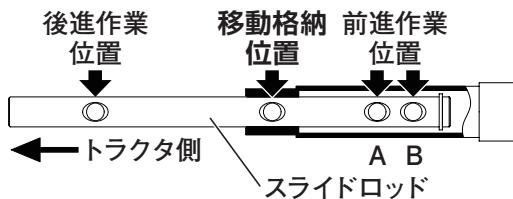
※ RS752F（電動仕様）の場合、チェンカバーラベルの矢印が移動・格納位置に合っているか確認してください。

トラクタ側から見た図



オフセットチェンカバー

※ RS752 (C)(手動仕様) の場合、スライドロッド穴位置が移動・格納位置であるか確認してください。



※ 3 セットの場合は移動格納状態にした後にジョイントを取り外してください。取外し手順は P28 ~ P29 の「3 セットの取付け」を参照して下さい。

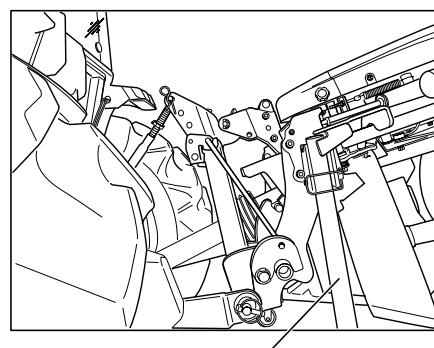
▲ 警告

ジョイントを取り外す際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 变速レバーを「中立」にし、エンジンを停止させてから行って下さい。

2. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、作業機両端のプラケットにキャスタースタンドを取付け、ロックピンで固定します。

※ スタンドは、作業機を「移動・格納位置」にした状態で取付けてください。
「移動・格納位置」にしていないと、キャスタースタンド L が取付きません。

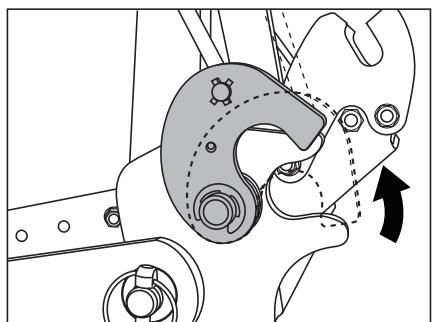
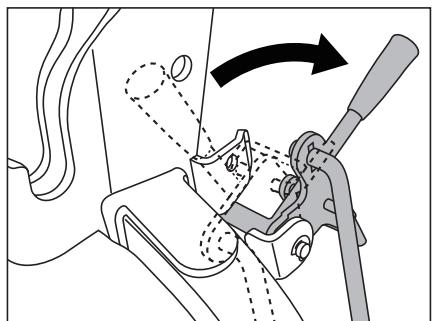
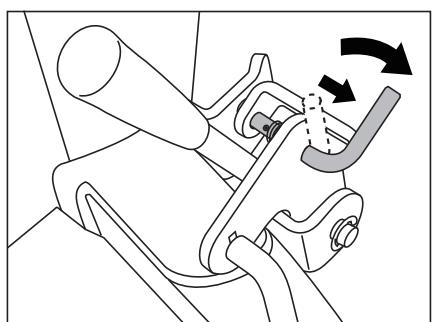


スタンド

3. オートヒッチアームのロック解除

作業機をリフトアップしてから、ロックピンを引いて、イラストのようにロックが解除される位置へセットしてください。

レバーをトラクタ側に倒し、フックが開いた状態にしてください。



▲ 注意

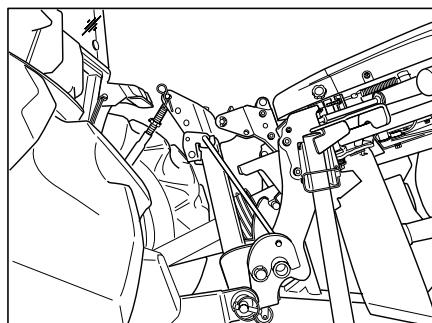
レバーを倒した状態にしたまま、油圧を上下しますとレバーとトラクタが干渉する場合がありますので、干渉に注意して装着を行ってください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げてからレバーを操作してください。

4. 作業機を下げる

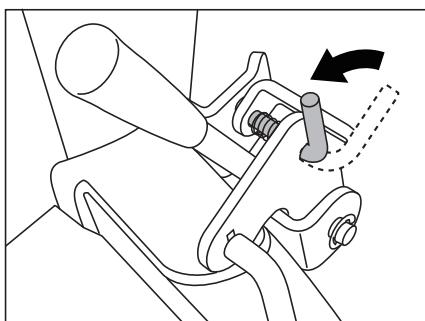
ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるときロアーフック部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。

◆外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度、動作をやり直してください。



▲ 注意

トラクタから作業機を外し、オートヒッチを作業機に取付けて格納する場合には、レバーに付いているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に必ず挿入して、オートヒッチの落下防止を行ってください。



トラクタへの装着と取外し 標準3P直装

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

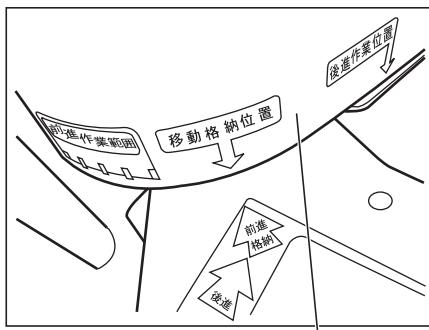
トラクタに装着されているロータリを取り外してください。標準3点リンク用の長いトップリンクを準備します。(トラクタの取扱説明書をご確認ください。)

2. 作業機の確認

作業機が「移動・格納位置」状態にあるか確認してください。格納・移動位置以外では、安全に装着することができませんので、補助具(ハイストなど)を使用し作業機のバランスを保ってください。

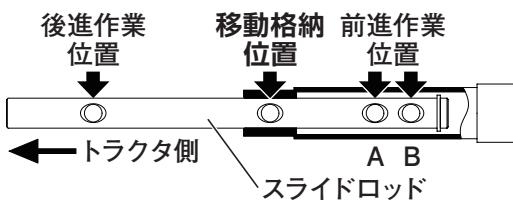
* RS752F(電動仕様)の場合、チェンカバーラベルの矢印が移動・格納位置に合っているか確認してください。

トラクタ側から見た図



オフセットチェンカバー

* RS752(C)(手動仕様)の場合、スライドロッド穴位置が移動・格納位置であるか確認してください。



2 トラクタへの装着

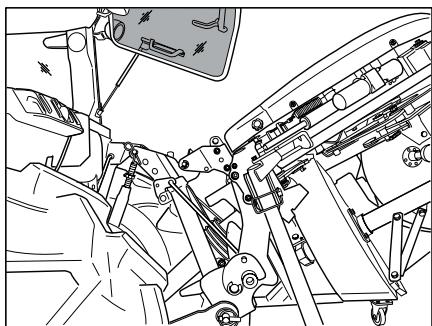
▲ 警告

1. 作業機の装着は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
5. 作業機を装着する際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」にしてください。
6. トラクタ型式及び装着方式によりフロントウエイトが必要になります。フロントウエイト装着表 P30～P31を確認の上、トラクタメーカーの純正ウエイトを取付けてください。

1. トラクタにより、装着順が異なります。お手持ちのトラクタ及び純正ロータリの取扱説明書に従って装着してください。
 - ①ロアーリングを取付けてください。
 - ②トップリンクを取付けてください。

取扱上の注意

- 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。



- トラクタによっては、スイッチを押すと自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。

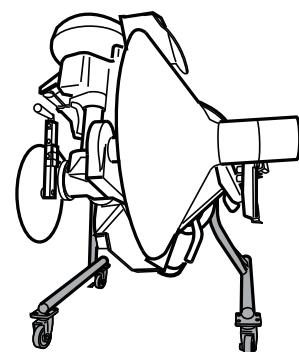
- トップリンクやロアーリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。

- 水平制御装置付トラクタの場合は、作業機を持上げた際、手動で左右に傾けてトラクタと作業機が干渉しないことを確認して下さい。(操作方法はトラクタの取扱説明書をご覧下さい。)

作業機が接近しすぎる場合は、10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

2. スタンドの取外し

スタンドを固定しているロックピンを抜き取り、スタンドを持ち上げてから取外してください。



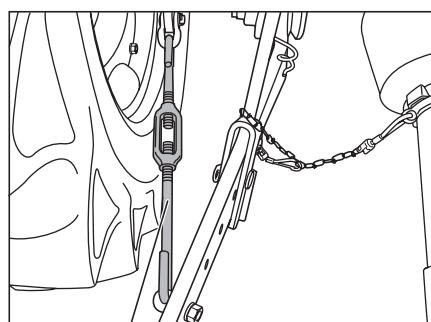
3. ジョイントの取付け

作業機を下げる付属のジョイントを取付けてください。取付け手順はP27～P29を参照してください。

4. チェックチェンの調整(左右の振れ)

作業機のPICとトラクタのPTO軸が一直線になるように左右のチェックチェンを調整します。

横振れが5mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。



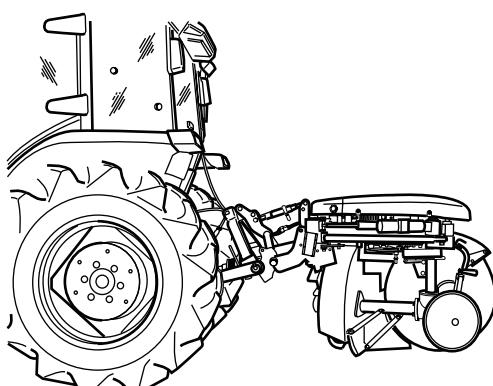
チェックチェン

▲ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

5. 作業姿勢の調整

作業機を接地させ、オフセットアームが地面に対して水平になるようにトップリンクを調整してください。



6. リフトロッドの調整(左右の水平)

油圧を下げる、後方から見て作業機が左右水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

7. ジョイントの異音について

ジョイントはトラクタの PTO 軸と作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置で高さ規制を行ってください。

3 トラクタからの取外し

▲ 警告

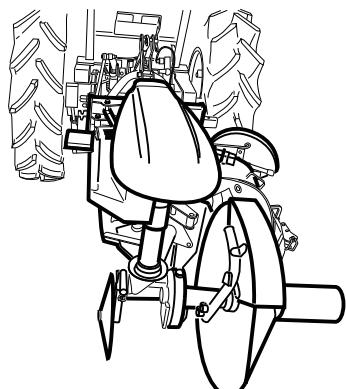
1. 作業機の装着は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。
5. 作業機を取外す際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを「中立」にしてください。

▲ 危険

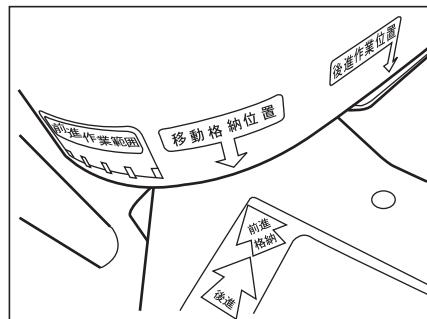
スタンドの取付けは作業機を格納位置にした状態で行ってください。作業機が「格納・移動位置」以外の状態でスタンドを取付けると、トラクタから取外した際に作業機のバランスが悪く、転倒する恐れがあり危険です。

1. 作業機を移動・格納位置にする

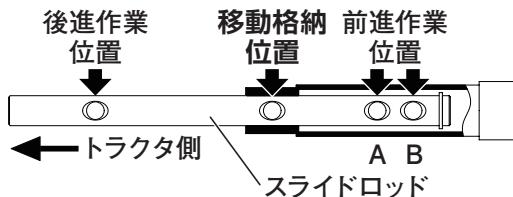
作業機を下図のように移動・格納位置にしてください。



※ RS752F (電動仕様) の場合、チェンカバーラベルの矢印が移動・格納位置に合っているか確認してください。



※ RS752 (C) (手動仕様) の場合、スライドロッド穴位置が移動・格納位置であるか確認してください。



2. ジョイントの取外し

作業機を下げてジョイントを取り外してください。

3. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、作業機両端のブラケットにキャスタースタンド L / R を取付け、ロックピンで固定します。

※ スタンドは、作業機を「移動・格納位置」にした状態で取付けてください。

4. トップリンクの取外し

作業機を下げ、トップリンクがフリーになる位置でトップリンクを外します。

5. ロアーリンクの取外し

作業機をさらに下げ、ロアーリンクがフリーになる位置でロアーリンクを外します。

ジョイントの取付け準備と取付け方法

1 ジョイントの取付け準備

標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表P71～P78を参照の上、切断長さを確認してからチューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

▲ 注意

長すぎるジョイントを装着しますと、トラクタのPTO軸と作業機の入力軸を突き、破損させます。又、短かすぎると、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します。

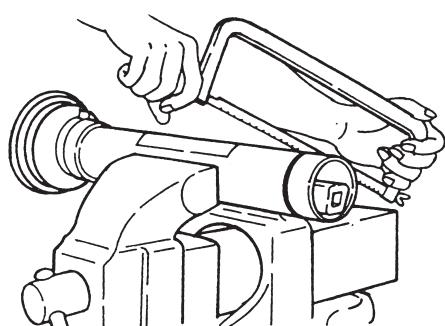
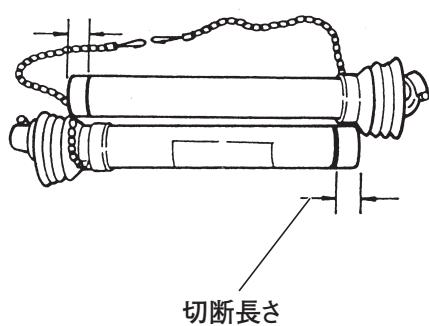
2 切断方法

▲ 注意

高速カッターを使用するときは、保護具を着用し十分注意して作業を行ってください。高速カッターは回転が速く、怪我をする恐れがあります。

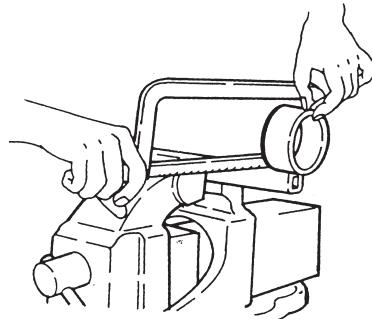
1. セフティカバーの切断

セフティカバーのオス、メス両方長い分だけ切断します。



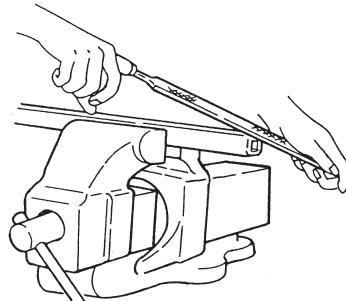
2. チューブの切断

切取ったセフティカバーと同じ長さをチューブの先端から測り、金ノコまたは高速カッターでオス、メス両方切断します。



3. 切り口の処理

切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取り除きます。グリスを塗布して、オス、メスを組み合わせます。



3 取付け方法

▲ 警告

ジョイントを取付ける際は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立レバー」にし、エンジンを停止させてから行って下さい。

4セットと3セットでは取付けの順番が違います。

4セットの場合

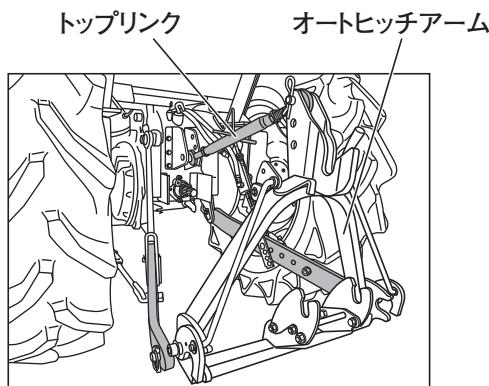
作業機を取付ける前にジョイントを取付けます。作業機を装着するとジョイントも同時に装着されます。

3セットの場合

作業機を装着した後に、ジョイントを手作業で装着せます。

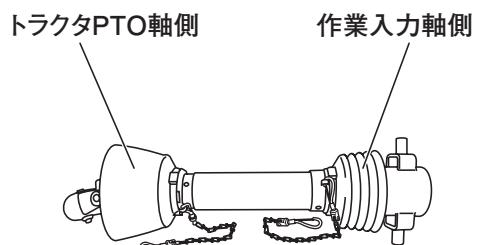
1.4 セットの取付け

- ①トラクタのロアーリンクが地面と水平になるようにポジションコントロールレバーで調整してください。

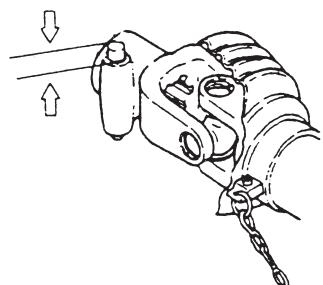


- ②4S用ジョイントのサポート側をオートヒッチアームのサポートプレートの上にのせ、広角側のノックピンを押しながらPTO軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めとします。

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。また、ピンの「頭が10mm以上」でているか確認してください。



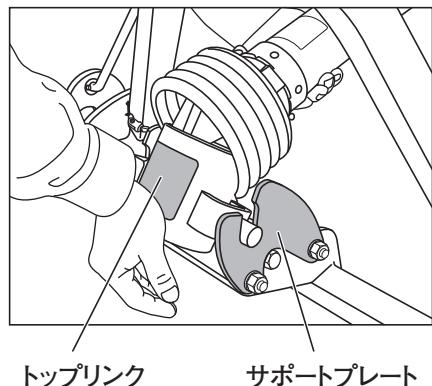
10mm以上出ている
のが正常です



▲ 注意

ジョイントは叩いて強引に入れれないでください。
破損の原因となります。

- ③ジョイント（サポート側）のラベルを上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。



▲ 注意

サポート側を取付ける際は、手を挟まないように注意してください。ケガをする恐れがあります。

2.3 セットの取付け

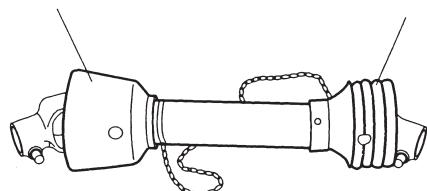
3セットのジョイント取付けは作業機装着後に行います。

- ①作業機を装着してから、ポジションコントロールレバーで作業機を下げてください。

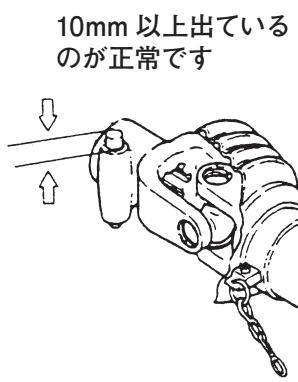
②広角側のノックピンを押しながら、トラクタのPTO軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めとします。

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。また、ピンの「頭が10mm以上」でているか確認してください。

トラクタ PTO 軸側



作業機入力軸側



取扱上の注意

ジョイントの取付けは、広角側をトラクタPTO側に挿入してください。逆に取付けると破損の原因につながります。

③作業機入力軸側のノックピンを押しながら、作業機の入力軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めとします。

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。また、ピンの「頭が10mm以上」でているか確認してください。

4 長さの確認

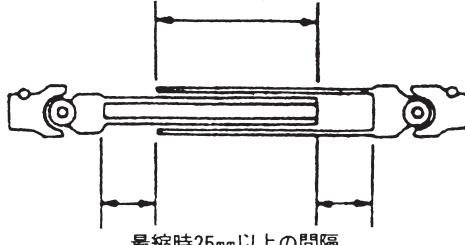
取扱上の注意

トラクタ側のトップリンク、ロアーリンクの取付け穴位置とトップリンクの長さは指定の穴位置、長さに調整してからジョイント長さの確認を行ってください。

1. ジョイント取付け後、油圧をいっぱいに下げてから、徐々に油圧を上げて、ジョイントが一番縮んだ状態のとき、PTO軸、入力軸を突き上げていないことを確認してください。
軸を突き上げそうな場合はジョイントを切断してください。

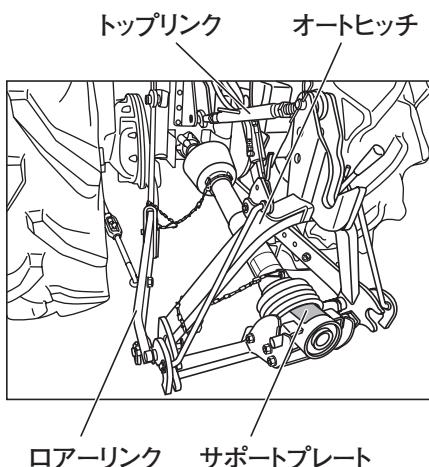
2. 油圧を上下して最伸時と最縮時のカバーの隙間を確認してください。

最伸時80mm以上の重なり(Sヒッチ)



最縮時25mm以上の間隔

ジョイントのセフティカバーのチェンをトラクタの3点リンクが動いても引っ張られない箇所につなぎます。チェンはたるみを持たせてつないでください。



フロントウェイト装着表

畦塗り機はオフセット作業機です。トラクタ型式及び装着方式によりフロントウェイトが必要になります。
必ず、必要枚数、および重量をご確認の上、ご購入先にご相談ください。
フロントウェイト必要枚数（ロップス仕様は、下記数量より1枚追加してください。）

トラクタ形式		ウェイト必要枚数	
		トラクタ側・特3P	左以外の装着方式
		作業機側：B(U)	
KB	17X、19X、19XPC	装着不可	25kg × 5※1
	21X、23X、21XPC、23XPC		
KT	215(J)、235(J)、255(J)、285、T245	25kg × 2	25kg × 3
	285J、305	25kg × 1	25kg × 2
	215PC、235PC、255PC、285PC	25kg × 3	25kg × 3
KL	24R	25kg × 1※2	25kg × 1※3
	27R	なし	なし

※1 ロップス仕様のフロントウェイトを示しています。

※2 トラクタ側がW3Pの場合、フロントウェイトを25kg × 2装着してください。

※3 ロップス仕様でトラクタ側がW3Pの場合、フロントウェイトを25kg × 2装着してください。

トラクタ形式		ウェイト必要枚数	
		トラクタ側・特3P	左以外の装着方式
		作業機側：A2(T)	
EF	116、118、120、122	—	30kg × 4※1
CT	118、122	—	30kg × 4※2
EG	220、222、224	30kg × 2	30kg × 2
	227、230、	30kg × 1	30kg × 1
	326、328、330	なし※3	なし※3

※1 ロップス仕様のフロントウェイトを示しています。

※2 ロップス仕様のフロントウェイトを示しています。CT122(キャビン仕様)もフロントウェイトを30kg × 4装着してください。

※3 ロップス仕様もフロントウェイトは必要ありません。

トラクタ形式		ウェイト必要枚数	
		トラクタ側・特3P	左以外の装着方式
		作業機側：A1(S)	
TH	205	—	15kg × 4※1
	235、265	なし※2	なし※2
	235C、265C	25kg × 3	25kg × 3
AT	240、260、280	なし	なし
ATK	220、250	なし	なし※1

※1 ロップス仕様のフロントウェイトを示しています。

※2 ロップス仕様はフロントウェイトを15kg × 2装着してください。

トラクタ形式		ウェイト必要枚数	
		トラクタ側・特 3P	左以外の装着方式
		作業機側:B (MU)	
GS	210、230	30kg × 2	30kg × 3
	250	30kg × 2	30kg × 2
GSK	235、265	30kg × 3	30kg × 3
GJ	24	30kg × 3 *1	30kg × 3 *1
	27	30kg × 2	30kg × 2
	30	30kg × 1	30kg × 1
GO	261、281、301	30kg × 1	なし
GCR	18、22	—	30kg × 4

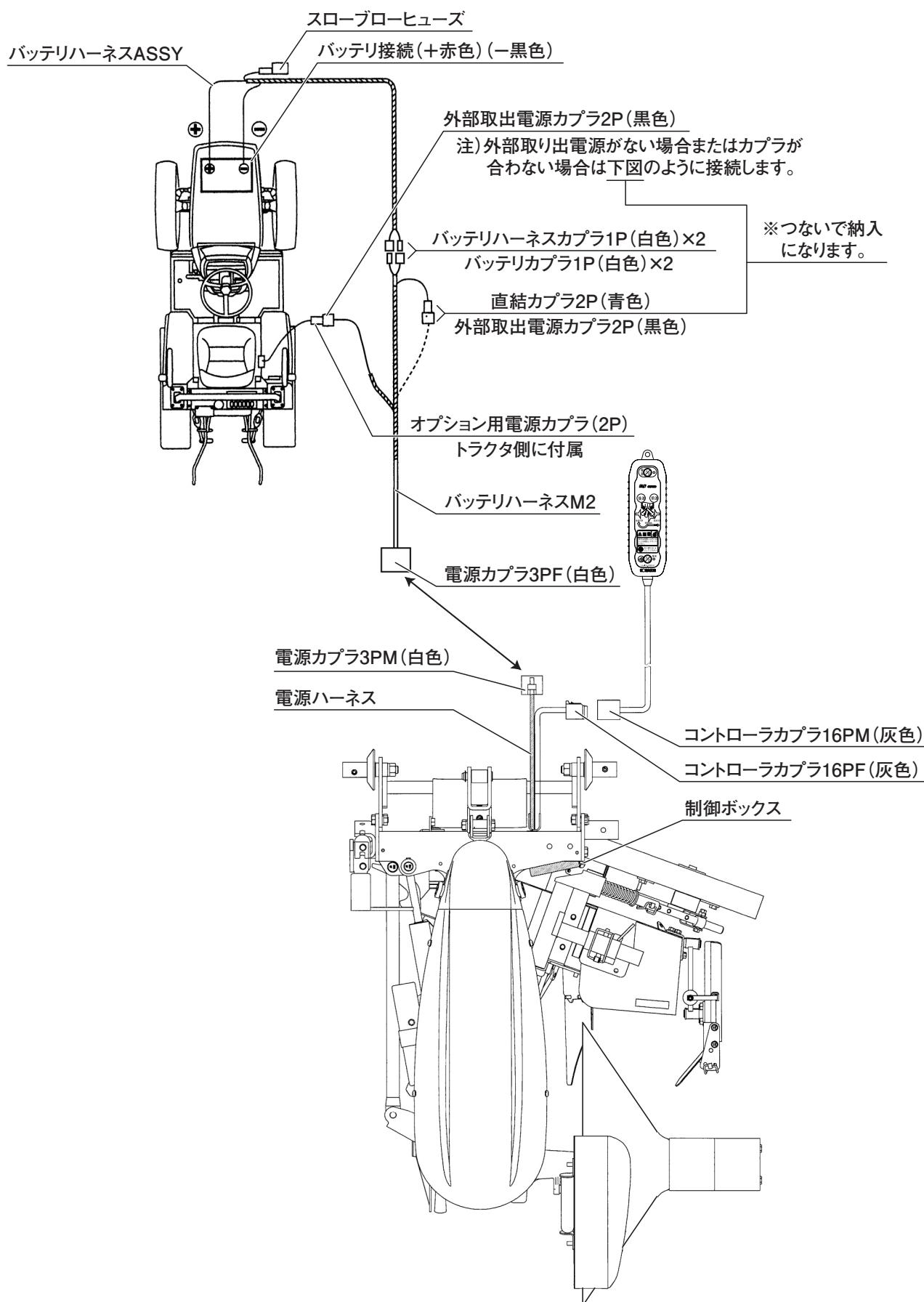
※1 ロプス仕様のフロントウェイトを示しています。

1. トラクタ後部に作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる荷重が総重量の25%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。

▲ 警告

2. 前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります（詳細は購入先にご相談ください）。
2. 移動の際は、必ず作業機を移動位置（格納位置）にしてから移動して下さい。

トラクタへの電源接続と配線 RS752F: 電動仕様



配線接続方法及び取付方法

RS752F: 電動仕様

1 配線接続

作業機側カプラからトラクタのバッテリハーネスへの接続をバッテリハーネス M2 で行います。

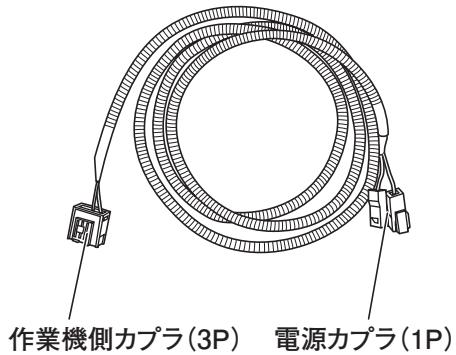
▲ 注意

ぬれた手で配線接続作業を行わないでください。感電する恐れがあります。

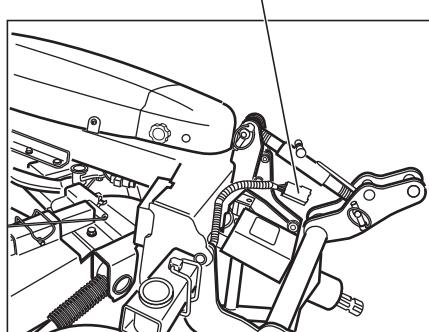
1. バッテリハーネス M2 と接続する

ハーネス M2 の 3P カプラと作業機のマスト付近にある電源ハーネスのカプラを接続してください。

バッテリハーネスM2

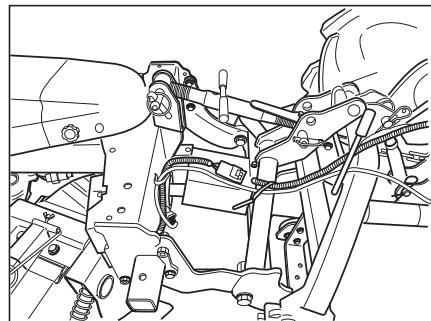


バッテリハーネスM2と接続する



2. バッテリハーネス M2 の取回し

バッテリハーネス M2 をオートヒッチアームとトップリンクに沿わせて束線バンドで固定し、トラクタ後部のグロメットに通します。

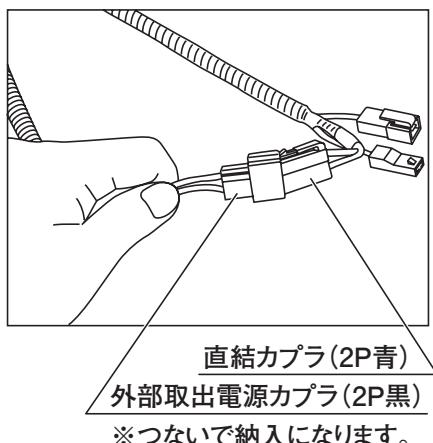


▲ 注意

1. バッテリハーネス M2 をトラクタ後部のハーネス取出し穴に通す場合、必ずグロメット（ゴムキャップ）の中を通してください。
2. グロメットがふさがれている場合、カッター等で切り、その中を通してください。
3. グロメットを外してハーネスを通すとハーネスが鋭利なコーナーで切断され、ショートする場合があります。

取扱上の注意

- この制御ボックスには専用の電源スイッチはありません。トラクタのバッテリからの電源接続と、トラクタ後部にある外部取出し電源の両方の電源を接続してください。この両方の接続をすることによって、トラクタのキースイッチをオン／オフの操作でコントローラーの電源が入り切りできます。但し、キースイッチと外部取出し電源が連動していないトラクタがあります。(詳しくはトラクタの取扱説明書をご覧ください)。その場合、トラクタのキースイッチをオフにしてもコントローラーの電源は切れないため、作業終了後は必ず本機ヒッチ部にある電源カプラを外してください。また、バッテリに接続しないでトラクタの外部電源のみで使用すると、トラクタ側のヒューズが切れます。
- トラクタに外部取出し電源が無い、またはカプラが合わない場合は納入状態のバッテリハーネス M2 の直結カプラ (2P 青) と外部取出し電源カプラ (2P 黒) が接続された状態で使用ください。
これによって、トラクタのキースイッチのオン／オフに関係なく常時バッテリから電源が供給されます。(この接続を行わないとコントローラーの電源は入りません) トラクタのキースイッチをオフにしても強制的にコントローラーの電源は切れないため、作業終了後は必ず本機マスト付近にある電源カプラ 3P (白色) を外してください。



2 バッテリハーネスASSY取付方法

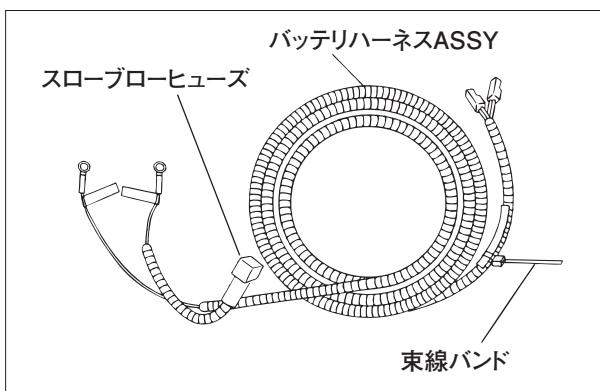
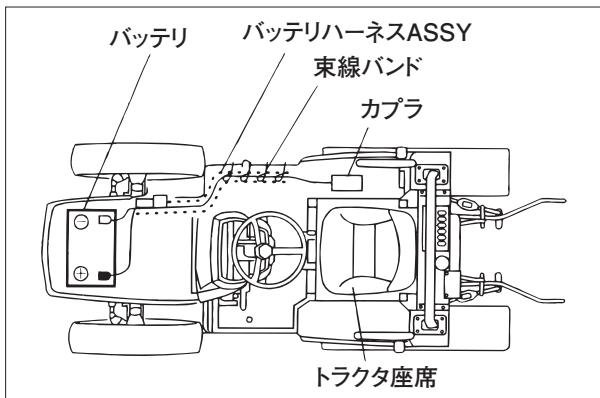
▲ 警告

バッテリハーネス ASSY をバッテリに接続するときは、(+) (-) に注意してください。逆に接続すると、ショートして火災になる恐れがあります。

▲ 注意

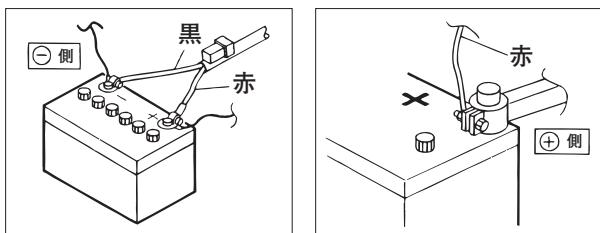
- バッテリハーネス ASSY、バッテリハーネス M2 が損傷している場合は、絶対に使用しないでください。(守らないとショートする恐れがあります)
- 接続できるバッテリ電圧は 12V です。24V のバッテリには絶対に接続しないでください。あやまって接続すると、制御ボックス等を破損し、ショートする恐れがあります。
- ぬれた手でバッテリや接続部に触れないでください。あやまって触れると、感電する恐れがあります。
- バッテリ (+) 端子への取付け及び取外し作業は、アース側の (-) 側ケーブルがタミナルから取外されていることを確認した上で、行ってください。守らないと工具等がトラクタのボディに当たった場合にショートして危険です。
- 長期間使用しない場合は、必ずトラクタのバッテリからバッテリハーネス ASSY、バッテリハーネス M2 を取外して保管してください。守らないとハーネスを損傷し、ショートする恐れがあります。
- バッテリハーネス ASSY、バッテリハーネス M2 の取付け及び取外し手順は、必ず取扱説明書通りに行ってください。守らないと工具等がトラクタのボディに当たった場合にショートします。

1. バッテリへの取付け



- ① トランクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。
- ② バッテリに取付けられているアース側の(−)側ケーブルをターミナルから取外してください。
- ③ バッテリハーネス ASSY の(+)側(赤色線)丸端子を、バッテリの(+)側のターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。
- ④ アース側の(−)ケーブルをバッテリの(−)側ターミナルに取付け、バッテリハーネス ASSY の(−)側(黒色線)丸端子を、バッテリの(−)側ターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。

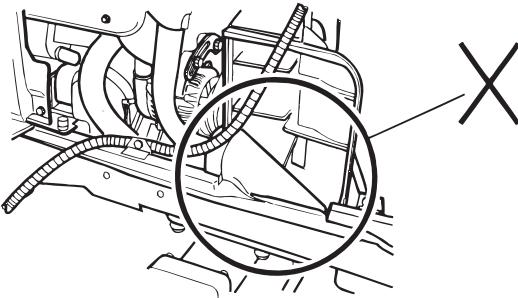
(+) 側詳細図



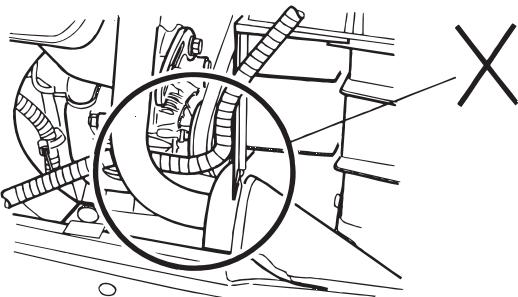
- ⑤ ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトランクタに固定してください。

▲ 注意

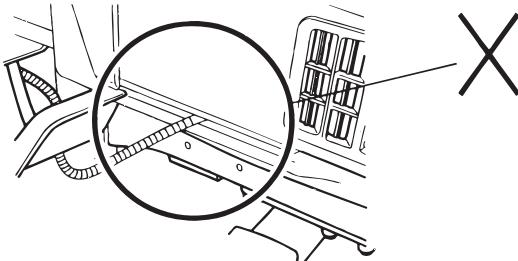
1. トランクタの高温部箇所(マフラー等)には、バッテリハーネス ASSY を取付けないでください。高温でバッテリハーネス ASSY が溶けて危険です。



2. 回転物(ファンベルト、冷却ファン等)や可動するものに接触しないように取付けてください。バッテリハーネス ASSY が切れてショートする恐れがあります。

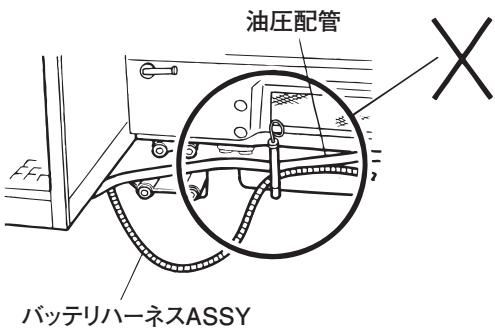


3. バッテリハーネス ASSY が鋭利なものに接触したり、カバー、シート、キャビンのドア等に挟み込まれないように取付けてください。ハーネスの被覆がはがれて危険です。

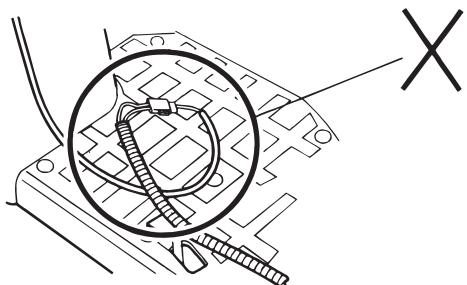


4. トランクタフレームの下側にバッテリハーネス ASSY が垂れ下がった状態にしないでください。障害物に引っかかりショートする恐れがあります。

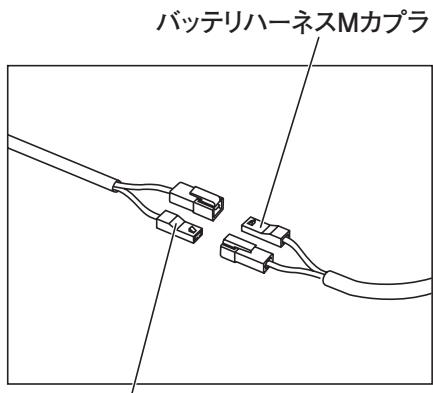
5. 油圧配管にバッテリハーネス ASSY を固定しないでください。



6. トラクタ可動部にバッテリハーネスASSYを固定しないでください。バッテリハーネスASSYが切れてショートする恐れがあります。
7. 運転席の足元でバッテリハーネスASSYがたるまないように固定してください。たるんではいると足に引っかかりショートする恐れがあります。ハーネス部及びカプラ部は足で直接踏み付けられるような場所に配線しないでください。またカプラ付近での固定を確実に行ってください。



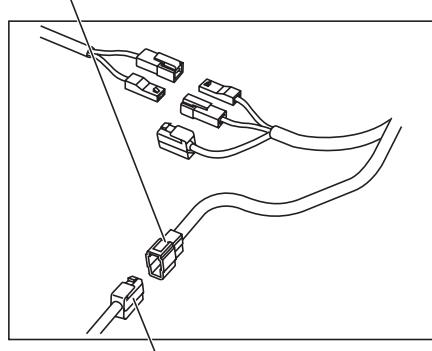
- ⑥バッテリハーネスASSYのカプラをバッテリハーネスMのカプラに取付けてください。



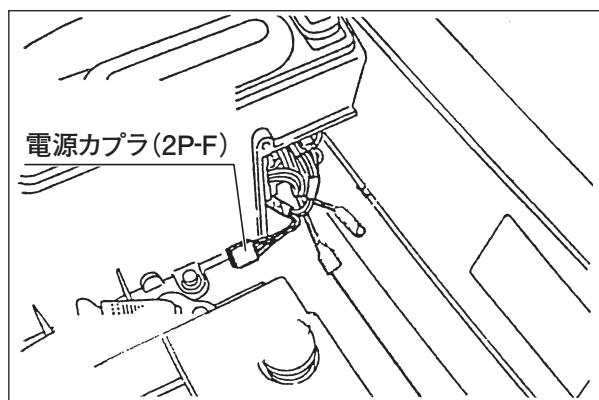
バッテリハーネスASSYカプラ(白)

⑦トラクタの外部電源カプラをバッテリハーネスM2のカプラに取付けてください。

外部電源取出カプラ(黒)

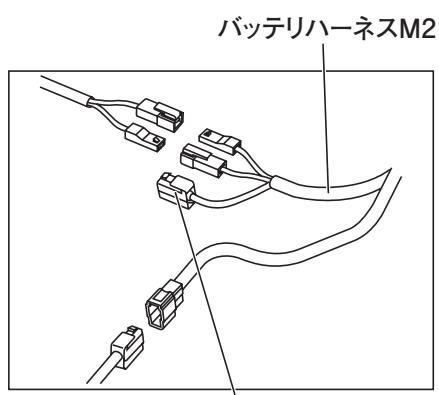


トラクタ側電源カプラ



電源カプラの位置はトラクタにより異なります。

※バッテリとトラクタ外部電源取出しの両方を接続した場合、直結カプラは使用しません。



直結カプラ(青)

※直結カプラ(青)は外部電源カプラ(黒)とつないで納入になります。

○なおバッテリハーネスASSYでバッテリまで届かない場合は、延長用のハーネスキットBを使用してください。

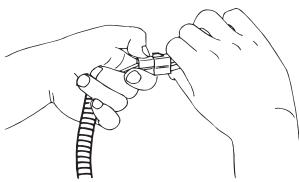
(オプション=品目コード:7662496、長さ:1.5m)

2. バッテリからの取外し

- ① トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。
- ② ハーネス M2 のカプラ部を取り外してください。

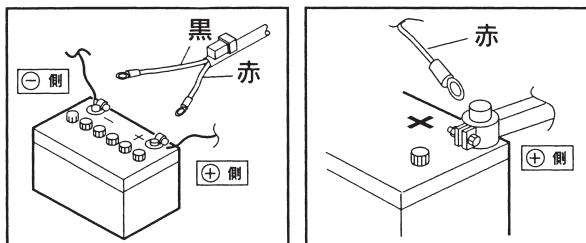
▲ 注意

カプラを取り外す場合は、ロック用の爪部分を押さえながら取り外してください。この時、絶対に配線を引っ張って取り外さないでください。守らないとカプラが破損し、端子が剥き出しになりショートして危険です。

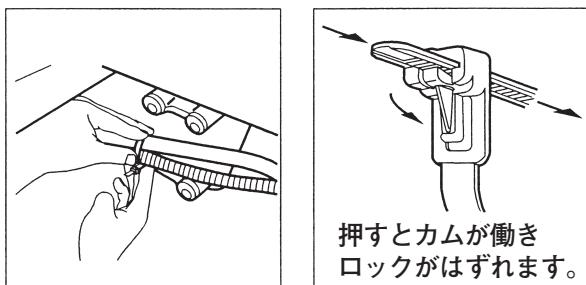


- ③ バッテリに取付けられているアース側の(−)側ケーブルをターミナルから取り外してください。
- ④ バッテリハーネス ASSY の(+)側(赤色線)丸端子を、バッテリの(+)側ケーブルから取り外した後、ネジを元通りに確実に締め付けてください。

(+) 側詳細図



- ⑤ バッテリハーネス ASSY の(−)側(黒色線)丸端子をバッテリの(−)側ケーブルから取り外してください。
- ⑥ アース側の(−)ケーブルをバッテリの(−)側ターミナルに取付けた後、ネジが確実に締まっていることを確認してください。
- ⑦ 束線バンドを取り外してから、バッテリハーネス ASSY を取り外してください。



※ハサミ等で切らないでください。

- ⑧ 取外した部品は、安全な場所に大切に保管してください。

3. スロープロヒューズについて

- ・スロープロヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
- ・もし切れた場合は、すみやかに購入された販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
- ・交換する時は、必ず純正部品を使用してください。(品目コード: 7662494, 部品名: スロープロヒューズ 規格 60A)
- ・ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止し、スイッチボックスの電源を切った上で行ってください。
- ・交換後は元通りにカバーを閉じてください。

4. 格納

作業終了時は作業機側の電源カプラを取り外してください。

バッテリハーネス M2 のカプラは水が掛かったりショートしないようにトラクタ内に引き込んで保護してください。

長期間使用しない時はバッテリハーネス M2 をトラクタから取り外し大切に保管してください。
(バッテリハーネスを使用している場合はバッテリハーネスも取り外して大切に保管してください。)

コントローラの取付／操作方法及び注意事項 RS752F: 電動仕様

取扱上の注意

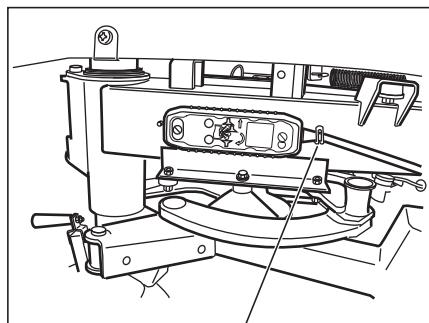
- 精密部品ですので落としたり、トラクタのシートに挟みこんだり、激しい振動を与えないでください。
- 樹脂部品のため溶剤（ガソリン、灯油、シンナー等）をつけないでください。割れたり、溶けたりすることがあります。

1 コントローラの取付

取扱上の注意

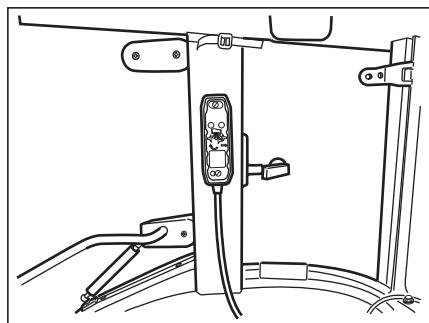
高温になる場所への設置はしないでください。

- コントローラは制御ボックスに接続された状態でオフセットアームに取付られています。ハーネスのクランプを外し、コントローラを取り外してください。



クランプ

- コントローラの裏側にはメンファスナテープ（オス・メス）が貼り付けてあります。



①取付け面の清掃、脱脂を行います。

（取付け面に汚れ、油などが付着しているとテープの粘着力がなくなり剥がれやすくなります。）

②メンファスナテープの保護フィルムを剥がし、ピラー・フェンダー等に貼り付けてください。

③コントローラをメンファスナテープに押し付けます。

※コントローラのハーネスを分割する場合

コントローラは制御ボックス付近にあるカプラ（16P）で分割できるようになっています。

コントローラのハーネスをグロメットに通したいたいなどはハーネスを分割し、カプラをグロメットに通して下さい。

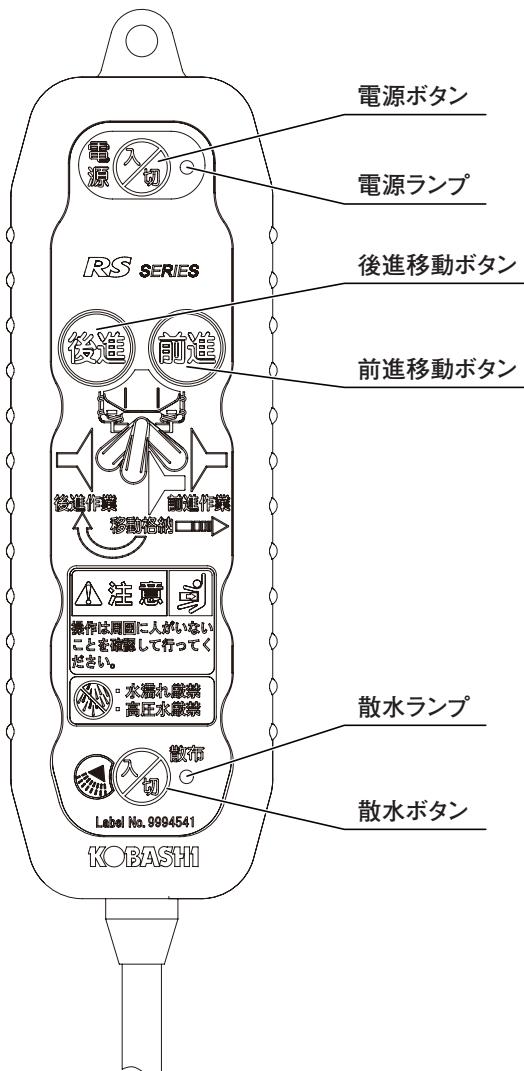
取扱上の注意

- カプラを外す際はカプラを持って外して下さい。ハーネスを引っ張ると断線する恐れがあります。
- カプラは、不必要に分割しないで下さい。接触不良をおこし、作動不良の原因になる恐れがあります。

2 各ボタン名称と機能

▲ 注意

1. 各スイッチ操作を行うときは必ず周囲に人がいないか安全を確認してからコントローラ操作を行ってください。機械との接触等によりケガをする恐れがあります。
2. コントローラ操作は必ず停車して行ってください。移動中に操作をすると転倒する恐れがあります。
3. コントローラ操作は急な坂道や不安定な場所でなく、平坦で地盤がしっかりした場所で操作を行ってください。
4. 作業終了後は必ずコントローラの電源をOFFにしてください。
5. キャスタースタンドは必ず取外した状態で操作を行ってください。取付けた状態で操作を行うと転倒防止フックが変形し、左側スタンドが取り付けできなくなります。
6. トラクタから外した状態（作業機単体）でコントローラ操作はしないでください。
7. 洗車時は、水に濡れないように保護をして下さい。また、高压洗車機を使用する場合は、高压水が直接かかるないようにして下さい。



電源ボタン

押すごとに電源を入り切りすることができます。

電源ランプ

電源がONになると点灯、OFFになると消灯します。

前進移動ボタン

作業機を前進作業方向へオフセットします。

後進移動ボタン

作業機を後進作業方向へオフセット（押し続けるとリバース作業位置へ機械が旋回します。）

※ 前進移動ボタン、後進移動ボタンは押している間動作し、離すと止まります。

散水ボタン

押すごとに散水装置を入り切りすることができます。（オプションの散水キットを取り付けた場合に使用します。通常は「切」にしてください）

散水ランプ

散水がONになると点灯、OFFになると消灯します。

作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、普段の保守、点検と機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。作業前に必ず点検を行ってください。

点検項目は「保守・点検」の作業前点検（P61）を参照して行ってください。

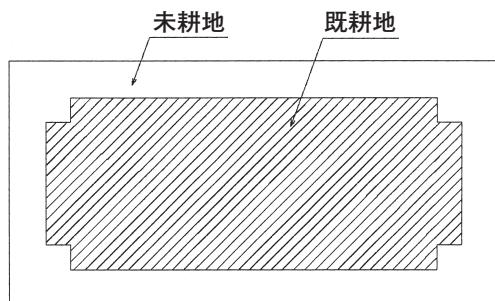
▲ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 作業機単体で点検を行う場合、キャスタス タンドのロックを行ってください。
3. 作業機をトラクタに装着してから点検を行う場合は、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
4. 作業機は地面に下ろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する場合は、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

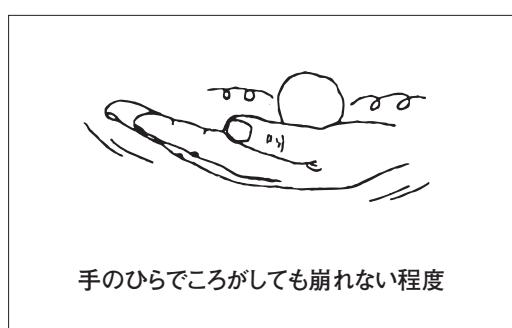
圃場の準備

1. 仕上がりの良い畦を塗るため、畦際の草、飛散ワラを取り除いてください。また、石等の障害物がありましたら機械が傷み、故障、事故の原因となりますので、取り除いてください。

2. 圃場は耕うんしないでください。耕うんするとトラクタが沈み込み直進性、旋回性が悪くなります。また、土量や水分量が安定せず均一な畦を成形することができなくなります（特に畦際が片培土され溝がある状態は土量が足りなくなります）。耕うんする場合は、下図のように、直線部はトラクタ後輪外幅、角部はトラクタ旋回直径幅を残してください。



3. トラクタのタイヤ（ラグ）跡がつかず、土を丸めて手のひらで転がしても崩れない程度の水分量のときに良い畦がつくれます。



4. 特に圃場の角付近の雑草、ワラ、石などは出来るだけ処理してください。

5. 圃場に水が溜まっている時は、水を落として適度の湿りになるまで、乾かしてから作業を行ってください。

6. 畦塗りをした後で雨が降ると畦が柔らかくなり崩れる恐れがありますので、作業を行う際は天候に十分注意して行ってください。

7. 重粘土質で水分の多い圃場、または極端に水分が少ない圃場、極度の砂質の圃場では畦が成形されにくい、もしくは、できません。

移動、圃場への出入り

⚠ 警告

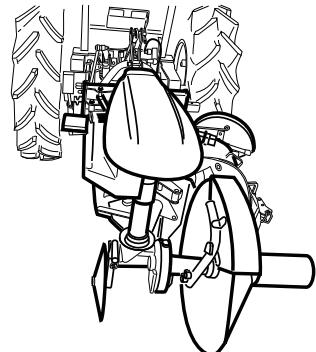
転倒事故を防ぐために以下の内容を必ず守ってください。

1. 移動の際は必ず作業機が移動格納状態(右図参照)になっていることを確認して移動してください。
2. 移動の際は作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、左右のブレーキを連結し、チェックレンジが張れていることを確認してください。
3. トラクタへの積み込みや急な坂では、トラクタの前輪が浮き上がり、ハンドルが利かず大変危険です。必ず指定されたフロントウエイト(P30~31)を装着して、トラクタの取扱説明書に沿って走行してください。
4. 前後、左右に気を配り、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
5. 圃場に入るときは、必ず速度を下げて畦や段差に対して直角に進んでください。畦が高い時は丈夫で滑り止めのあるアルミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。
6. 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通過するときは路肩に注意してください。

⚠ 注意

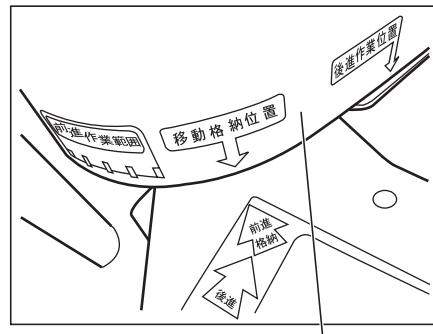
1. 圃場に入るときは、必ず前進、低速で畦や段差に対して直角に進んでください。
2. 傾斜している圃場からでるときは、バックで上がるか、丈夫なアルミ板を使用してください。
3. 畦や段差に対して斜めの方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。アゼローターを低くして重心を下げ、直角に進んでください。
4. アゼローターを下げて前進しますと、前輪が浮き上がりにくくなります。常に前・後輪のバランスを考えながら移動、圃場への出入りに注意しながらトラクタ操作をしてください。
5. 移動時には、トラクタのPTOを「切り」、ニュートラルにして、アゼローターの回転を止めて走ってください。

1. 圃場への出入り及び、移動(格納)する場合は、必ず作業機を下図のように移動格納状態にしてから行ってください。



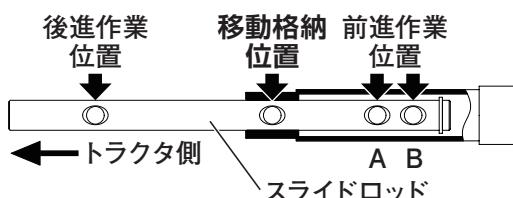
※ RS752F(電動仕様)の場合、チェンカバーラベルの矢印を格納位置に合わせて(→←)から行ってください。

トラクタ側から見た図

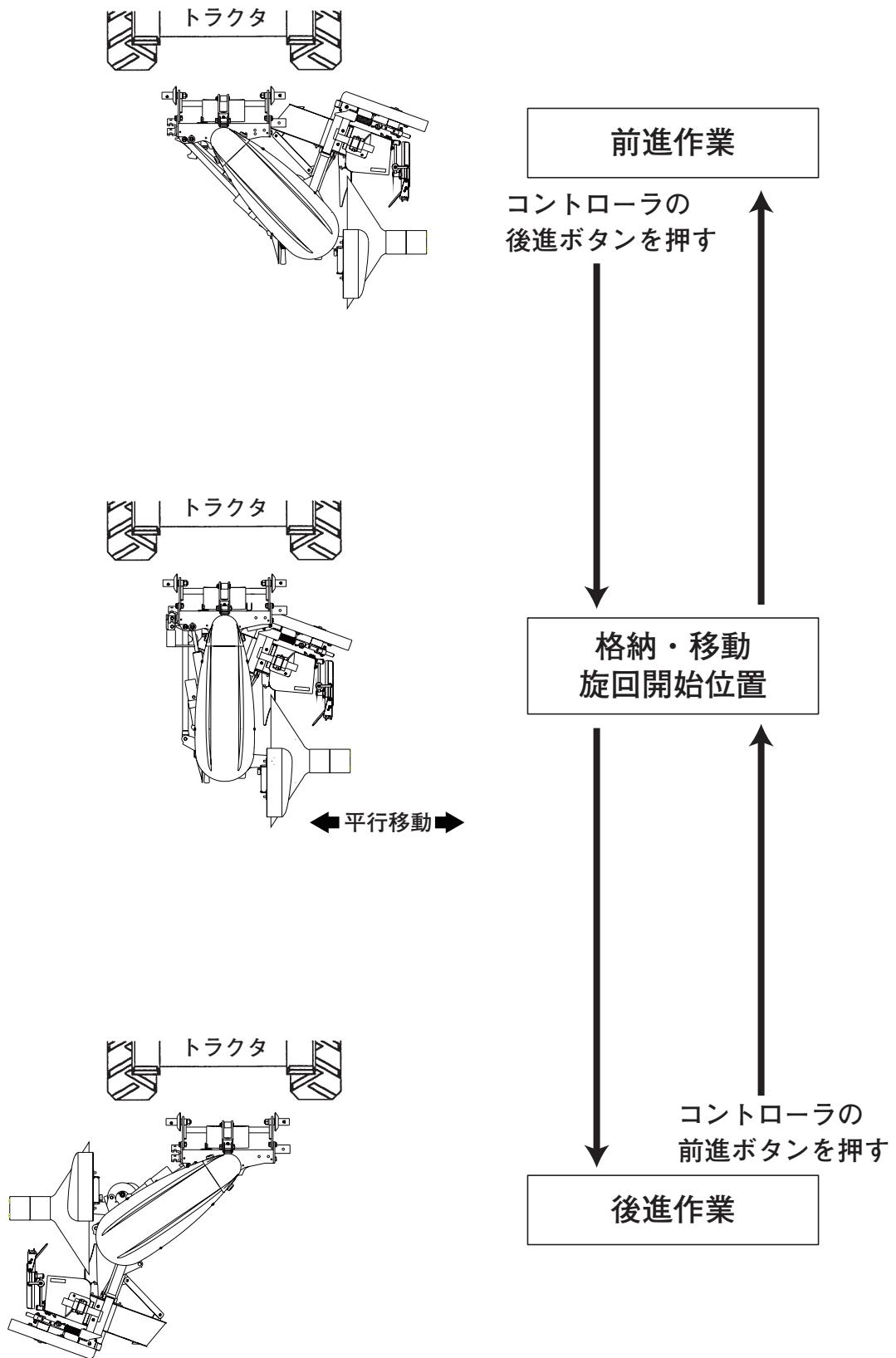


オフセットチェンカバー

※ RS752(C)(手動仕様)の場合、スライドロッド穴位置を格納位置にしてください。



前進作業と後進（リバース）作業の切換え動作 RS752F：電動仕様



前進作業と後進（リバース）作業のセットの仕方 RS752F：電動仕様

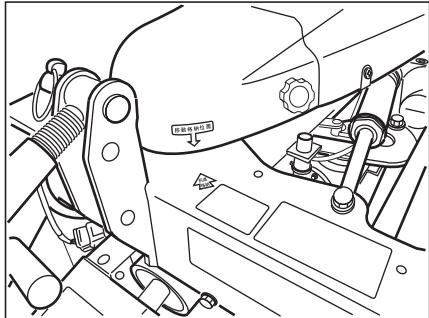
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合

▲ 注意

- 操作時には、必ず周囲に人がいないか確認してから行ってください。事故につながる恐れがあります。
- オフセット操作は、必ずキャスタースタンドを取り外してから行ってください。キャスタースタンドを装着したまま操作及び畠塗り作業をすると、機械が損傷します。

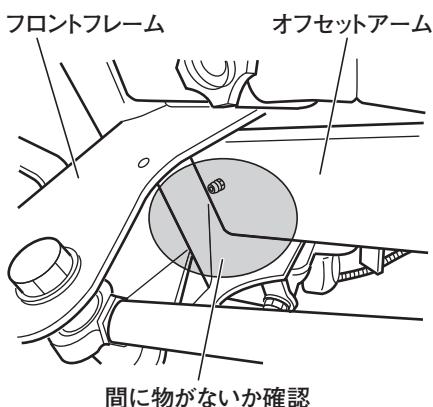
取扱上の注意

下図のように矢印がラベルの「前進作業範囲」「後進作業位置」以外では絶対に作業しないでください。ロックアームがロックされていない為、作業機が破損する恐れがあります。後進作業はオフセット機構はない為、電動シリンダは必ず最縮で使用してください。



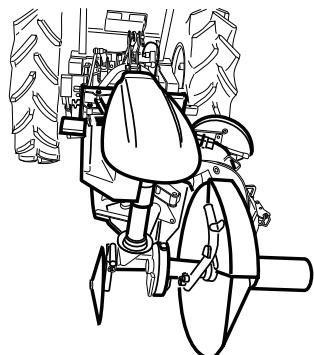
取扱上の注意

- ①オフセット動作時にはフロントフレームとオフセットアームの間（両側）に異物（折損したシャーボルトなどオフセット動作に支障をきたす物）が無いことを確認した上で行ってください。間に異物があるとオフセット動作に支障をきたすため各部のロックができなくなります。



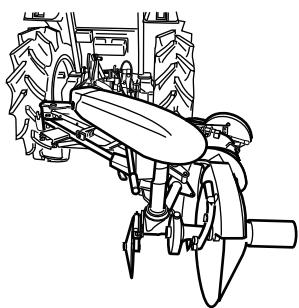
- ②駆動部がロックした状態ではオフセット、リバース動作はできません。動作させる場合はPTOのギアをニュートラルにし、爪軸が完全に回る状態にしてから操作を行ってください。

トラクタ装着時、アゼローターは下図のように移動（格納）状態になっています。

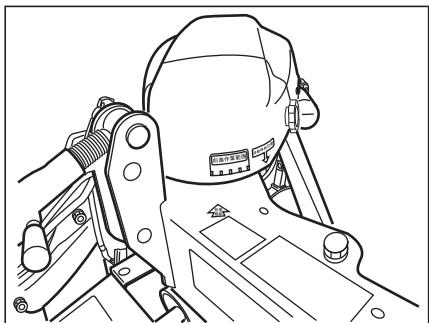


- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。

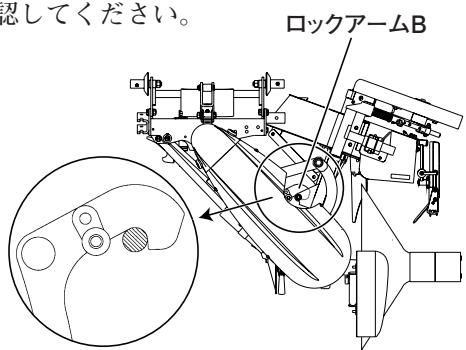
- ②コントローラの「前進」ボタンを押すとアゼローターが平行移動して前進作業状態になります。



- ③前進作業は、チェンカバーラベルの「前進作業範囲」で行ってください。矢印と目盛りを合わせると、同じ位置で作業ができます。



- ④ロックアームBがロックされていることを確認してください。

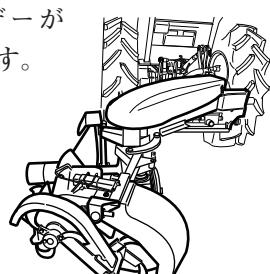


2 前進作業状態から後進(リバース)作業状態にする場合

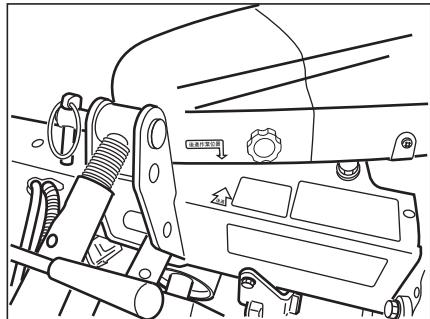
- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。
その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。

- ②コントローラの「後進」ボタンを押すとアゼローターが平行移動→旋回→して後進(リバース)作業状態になります。

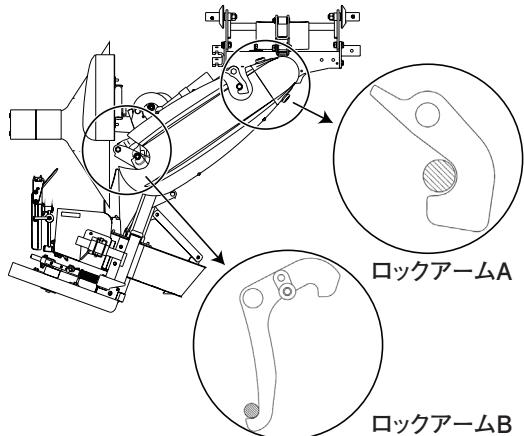
動作中は、ブザーが間欠音で鳴ります。



- ③後進作業はコントローラ「後進」ボタンをオフセットアームが動かなくなるまで押し、ブザーが「ピーッ、ピーッ」から「ピーン」と連続音に変わったらボタンを離してください。また、目安としてチェンカバーの「後進作業位置」に矢印を合わせて行ってください。後進作業でのオフセット調整はありません。



- ④ロックアームA及びロックアームBの両方がロックされていることを確認してください。

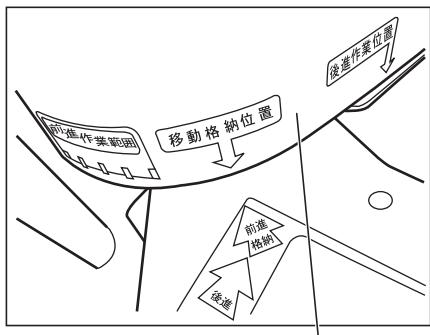


3 後進(リバース)作業状態から移動(格納)状態にする場合

- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。
その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。

- ②コントローラの「前進」ボタンを押してチェンカバーラベルの「移動格納位置」までアゼローターを旋回させて、ボタンを離してください。

トラクタ側から見た図



前進作業状態、後進（リバース）作業のセットの仕方 RS752C、RS752：手動仕様

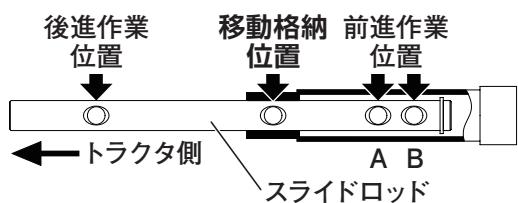
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合

▲ 注意

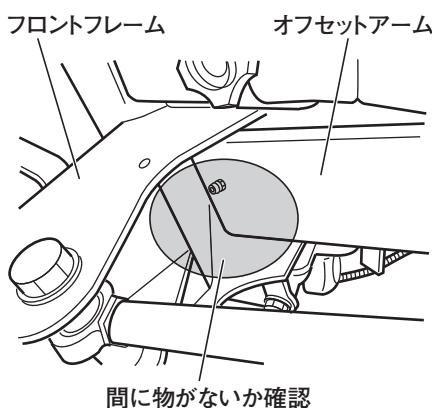
- 操作時には、必ず周囲に人がいないか確認してから行ってください。事故につながる恐れがあります。
- オフセット操作は、必ずキャスタースタンドを取外してから行ってください。キャスタースタンドを装着したまま操作及び畠塗り作業をすると、機械が損傷します。

取扱上の注意

本機はスライドロッドの穴位置で作業範囲が決まっています。「前進作業位置」2ヶ所、「後進作業位置」1ヶ所のみ作業ができます。格納位置での作業は絶対にしないでください。ロックアームがロックされていないため、作業機が破損する恐れがあります。

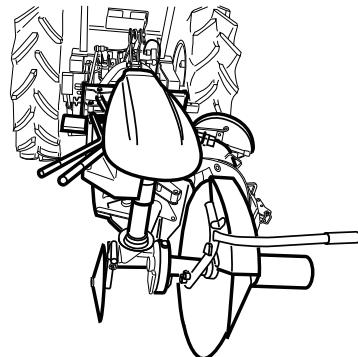


- ①オフセット動作時にはフロントフレームとオフセットアームの間（両側）に異物（折損したシャーボルトなどオフセット動作に支障をきたす物）が無いことを確認した上で行ってください。間に異物があるとオフセット動作に支障をきたすため各部のロックができなくなります。

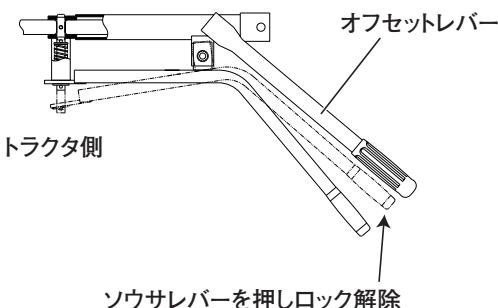
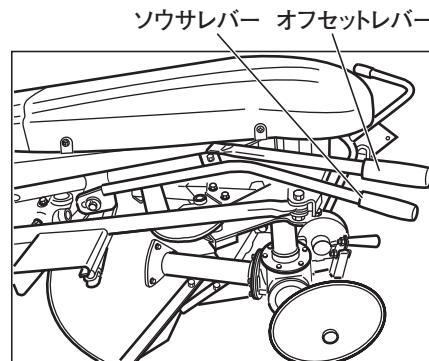


- ②駆動部がロックした状態ではオフセット、リバース動作はできません。動作させる場合はPTOのギアをニュートラルにし、爪軸が完全に回る状態にしてから操作を行ってください。

トラクタ装着時、アゼローターは下図のように移動（格納）状態になっています。

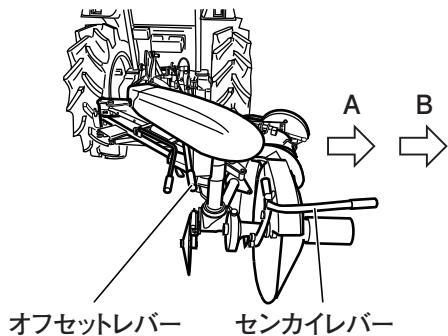


- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。
- ②ソウサレバーを押し、ロックを解除します。

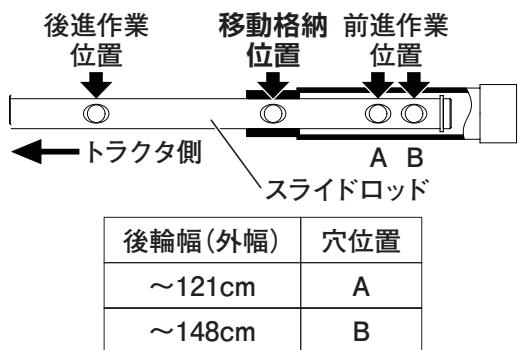


- ③ロック解除後、ソウサレバーを押しオフセットリレバーを離すと、ソウサレバーを離し、オフセットリレバーのみを押してください。作業機をオフセットさせていくと自動でロックされます。最大オフセットさせたいときは同様の操作を行ってください。

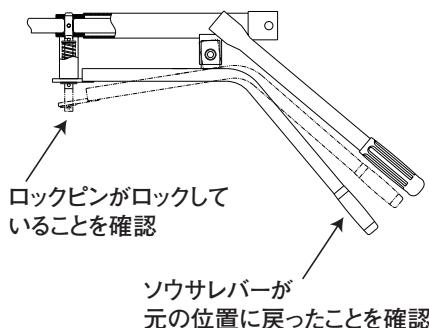
※オフセット操作時…ロック解除後、ドラム側にあるセンカイレバーを押しても構いません。



- ④オフセット幅は2段階に調節できます（下表参照）。トラクタ後輪幅に応じて調節してください。



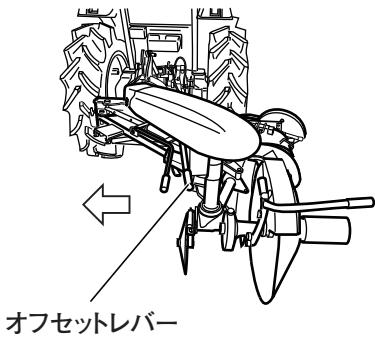
- ⑤オフセット後はソウサレバーが元の位置に戻り、ロックが確実にされていることを確認してください。



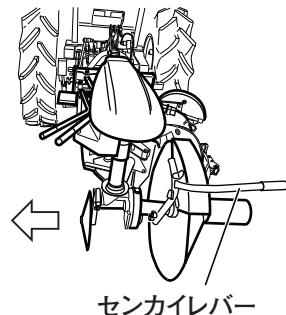
2 前進作業状態から後進（リバース）作業状態にする場合

- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。
- ②ソウサレバーを押しロックを解除します。ロック解除後、オフセットレバーを矢印の方向に引いてオフセットさせます。移動位置付近にきたら、センカイレバーを矢印の方向に引いて旋回させます。（作業機が旋回を始めるまでソウサレバーを離さないでください。）

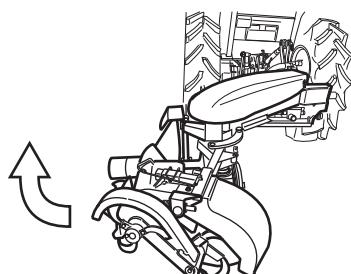
前進作業位置



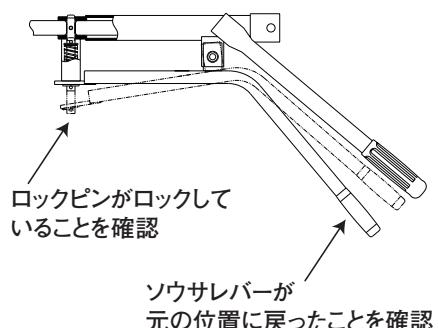
移動位置付近



- ③作業機が旋回を始めたらソウサレバーを離し、ロックされるまでセンカイレバーを引いてください。

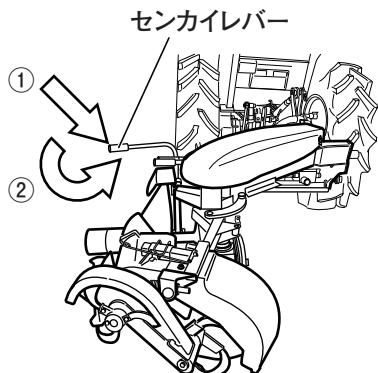


- ④オフセット後はソウサレバーが元の位置に戻り、ロックが確実にされていることを確認してください。

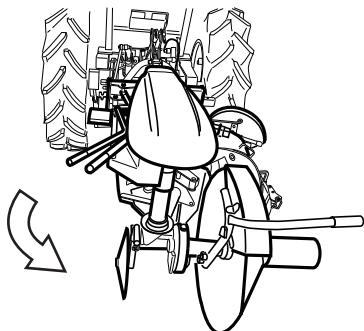


③ 後進(リバース)作業状態から移動(格納)状態にする場合

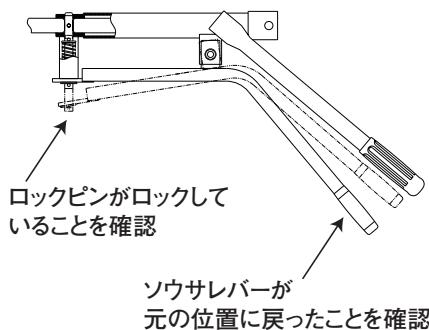
- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。
その際、地面とドラムの高さを20cm程度確保してください。
- ②ソウサレバーを押しロックを解除します。
ロック解除後、センカイレバーを下図の矢印①のように押します。(オフセットチェンカバーに対して垂直方向に押してから、矢印②の方向へ旋回をさせるように押します。)



- ③作業機がオフセットしたらソウサレバーを離し、ロックされるまでセンカイレバーを押してください。



- ④オフセット後はソウサレバーが元の位置に戻り、ロックが確実にされていることを確認してください。



畦塗り作業の仕方

⚠ 警告

1. 作業中は大変危険ですから、トラクタ及び作業機の周辺には、補助作業者や他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整整備する場合、爪軸等への草、ワラ等のからみつきを取り除く場合は、必ずエンジンを切り、トラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO 軸への動力伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 傾斜地、凹凸がある圃場での急旋回は転倒の恐れがあるため、行わないようにしてください。

取扱上の注意

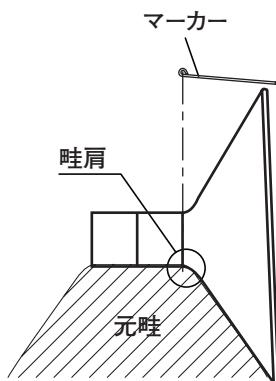
1. PTO「逆転」での作業はしないでください。作業機が破損する恐れがあります。
2. 土地条件に応じた作業速度、PTO 回転速度、作業機の調整を行ってください。
3. メインシャーボルトが切れた場合は、直ちにトラクタを止めエンジンを切り、速やかに交換してください。
4. アゼローターが前進作業状態でトラクタを後進させたり、アゼローターが後進作業状態でトラクタを前進させるといった逆行作業はしないでください。機械が破損します。
5. キャビン付きトラクタの場合、あぜ塗り作業及び、機械の昇降作業を行う時は、必ず、リヤハッチを閉めてください。開けたままでは作業を行うと、トラクタによっては作業機が干渉し、リヤハッチを破損させる恐れがあります。

1 作業前の各部の調整

畦の仕上がり状態は、畦の土の状態によって異なりますので、以下の要領で各部の調節を行ってください。

1. アゼローターのセット

- ① トラクタを元畦と平行にし、トラクタのサイドミラーから見てマーカーが元畦のコーナーにくる位置にアゼローターを配置します。



元畦と同じ位置に畦を作る場合 (図 1)

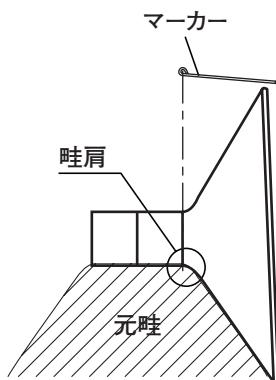
マーカーを元畦の肩に合わせます。

元畦を太くする場合 (図 2)

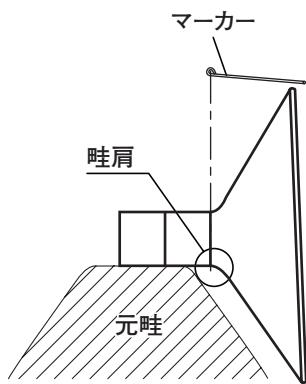
マーカーと元畦の間隔を少し広めにして合わせます。広めにし過ぎると畦が出来ません。

畦を細くする場合 (図 3)

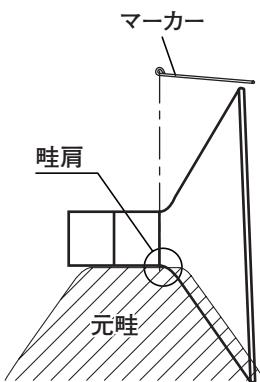
マーカーと元畦の間隔を少し狭くします。



(図 1)



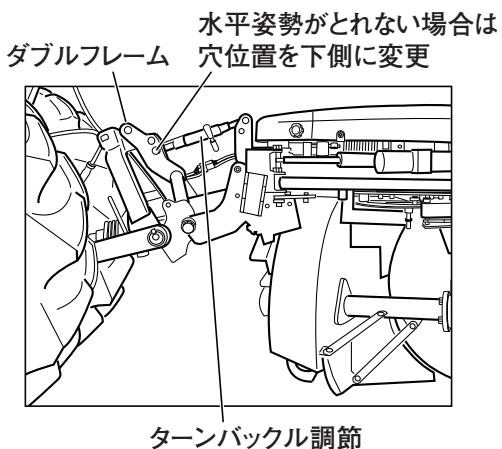
(図2)



(図3)

②エンジン回転速度を1800rpm付近まで上げ、PTO「1～2速」、ポジションレバーを最下げ、車速0.4km/h付近、コールタ深さ：中央穴位置で数m試運転します。

③オフセットアームが地面に対して“水平”になるように、トップリンク（日農工標準ヒッチ）、またはターンバックルで調節します。ターンバックルの調整で作業機が水平にならない（前斜になる）場合は、ダブルフレームの穴位置を下側に変更してください（出荷時は上側）。



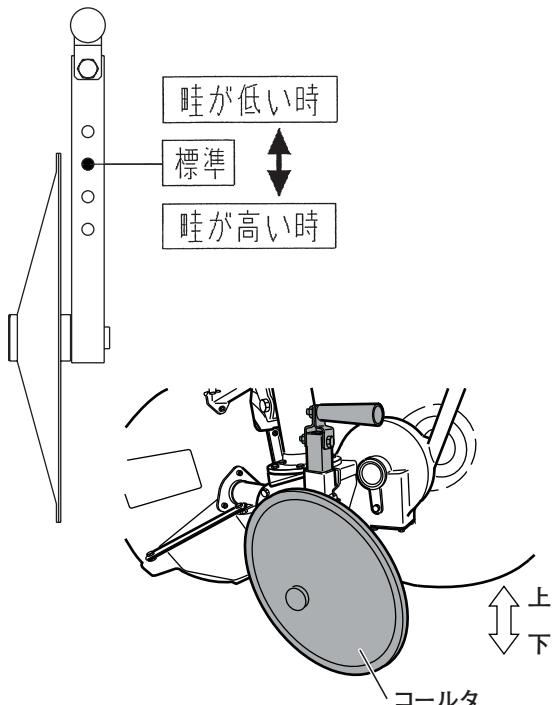
④チェックチェンの張りが適当かどうか確認してください。

⑤続いて各部の調整をします。

2. コールタの調整方法

コールタは作業機の深さ調整を行う装置です。作業深さは、ロックピンの位置を変えて調整してください。

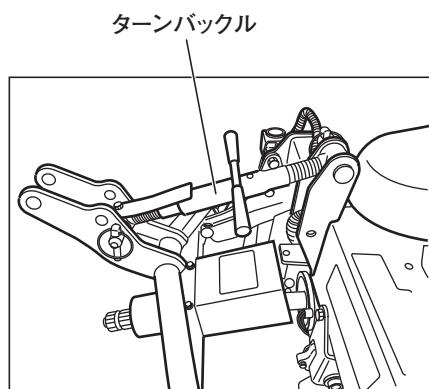
※標準深さは、中央穴位置にセットしてください。畦が低い時は、コールタを上に上げます。畦が高い時は、コールタを下に下げます。



3. 土量調整

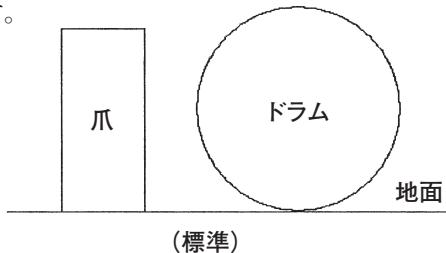
作業機を水平姿勢にして作業し、きれいに畦が塗れず、土の供給量を変えたい時に調整します。ドラムへの供給する土量調整は作業機の姿勢を前傾／後傾にして調整を行います。

作業機の姿勢はターンバックルまたはトップリンクの伸縮にて行います。



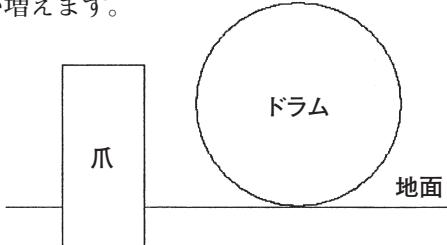
① 標準位置：作業機水平状態

爪の先端とドラムの先端がほぼ水平になります。



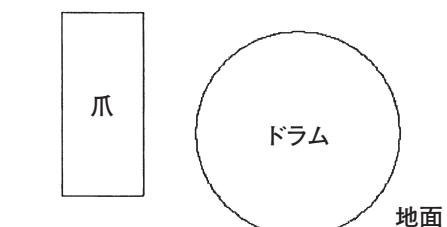
② 土量を増やす場合：前傾姿勢にする

ターンバックルまたはトップリンクを縮め作業機を前傾姿勢にすると爪が下がるため土の供給が増えます。



③ 土量を減らす場合：後傾姿勢にする

ターンバックルまたはトップリンクを伸ばし、作業機を後傾姿勢にするとドラムが下がるため土の供給が減ります。

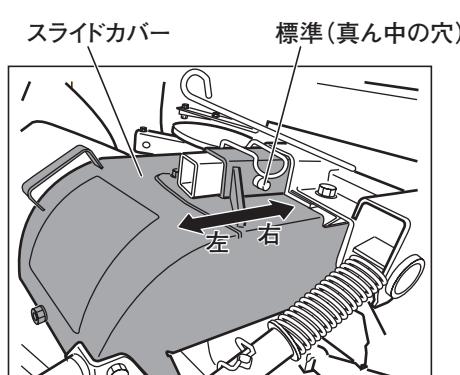


④ スライドカバー

スライドカバーは、成形畦ののり面、天場への土量の調整を行う装置です。

※のり面への土量が少ない時、下図の右方向へスライドさせます。

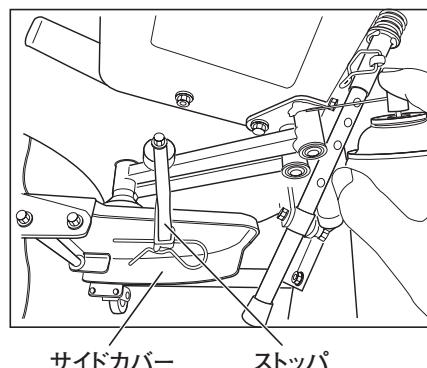
※のり面への土量が多い時、下図の左方向へスライドさせます。



⑤ サイドカバー

サイドカバーは、スライドカバー内の土の飛散を防止する装置です。

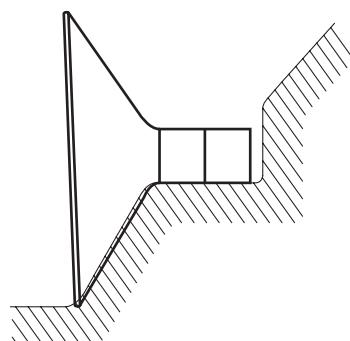
※ストップでサイドカバーの上下の規制を行い、絶えず天場上面を進行するように調節します。



取扱上の注意

1. サイドカバーに無理な力がかかるないように調節してください。

2. 下図のような高畦を作業する場合、障害物等に接触する場合はサイドカバーが最上げになるように調節してください。



⑥ EX サイドカバー

EX サイドカバーは成形畦の、天場への土量の調整を行う装置です。

※標準位置はカイドウプレート中央の穴位置です。

※天場への土量が少ない時、図1の様に外側方向へ調整してください。

※天場への土量が多い時、図1の様に内側方向へ調整してください。

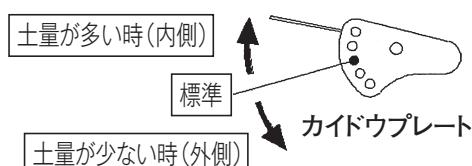
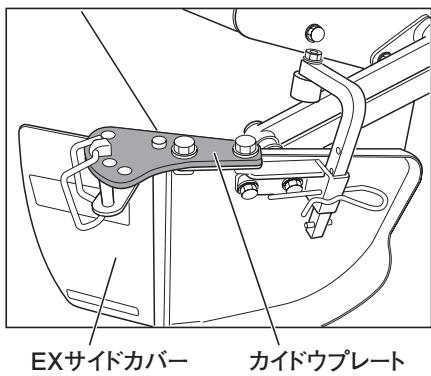
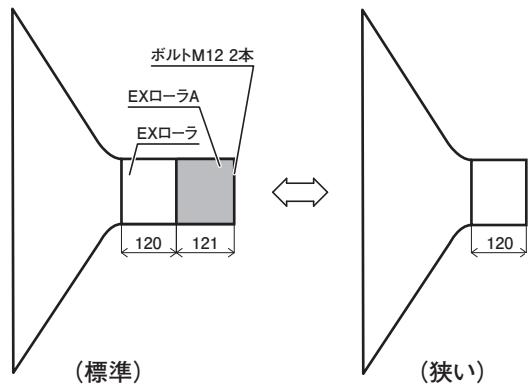


図1

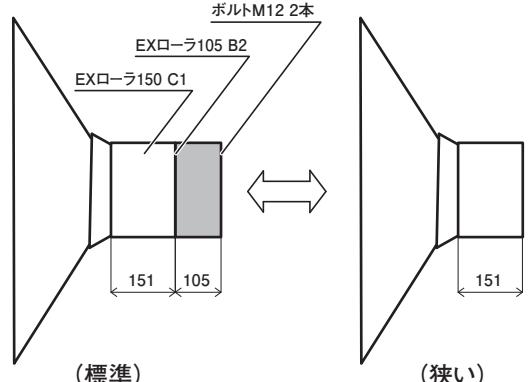
⑦EXローラ

天場（上面）の塗り幅の調整を行います。
高畦、天場を狭くしたい場合は、下図の固定ボルト2本を外し、外側のEXローラを取り外してください。取外したボルト、ローラは大切に保管してください。

•標準ローラ仕様(RS752、RS752C、RS752F)



•大径ローラ仕様(RS752B、RS752CB、RS752FB)



取扱上の注意

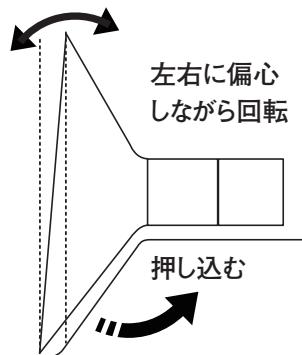
標準ローラ、大径ローラとともに両方のローラを取り外しての作業（ローラ無し状態での作業）はしないでください。

⑧ドラム偏芯量

ドラムは左右に偏芯しながら回転を行い、畦を整形していきます。整形畦の縫り具合を調節する時に偏芯量を調整します。（特に車速を上げて作業する場合）

偏心量はドラムボスとドラムの取付ける位置を変更することによって、偏心量5ミリ、偏心量10ミリ、偏心量20ミリにすることができます。

出荷時は5ミリに設定しております。



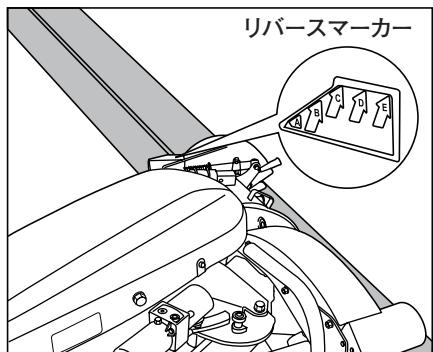
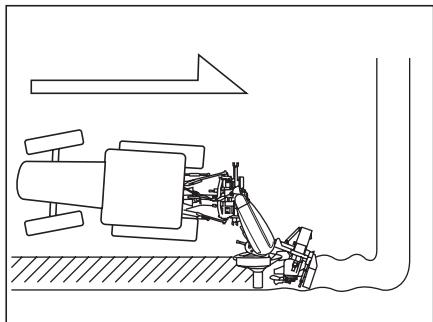
調整方法はP59～60を参照してください。

4.後進（リバース作業）

①後進（リバース）作業は、前進作業の塗り終わりより約1m手前よりスタートすると、段差の少ないきれいなつなぎ目に仕上がります。また、前進作業時にできた溝にタイヤが落ちないようにトラクタを元あぜから少し離れた位置にセットしてください。

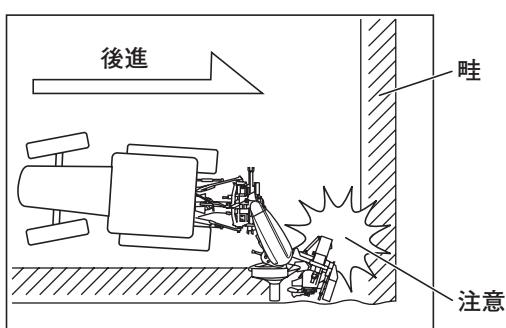
②オフセットアームが地面に対して水平になるように、ターンバックル（トップリンク）または、ポジションコントロールレバー（トラクタ側）で微調整してください。（コールタ、ドラム、トップリンクでの調節は不要です。）

③ ドラムを元あぜに押し付けるようにハンドルを少し切りながらバック作業を行ってください。より締まったあぜに仕上がります。(この時、リバースマーカーの矢印と元あぜのあぜ肩を合わせるようにトラクタを操作して後進作業してください。まっすぐ進む目安になります。)



取扱上の注意

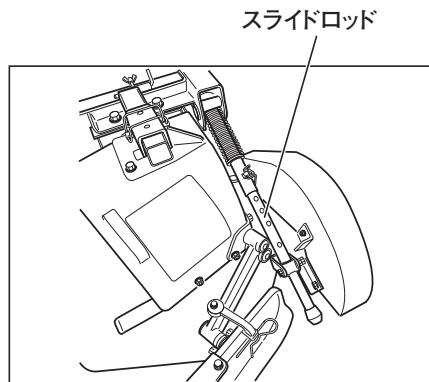
後進作業時、角まで行き過ぎないように注意して作業してください。行き過ぎて作業すると機械が壊れる恐れがあります。



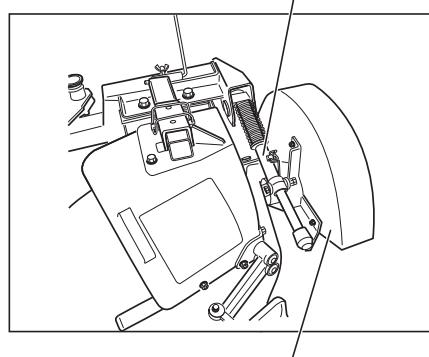
5. 天場処理装置の調整方法(天場仕様のみ)

天場の上面を削る又は簡単な草刈りに使用する装置です。

スライドロッドの10ヶ所の穴で調整します。



天場装置を使用しない時



▲ 注意

調節の際は必ずエンジンを止め爪が回転していない状態で行ってください。

取扱上の注意

1. 上面の削り量が7cm以上にならないように調節してください。爪取付け部で耕うんしてしまうため、機械の破損の原因となります。
2. 石等がある場合は取り除いてください。
3. シャーボルトが切れた時は、直ちにトラクタを止め、エンジンを切り、速やかに交換してください。
そのままの状態で使用すると、機械の破損の原因となります。
4. シャーボルトの交換は「シャーボルト交換方法」のページをご覧ください。
5. 使用しない場合はロッドの一番外の穴を使い、天場処理機を最上げにします。
6. 削りたい量に応じて穴位置を変えていきます。

2 上手な畦塗りの仕方

畦塗り作業は、圃場の状態（水分、土質）に大きく左右されます。同じ圃場内でも変化します。以下の調整を目安に作業を行ってください。

1. 作業速度（直進作業時）

作業速度は、0.2km/h ~ 1.2km/h です。一般的に、

●水分が多い場合：

車速を早くし綺麗な成形を優先します。

●水分が少ない場合：

車速を遅くし締め付けを優先します。

2. 畦高さ

畦高さはドラムの種類及びEX ローラの種類で決まります。目安は以下の通りです。

ドラム	EX ローラ	畦高さ（目安）
750 ドラム	標準ローラ	20 ~ 30cm
	大径ローラ	15 ~ 25cm

3. 各部の調整

条件による各部の調整の目安は、以下の通りです。あくまでも目安ですので、条件にあった調整を行ってください。

調整方法は①から順番に調整してください。

取扱上の注意

下記調整前にチェックチェンの調整（P17、25）が出来ているか確認してください。

1) 元畦が低い場合

①作業姿勢：前傾にする

（爪が深くなるよう調整）

コールタ：上げる

（爪が深くなるよう調整）

上記調整で天場に土が多すぎる（EX ローラより土がこぼれる）場合は、

②トラクタ車速：上げる

③スライドカバー：標準より内側に調整

※調整しても畦が成形できない場合は、低アゼ用ローラ（オプション）を使用してください。

2) 天場に土が不足する場合

①トラクタ車速：下げる

②トラクタ PTO：回転速度を上げる

（エンジン回転速度上げる）

③作業姿勢：前傾にする

（爪が深くなるよう調整）

コールタ：上げる

（爪が深くなるよう調整）

3) 畦のり面に土が不足する、畦肩が塗れない場合

①トラクタ車速：下げる

②トラクタ PTO：回転速度を上げる

（エンジン回転速度上げる）

③作業姿勢：前傾にする

（爪が深くなるよう調整）

コールタ：上げる

（爪が深くなるよう調整）

④スライドカバー：標準より内側に調整

4) 天場の縮まりが悪い場合

①トラクタ車速：下げる

②トラクタ水平制御：畦側に傾ける

③作業姿勢：前傾にする

（爪が深くなるよう調整）

コールタ：上げる

（爪が深くなるよう調整）

もししくは

④作業姿勢：少し後傾にする

（爪が浅くなるよう調整）

※作業姿勢を後傾にしきると土が足りなくなります。

5) シールドカバー前に土が溜まる

①トラクタ車速：上げる

②ポジションレバー：少し上げる

③作業姿勢：後傾にする

（爪が浅くなるよう調整）

コールタ：下げる

（爪が浅くなるよう調整）

6) 畦が真っ直ぐ行かない（ハンドルが取られる）

①作業姿勢：後傾にする

（爪が浅くなるよう調整）

コールタ：下げる

（爪が浅くなるよう調整）

※ ドラムを下げすぎると振動が増加し、直進性が逆に悪くなります

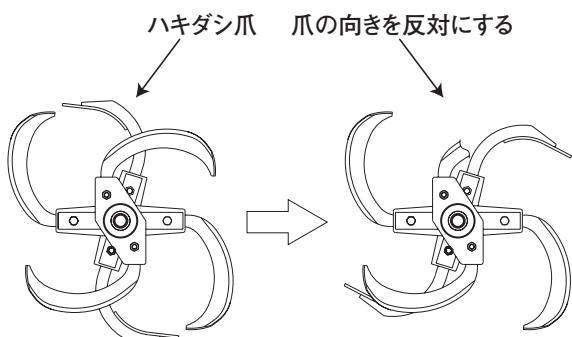
4. 新品ドラムの場合

圃場条件（土質や水分状態など）により、新品ドラムで初期作業を行うと、土の蹴り出しが発生する場合があります。土質により距離は異なりますが、作業を行うと土の蹴り出しは徐々に消えていきます。

ただし、粘土質の圃場では常に土の蹴り出しが発生し畦ができません。その場合、散水装置（オプション）を使用して畦塗り作業を行ってください。

5. シャーボルトが頻繁に折損する場合

石の多い圃場での畦塗り作業において、シャーボルトが頻繁に折損する場合は、爪軸の3列目に組付けている、ハキダシ爪2本の向きを反対にしてください。この状態で畦塗り作業を行うと、シャーボルトは折損しにくくなります。ドラムへの土量が不足するため、ドラムに土が十分供給されるよう車速を遅くしてください。



作業後の手入れ

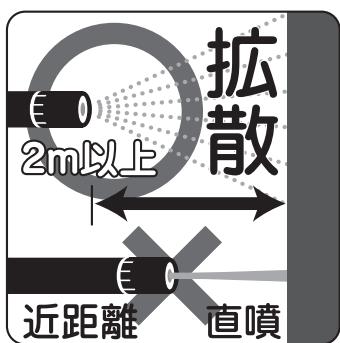
1.洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることができますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

▲ 注意 (高圧洗車機)

機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例 1) 電気配線被覆の損傷・断線によるショート・火災の発生
2) シール・ラベルの剥がれ
3) 電子部品等への水浸入による故障
4) 樹脂類（カバーなど）の破損
5) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



2.電動油圧シリンダーのロッド部（銀色部）の汚れ除去、及び油に浸したウエスを巻く等のサビ止めをしてください。

3.各部の注油、及びグリスアップしてください。

部品交換方法と注意事項

1 シャーボルト

作業機に大きな衝撃がかかると、シャーボルトが切れ、機械を保護します。

取扱上の注意

- シャーボルトが切れた時は、直ちにトラクタを止めエンジンを切り、ボルトの交換をしてください。
- シャーボルトは、コバシ純正ボルト以外使用しないでください。指定外のボルトを使用すると、シャーボルトが早く切れたり、機械が破損したりします。
- シャーボルトが切れた場所にある石や障害物を取除くか、避けて作業を再開してください。

1. 種類と本数

作業機に使用するシャーボルトの種類と本数は下記の通りです。

型式：RS-2					
場所	規格		コード	本数	
オフセット	シャーボルト (メイン)	シャーボルト	M8 × 30 P1.25 12.9T	7663036	1
	シャーボルト (メイン)	ナイロンナット	M8 P1.25		
天場爪軸	シャーボルト (テンバー)	シャーボルト	M8 × 25 P1.25 8T	7663109	1
	シャーボルト (テンバー)	ナイロンナット	M8 P1.25		

付属部品としてシャーボルト、ナイロンナット各10ヶ、天場のシャーボルト、ナイロンナットが各10ヶ入っています。

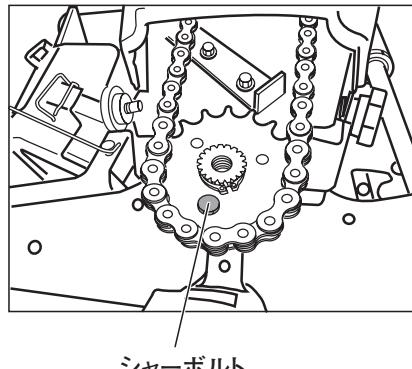
2. シャーボルト交換方法

〈オフセット（メイン）〉

- トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンが切れ、PTOが切れていることを確認します。
- オフセットチェンカバーを外し（ノブボルト2ヶ所）、折れているボルト、ナットを取り除きます。
- 前方部分に位置するフランジとスプロケットの間にフランジの穴からオイルを十分注油してください。

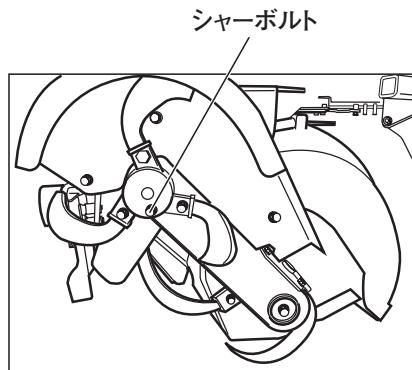
- フランジの穴とスプロケットの穴を合わせ、下方にナット、上からボルトを入れ、ボルトを締め込みます。（ナットは回らないようになっています。）

- オフセットチェンカバーを取付けます。



〈天場処理装置〉

- トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンが切れ、PTOが切れていることを確認します。
- フランジの穴と爪軸の穴を合わせ、爪軸側からボルトを入れ、ナットを締め付けます。（ボルトは回らないようになっています。）



2 耕うん爪

爪が摩耗してくると、畦の仕上がりが悪くなります。早めのコバシ純正爪への交換をお勧めします。

▲ 注意

- 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした所で作業を行ってください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、必ず油圧をロックし、作業用のスタンド（ウマ）などで作業機の落下を防止してください。
- 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

1. 種類と本数

作業機に使用する爪、ボルトの種類と本数は下記の通りです。

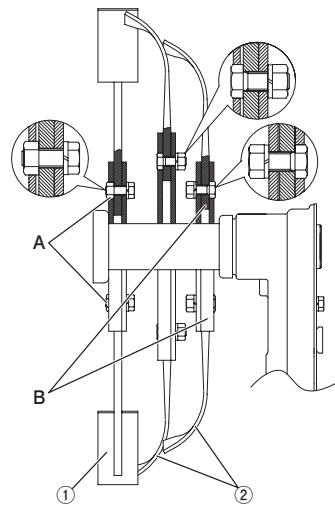
型式：RS-2			
場所	規格	コード	本数
前処理部	ナットメ	BR3060RZ	67811 4
	ハイドツメ	AR31	49870 2
	ボルト	M12×30 P1.5 8T	9011759 6
	ナット	M12 P1.5	9140080 6
	ワッシャ	M12	9210012 6
天場処理部	バイドツメ	M24R	60411 3
	ボルト	M10 × 20 P1.5 8T	9011156 3
	ナット	M10 P1.5	9140010 3
	ワッシャ	M10	9210010 3

2. 爪の交換方法

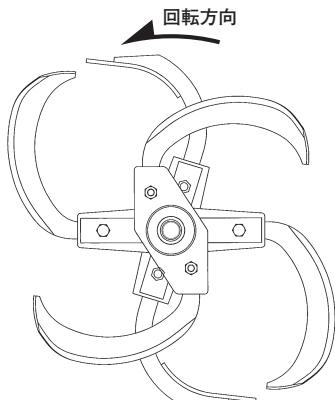
一度に全て外して交換するのではなく、1本ずつ外して交換していくと、爪の種類、配列の間違いを防げます。

〈前処理部〉

- ① A のホルダにハイドツメ (AR31) を差込み、ナットを六角穴に入れ、丸穴側からボルト、ワッシャを入れて締め付けます。
- ② B のホルダにナットメ (BR3060RZ) を差込み、ボルトを六角穴に入れ、ナット、ワッシャで締め付けます。
- ③ 全て交換し終わったら増し締めを行ってください。

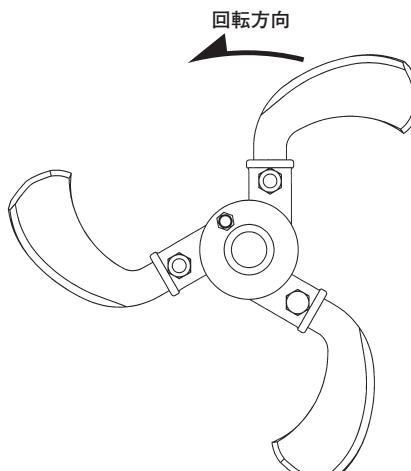
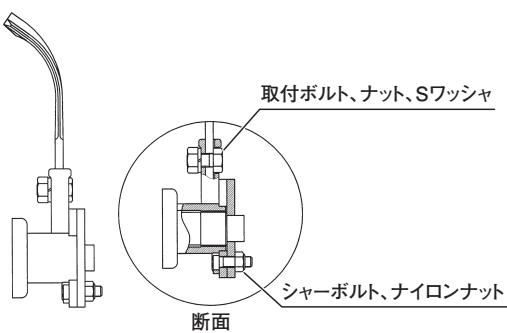


①ハイドツメ(AR31)
②ナットメ(BR3060RZ)



〈天場処理部〉

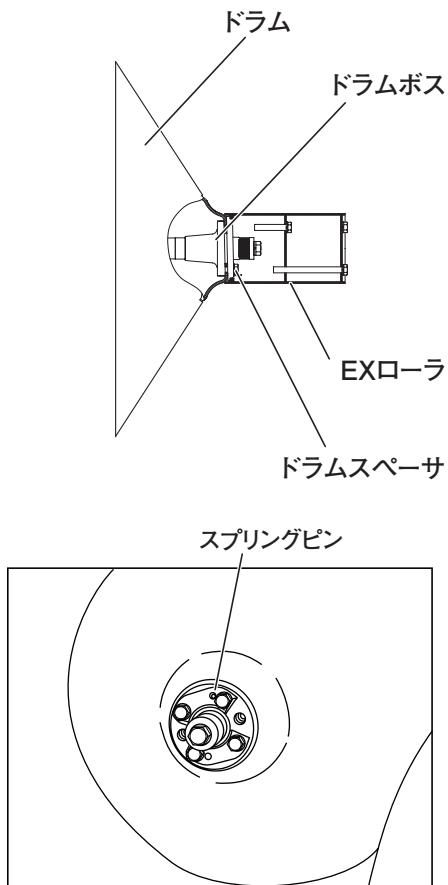
- ① ホルダにナットメ (M24R) を差込み、ボルトを六角穴に入れ、ナット、ワッシャで締め付けます。
- ② 全て交換し終わったら増し締めを行ってください。



3 ドラム

1. ドラム偏芯量調整方法

- ①EX ローラを固定しているボルト 2 本 (2箇所) を取外し、スプリングピンを抜きます。

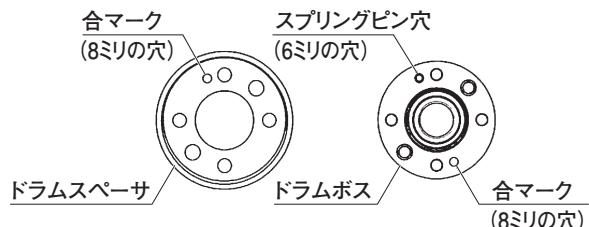
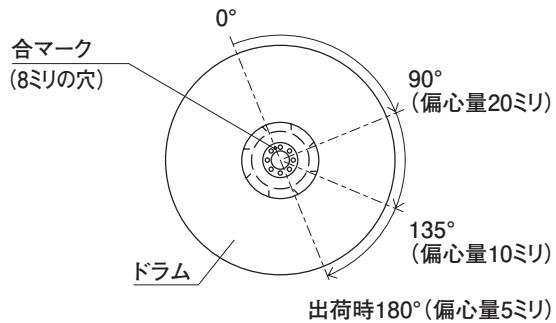


- ②ロックプレートのツバを曲げ、ドラムボス、ドラム、ドラムスペーサを固定しているボルト 4 本を外します。

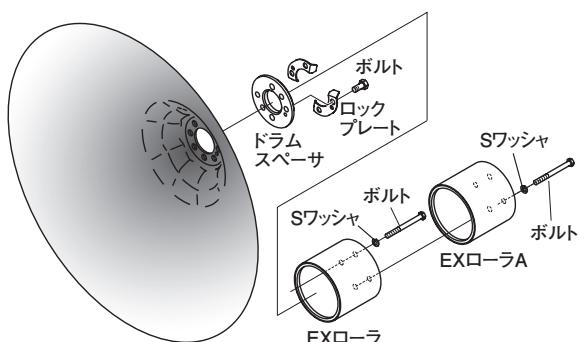
取扱上の注意

ボルト 4 本を外すときはドラムが動かないようにしてから外してください。

- ③ドラムの合マーク (8ミリの穴) をドラムボスの合マーク (8ミリの穴) に対して 90° (偏芯量 20ミリ)、 135° (偏芯量10ミリ)、 180° (偏芯量5ミリ) ドラムを回転させると偏芯量が変わります。



- ④偏芯量の調整ができたら、ドラムボス、ドラム、ドラムスペーサ、ロックプレートを4本のボルトで固定します。ロックプレートのツバを曲げ、ボルトの頭を固定した後、EX ローラ (2ヶ) を取付けます。



ドラム部組付手順

※ ドラムスペーサは取付け位置があります。ドラムスペーサの合マークとドラムボスのスプリングピン穴 (6ミリの穴) の合マークは必ず合わせてから取付けてください。

取扱上の注意

1. ドラムボスに打込むスプリングピンは偏芯量 5 ミリの時だけ使用します。偏芯量 10 ミリ、偏芯量 20 ミリの場合は使用できません。
2. ドラムスペーサの取付け位置が違うと EX ローラが振れて天場がうまく塗れず、破損につながる恐れがあります。

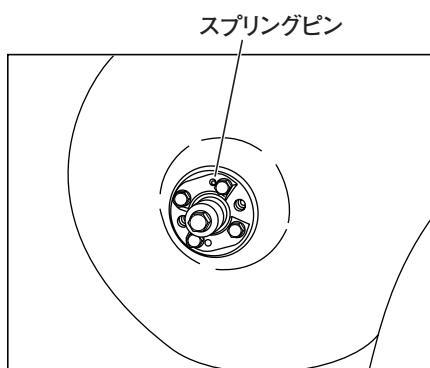
2. ドラム交換方法

▲ 注意

使用したドラムは外周が鋭利になっており、直接触れるとケガをするため大変危険です。必ず丈夫な手袋をし、体に接触しないように注意をしてください。

ドラムの部品交換は必ず以下の手順で行って下さい。

- ①スライドカバーを取り外します。
- ②ドラム部の EX ローラを固定している M12 のボルトを取り外します。次にロックプレートのツバを曲げ、M12 のボルト 4 本を取り外します。ドラムスペーサを取り、ドラムの真正面に立ち、ドラムの左端と右端を持ち、右手側を手前に引き、斜め右後に引っ張り出します。偏芯量 5 ミリの場合、ドラムボスに組付けてあるスプリングピンは外さないでください。



取扱上の注意

ドラムボスが付いていると外れません。

- ③新品ドラムを、ドラムカバーの間から斜めに入れ、ドラムボスへはめ込みます。

偏芯量が 5 ミリの場合、ドラムボスにスプリングピンが取付けたので、スプリングピンの位置にドラムとドラムスペーサの合マークを合わせて、新品のロックプレートの上から M12 のボルトで固定してください。ボルト締付け後は、ロックプレートのツバを曲げ、ボルトの頭を固定してください。

※スプリングピンがない場合や偏芯量 10 ミリ、偏芯量 20 ミリの場合は、P59 の③を参照して偏芯量を合わせてください。

※組付け手順は P59 の④を参照してください。

- ④EX ローラ 2 個を M12 ボルトで取付け、スライドカバーを取付けます。

取扱上の注意

ドラムボスのスプリングピン穴（直径 6 ミリ）とドラムスペーサの合マークは、必ず合わせてから組付けてください。

取付け位置が違うと EX ローラが振れて天場がうまく塗れず、破損につながる恐れがあります。

保守・点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知つておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

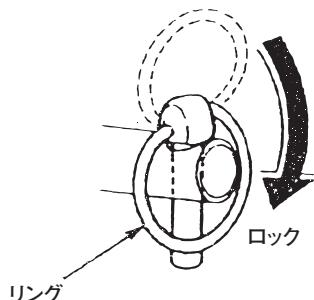
▲ 注意

1. 点検は、平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 作業機単体で点検を行う場合、キャスタス タンドのロックを行ってください。
3. 作業機をトラクタに装着してから点検を行う場合は、トラクタのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
4. 作業機は地面に下ろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する場合は、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1 作業前点検

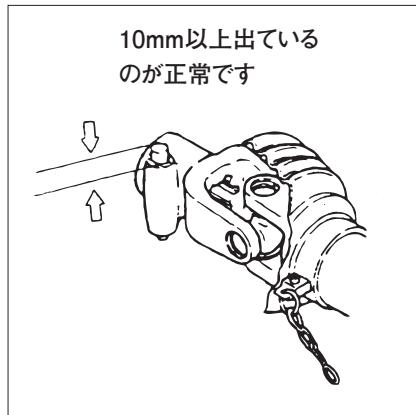
1. 各部のボルト・ナットの増し締め

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは、緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



2. ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください。



3. 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖機運転を5～10分行ってください。

2 定期点検

1. 各部のオイル量点検と交換

RS-2

点検項目	種類	オイル量(目安)	点検・交換時期
フロントギヤケースのオイル量点検	#90	P62 参照	毎作業前点検
リヤギヤケースのオイル量点検	#90	P62 参照	〃
フロントギヤケースのオイル交換	#90	0.3L	初回50時間、以後150時間で交換
リヤギヤケースのオイル交換	#90	1.0L	〃

取扱上の注意

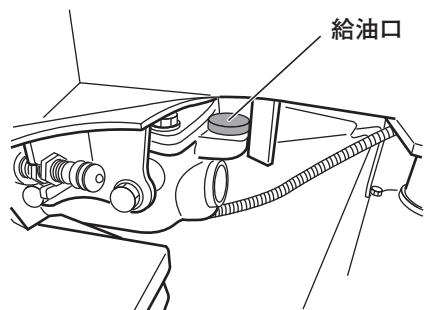
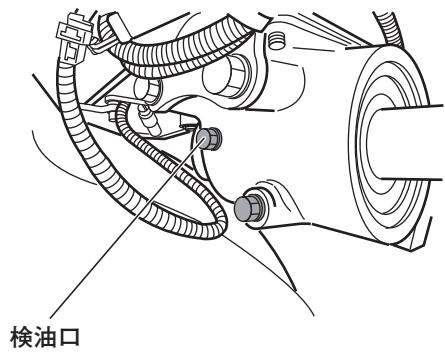
油量を点検するときは、作業機を水平にした状態で確認してください。

作業機が傾いていると正確な量を示さないことがあります。

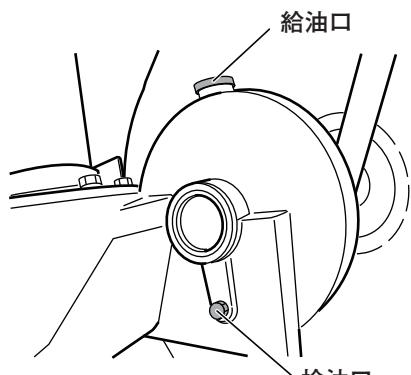
① フロントギヤケース / リヤギヤケース

1) オイル量点検

フロントギヤケース、リヤギヤケースの各給油ボルトを緩めてオイルがあるか確認してください。検油口よりオイルが少ない場合は、検油口まで補給してください。(ギヤオイル# 90)



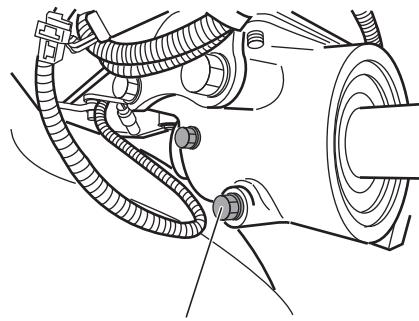
フロントギヤケース



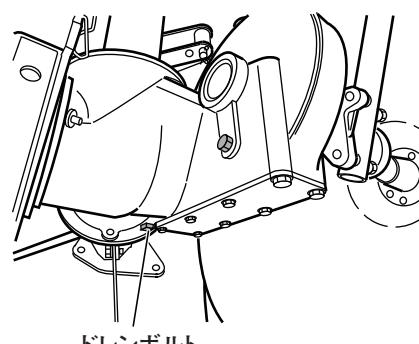
リヤギヤケース

2) オイル交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。オイルが抜けたら検油ボルトを取付けます。(シールワッシャが損傷している場合などは新品に交換してください。損傷しているとオイル漏れの原因になります。) ギヤオイル# 90 を給油口から規定量入れてください。



フロントギヤケース



リヤギヤケース

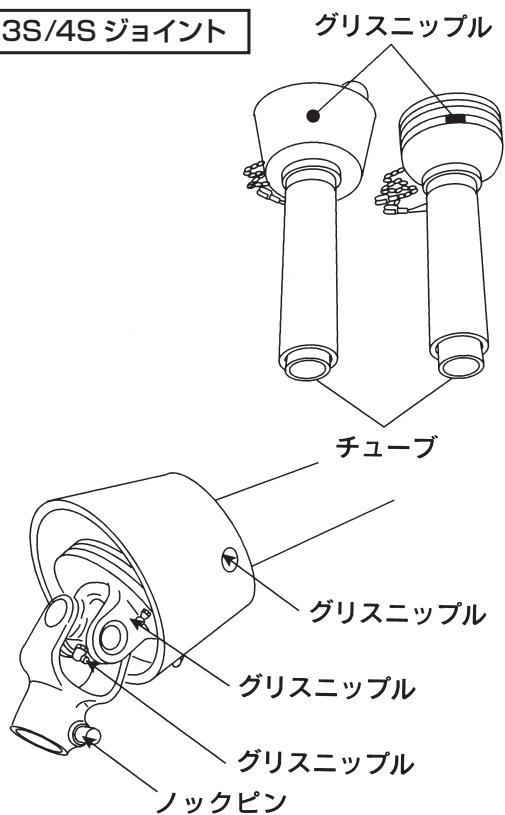
2. 各部へのグリス補給と注油

① ジョイント

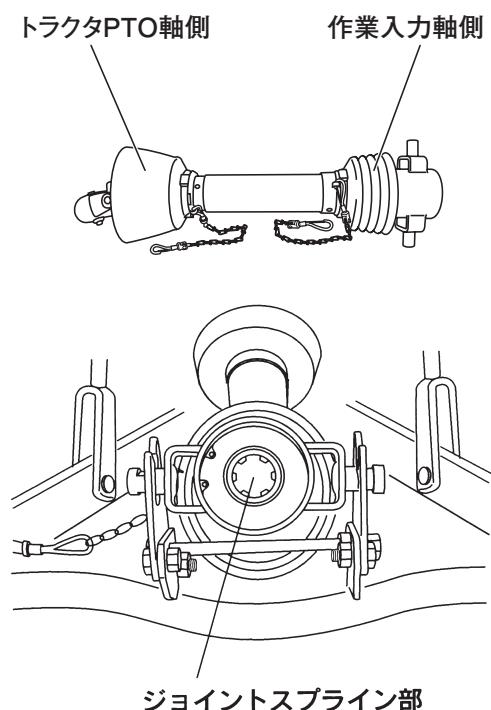
1) 3S/4S ジョイントの場合

ジョイントは分解して、チューブのかみ合い部分及びノックピン部にグリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルの部分にも適量注油してください。

3S/4S ジョイント



4S ジョイント



取扱上の注意

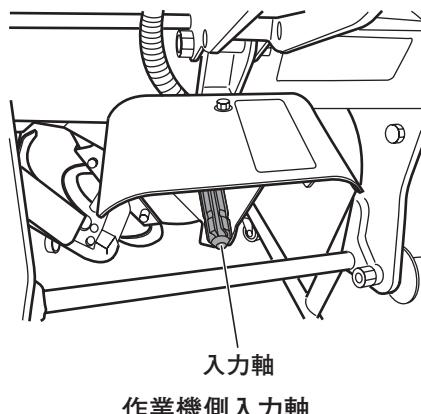
特に4セットジョイントの場合は、スライン部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行いグリスを塗布し、ゴミがかからないようにしてください。

2) 特殊3P式ジョイントの場合

ジョイントのスライン部と、各部グリスニップル、ノックピン、摺動部にグリスアップまたは注油を行ってください。詳しくは純正ロータリの取扱説明書をご覧ください。

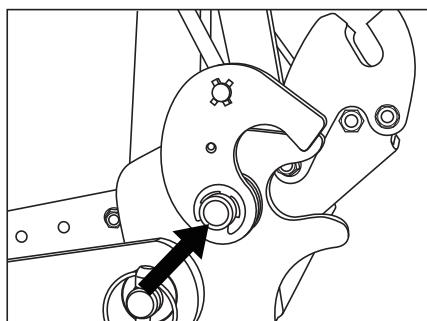
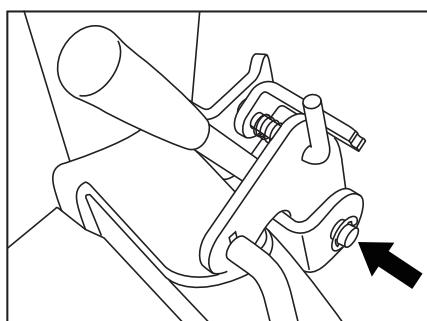
② トラクタ側 PTO 軸 / 作業機側入力軸

トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はサビないようにしてください。



入力軸
作業機側入力軸

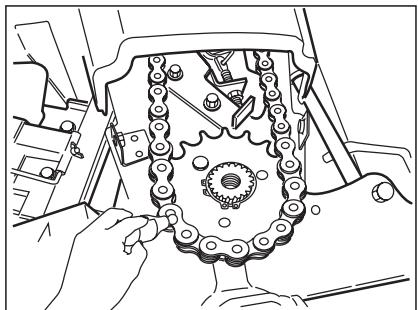
③ オートヒッチのフックの支点部分にオイルを適量塗布してください。



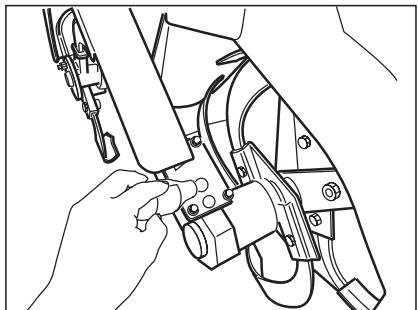
■ チェン部

※チェンケースはいずれも密閉されておらず、オイルを入れると漏れます。チェンに適量のオイルを注油してください。怠るとチェンの寿命を早めたり、異音の原因となります。

• チェン(メイン)



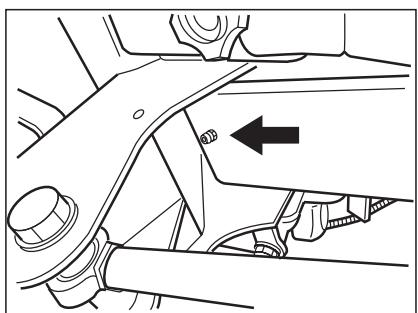
• チェン(天場): 天場仕様



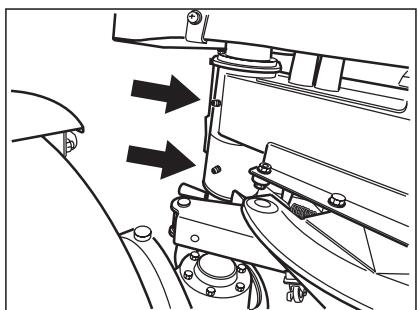
■ オフセット・旋回作動部

※怠るとスムーズなオフセット・旋回動作ができなくなります。

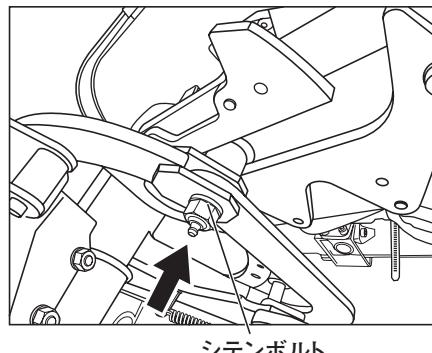
• オフセットアーム(フロント側)のグリスニップル



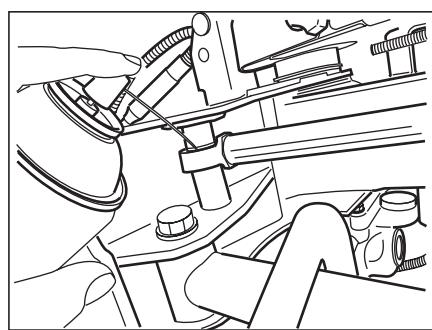
• オフセットアーム(リヤ側)、リターンアームのグリスニップル



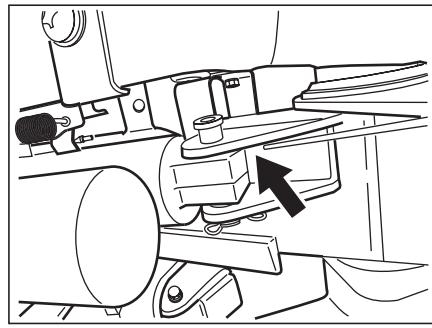
• シテンボルトのグリスニップル



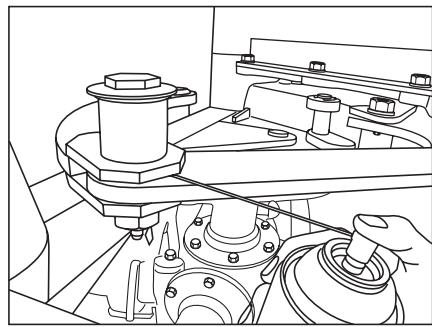
• 電動油圧シリンダー／スライドロッド支点部(フロント側)



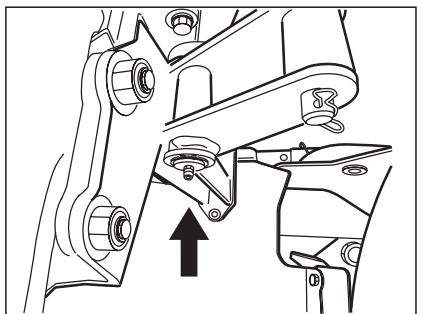
• 電動油圧シリンダー／スライドロッド支点部(リヤ側)



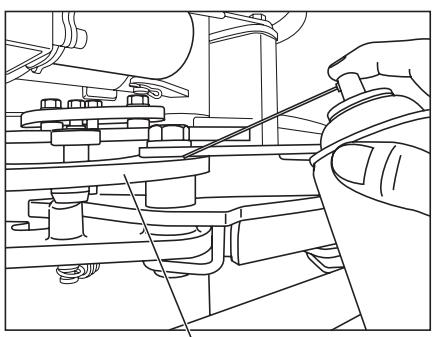
• シテンボルトの支点部



●リバースアームのグリスニップル

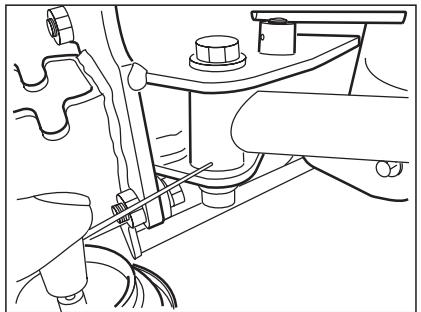


●リバースアーム摺動部及び支点部

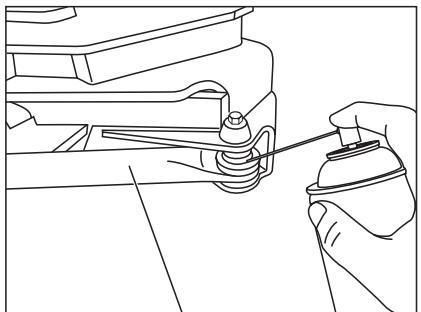


リバースアーム

●オフセットリンク支点部(フロント側)

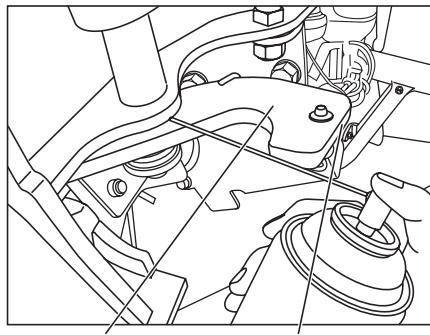


●オフセットリンク支点部(リヤ側)



オフセットリンク

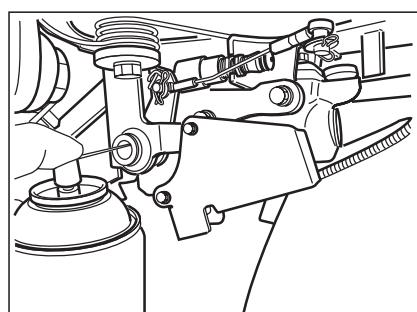
●ロックアームAの支点部および摺動面:電動仕様



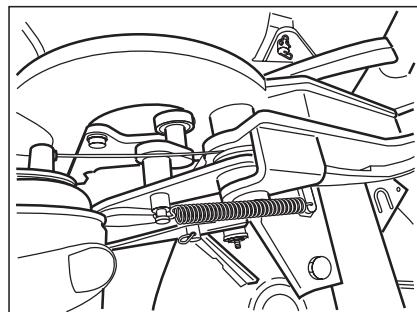
●ロックアームAのピニオン側支点部:電動仕様



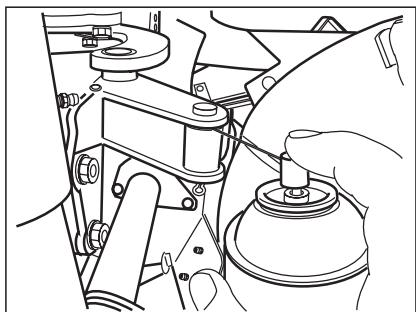
●モータピニオン部:電動仕様



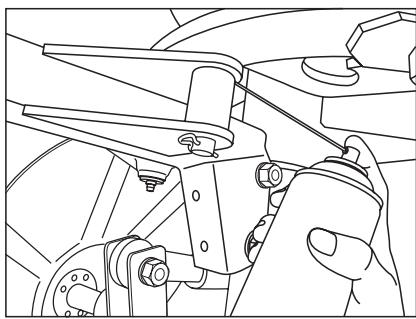
●ロックアームCOMP.Bの支点部



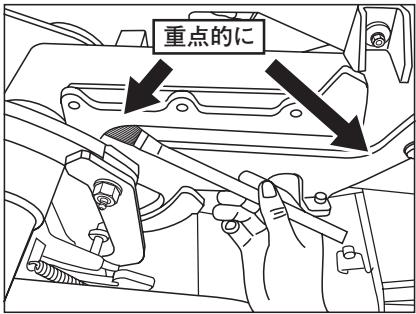
●ロックアームCOMP.Bピン側支点部(リバース側)



●ロックアームCOMP.Bピン側支点部(前進側)



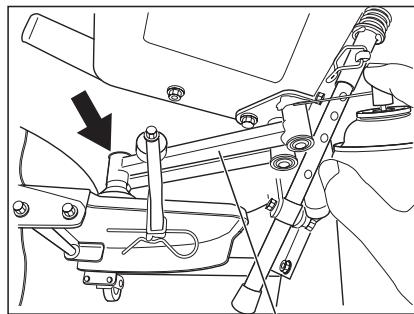
●ガイドレール



■フレーム・調整部

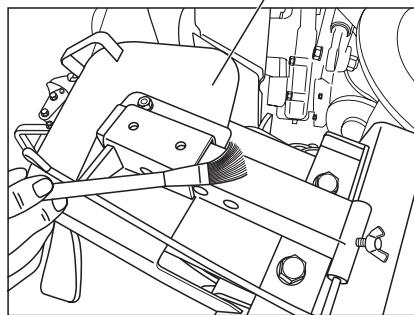
※怠るとスムーズ動作及び調整がができなくな
ります。

●スイングアーム支点部(4箇所)

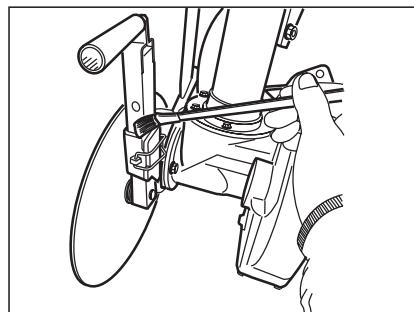


スイングアーム

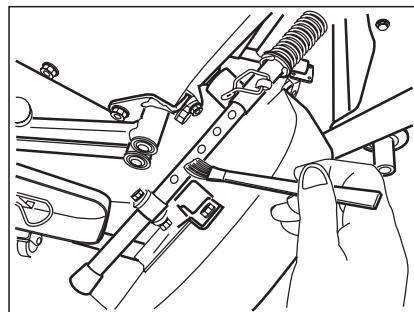
●スライドカバー調整部



●コールタ調整部



●スライドロッド(天場):天場仕様

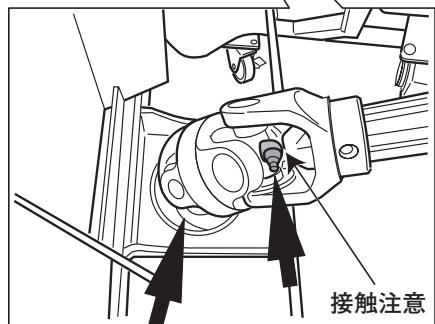
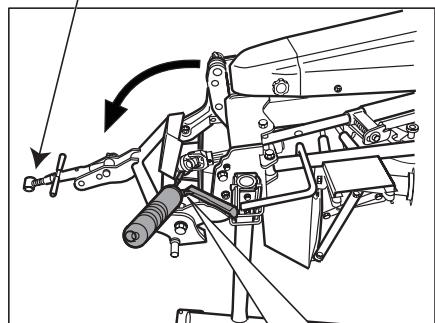


●ダブルジョイントのグリスニップル

(2箇所):特殊3Pのみ

※ターンバックル上側のピンを外し、ダブルフレームを前に倒します。この時ダブルフレームを倒しすぎると、PICシャフトとダブルジョイントのグリスニップルが接触する可能性がありますので、ゆっくり倒し接触しない位置で固定して下さい。

ターンバックル上側のピンを外し、前へ倒す。



※グリスガンは、ノズル形状が変形タイプのものを使用して下さい。

3. オイルシールの組み替え

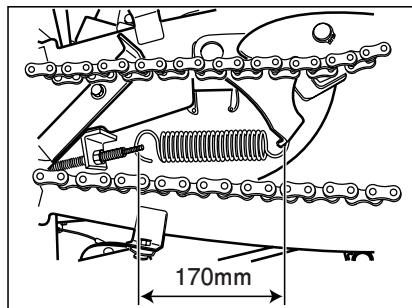
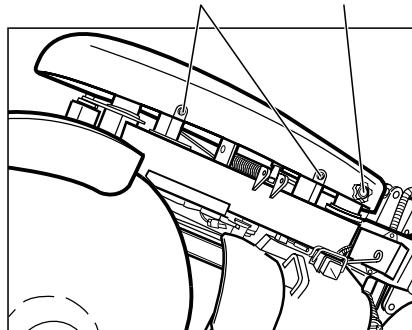
整備などの目的でチェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付座金パッキンと交換してください。オイルもれの原因になります。

4. チェンの張り調整

(テンショナボルトの調整)

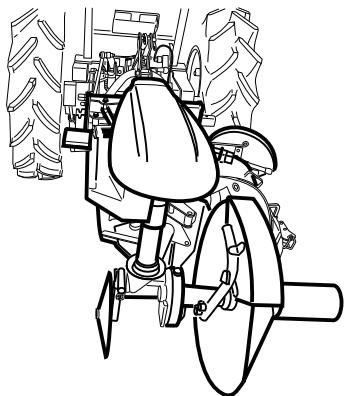
オフセットチェンカバーを外し、チェンの張りをテンショナボルトでスプリング長さ（フック内 - 内）を 170 ミリに調整してください。

ネジ(4箇所) ノブネジ(2箇所)

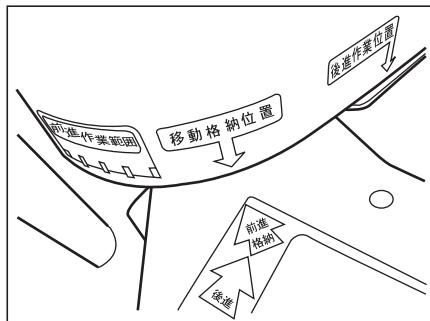


保管・格納

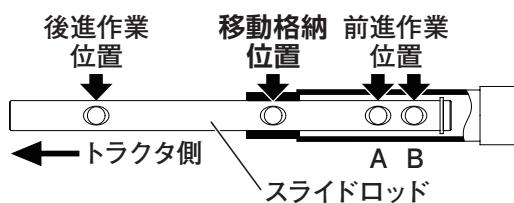
1. 格納する時は、必ず作業機を下図のように移動格納状態にして、キャスタースタンドを取り付けてから行ってください。



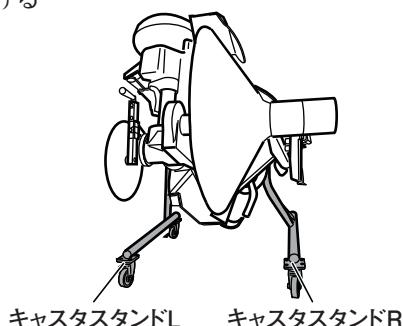
* RS752F (電動仕様) の場合、チェンカバーラベルの矢印を格納位置に合わせて (→←) から行ってください。



* RS752 (C) (手動仕様) の場合、スライドロッド穴位置を格納位置にしてください。



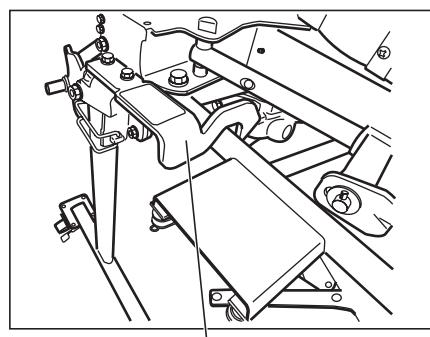
移動・格納状態にし、キャスタースタンド L/R を取付ける



▲ 注意

1. 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、脱着のためのスペースが十分取れる所で行ってください。
2. スタンドの取付けは、作業機を「移動格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。
3. キャスタースタンドは、機械の保管及び格納時にのみ使用してください。 トラック等での運搬に使用した場合、キャスタースタンド及び機体が破損する恐れがあります。

2. 格納時は、必ず転倒防止フックをキャスタースタンド L に取付けた状態にし、下図の様にフックがオフセットリンクにかかった状態にしてください。

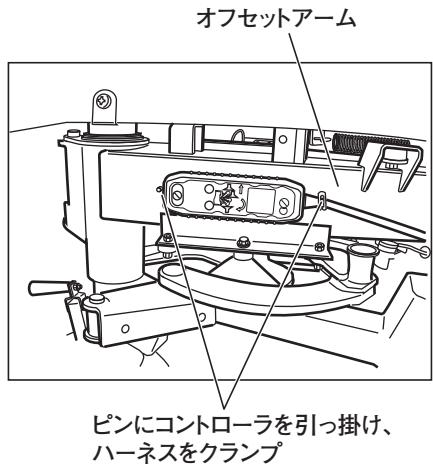


転倒防止フック

▲ 注意

1. 作業機を格納する場合は、必ず転倒防止フックをキャスタースタンド L に取付けた状態にしてください。外した状態で格納すると、シリンダが少量ずつ伸び、作業機が転倒するおそれがあります。
2. 誤動作により転倒防止フックが変形している場合、作業機が完全にロックされません。格納時には必ずフックがかかって、完全にロック状態になっていることを確認してください。
3. 格納時は、平坦な場所に保管してください。

3. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
4. 格納後は、子供が触れないような処置をしてください。
5. コントローラの保管（電動仕様）
コントローラは下記の方法で保管してください。
 ①オフセットアームにコントローラを取り付けて保管する。

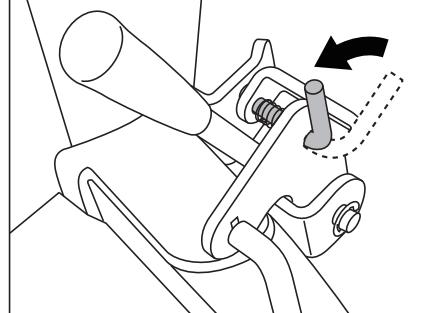


- ②コントローラ単体(制御ボックス付近にあるカプラ(16P)を取外す)で保管する。
外した後のカプラは、水がかからない様に保護して下さい。

⚠ 注意

1. カプラを外す際はカプラを持って外してください。ハーネスを引っ張ると断線する恐れがあります。
2. カプラは、不必要に分割しないで下さい。接触不良をおこし、作動不良の原因になる恐れがあります。

6. オートヒッチをアゼローターに取り付けて保管する場合は、レバーについているロックピンをイラストのようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に必ず挿入して、オートヒッチの落下防止をしておいてください。
(日農工標準3P オートヒッチ0・1型)



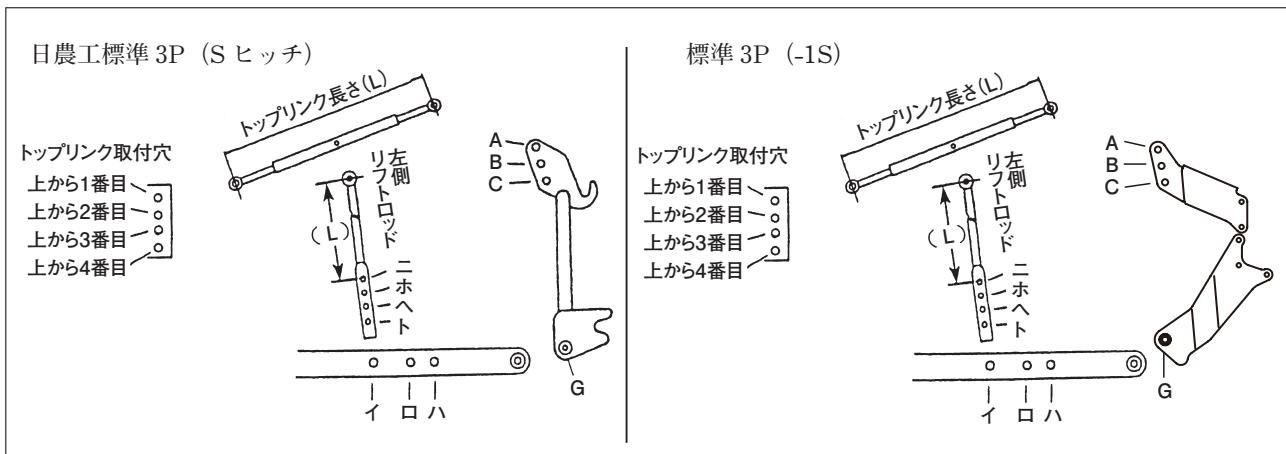
7. 必ず屋内に保管してください。屋外での長期保管は機械寿命を低下させます。

点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品 使用始め	①ギヤーケースのオイル量点検	61～62
	②油溜式でない駆動チェンの注油点検	64
新品 1 時間使用後	①全部のボルト、ナットを増し締め	61
	②チェンの張りを調整(テンショナボルト調整)	67
新品 50 時間使用後	①ギヤーケースのオイル交換	61～62
	②チェンの張りの調整	67
毎日の作業 前	①ギヤーケースのオイル量、オイル漏れの点検	61～62
	②油溜式でない駆動チェンの注油	64
	③耕うん爪の取付ボルトの増し締め	58
	④ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	63
	⑤地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常点検	61
	⑥配線の劣化、つぶれ、断線の確認(電動仕様)	33～37
毎日の作業 後	①洗浄後、水分拭き取り	56
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み脱落の確認	61
	③耕うん爪・爪ホルダ等の摩耗、折損の点検	58
	④入力軸へのグリス塗布	63
	⑤ジョイントスライド部へのグリス塗布	63
	⑥ジョイントノックピンへの注油	63
	⑦電動シリンダ等のシリンダ部(銀色部)汚れ除去(電動仕様)	56
	⑧可動部(支点部含む)への注油及び、グリス塗布	64～66
150 時間毎 又は シーズン 終了後	①ギヤーケースのオイル交換とオイルシール異常点検	61～62
	②旋回支点部、各部グリスニップルへのグリス注油	64～66
	③ジョイントのシャフトへのグリス塗布	63
	④電動シリンダ等シリンダ部(銀色部)へのサビ止め	56
	⑤無塗装部へのサビ止め	
	⑥安全ラベルの剥がれの点検	5～7
	⑦消耗部品の早期交換	83
シーズン 始め	①チェンの張り調整	67
	②可動部(支点含む)への注油及び、グリス塗布	64～66
2 年 每	①電気配線の交換	

トラクタ別装着表

この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内でご使用ください。
また、本作業機トラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。



クボタ

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
KL24R KL2450 KL225・245 KL210・230 KL25・23(J)・21(J)	4	イ	ヘ	590	A	G			
KL24RQ KL2450Q KL225Q・245Q KL210Q・230Q KL25Q・23(J)Q・21(J)Q	1	口	ヘ	600	A	G			
KL27R KL2750 KL265, L315D・345D KL250, L270D・300D KL27 KL25NC・25HT・25J・ KL28rops	4	イ	ヘ	630	A	G			
KL27RQ KL2750Q KL265Q, L315DQ・354DQ KL250Q, L270DQ・300DQ KL27Q, KL25NCQ・ 25HTQ・25JQ	1	イ	ヘ	640	A	G			
KL285 KL270～300 KL30(Q) KL28(Q)・27J(Q)	4	イ	ヘ	690	A	G			
GL201・221・241 GL200・220・240 GL19・21・23	3	イ	ヘ	640	A	G			
GL201Q・221Q・231Q GL200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
GL261・277・281 GL240J・260・268・280 GL23DJ・25・26・27, L27	3	イ	ヘ	690	A	G			
GL261Q・277Q GL240JQ・260Q・268Q GL23DJQ・25Q・26Q・27Q, L27Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
GL281J・280J GL301 GL300 GL27J・29	3	イ	ホ	750	A	G			
GL281Q・301Q GL280Q・300Q GL281JQ・280JQ GL27JQ・29Q	3	イ	ホ	750	C	G			
L ₁ -195(Q)・215(Q) L ₁ -185・205 L ₁ -18・20	3	イ	ホ	660	C	G			
L ₁ -225・245 L ₁ -235(Q)・255(Q) L ₁ -22・24	3	イ	ヘ	680	A	G			
L ₁ -275J(Q)	3	イ	ホ	750	A	G			
L ₁ -275(Q) L ₁ -265, L ₁ -26	3	イ	ヘ	740	A	G			
L ₁ -295(Q) L ₁ -285, L ₁ -28	3	イ	二	750	A	G			
L ₁ -235DJ	3	イ	ホ	670	B	G			
KT215(J)・235 KT210(J)・230	3	イ	ト	650	A	G			
KT235J・255, T245D KT230J・250, T240D	3	イ	ト	630	A	G			
KT255(J)・285, T265D KT250(J)・280	3	イ	ト	620	A	G			
KT285J・305 KT280J・300	3	イ	ト	610	A	G			
KT215PC・235PC・255PC・ 285PC KT210PC・230PC・250PC・ 280PC, T240D-PC	3	イ	ト	600	A	G			
KT20(J)・22(J)・24(J)・27	3	イ	ト	610	A	G			
KT27J・30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
KT20PC・24PC・27PC	3	イ	ト	610	A	G	50	50	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
GT21(J)・23(J) GT26 T200・220・240 T22	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT26J・30(J)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
GT21PC	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
KB17X・19X・21X・23X	2	イ	ホ	520	C	G	50	50	ジョイント異音時 PTO切
KB17X-PC・19X-PC・ 21X-PC・23X-PC	2	イ	ト	510	C	G	50	50	
KB19X-PC4・21X-PC4・ 23X-PC4	3	イ	ト	410	C	G	50	50	

ヤンマー

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
EG326・328	4	口	ト	570	A	G			
EG330	4	口	ト	550	A	G			
EF326(V)・328(V)	3	イ	ヘ	690	A	G			
EF330(V)	4	イ	ヘ	650	A	G			
EF324	3	イ	ヘ	580	C	G			
US261・301・361・324・ 328・330	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
RS240(Q)・270(Q)・300(Q) RS24(Q)・27(Q)・30(Q)	2	イ	ホ	560	A	G	30	30	
AF322・324・326	3	イ	ヘ	600	C	G			
AF328・330	3	イ	ヘ	700	A	G			
AF30(Q)	3	イ	ホ	730	A	G	TC84M に交換	TC80 に交換	
AF30(J)(Q)R	4	イ	ホ	710	A	G			
FX285 FX26	3	イ	ホ	570	A	G			
EG220 EF220	3	イ	ト	640	A	G	50	50	
EG222・224 EF222・224・226	3	イ	ト	630	A	G	50	50	
EG227・230 EF228・230	3	イ	ト	620	A	G	50	50	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
	AF210(J)(R)・230(J)(R)・ 250(J)(R) AF22・24	3	イ	ホ	600	C	G		
AF210(J)(R)Q・230(J)(R)Q・ 250(J)(R)Q AF22Q・24Q	1	イ	ホ	570	C	G			ジョイント異音時 PTO切
AF270(J)(R)(Q)・290(J)(R)(Q) AF26(Q)・28(J)(Q)	3	イ	ホ	700	A	G			
AF218・220・224 F190・210・230	3	イ	ホ	640	A	G			
AF226 F250	3	イ	ヘ	640	A	G			
F(X)215・235・255 F(X)20・22・24	3	イ	ホ	640	C	G			
F180・200・220 FF205・225 F(X)195 F(X)18	3	イ	ホ	640	C	G			トップリンクを 長いものに交換 して下さい
FX265 FX30S	3	ロ	ホ	680	A	G			
EF116・118・120・122	3	イ	ヘ	560	A	G	50	50	
CT118・122	3	イ	ホ	570	A	G	50	50	
FV200(Q)・220(Q)	2	イ	ニ	550	A	G	50	50	
FV230(Q)・250(Q)・270(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
FV280(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			

井関

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
	AT240・260 AT23・25 ATK220・250 ATK22・25	3	イ	ホ	540	A	G		
AT280 AT27・30	3	イ	ホ	560	A	G			
TG293(Q) TG27(Q)・29(Q) TGS29(Q)	3	イ	ニ	600	A	G			
TG233・253, TG273(Q) TG21・23, TG25(Q) TGS25	3	イ	ニ	600	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
TG233Q・253Q TG21Q・23Q	3	イ	ホ	600	A	G			
TG233-A・253-A・273-A TG21-A・23-A・25-A	2	ロ	ホ	540	A	G			
TK21・25・29	2	イ	ホ	540	A	G	60	60	
TA207(Q)・227(Q)・247(Q) TA267(Q)・287(Q) TA215(Q)・235(Q)・255(Q) TA275(Q) TA262(Q)・263(Q) TA210・230・250・270	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
TH235・265 TH213・233・253・273 TH22・24・26 THS22・24・26	1	イ	ヘ	470	B	G	90	90	
TF223・243	3	イ	ニ	580	A	G	70	70	
TF21・23・26	3	イ	ホ	580	A	G	70	70	
TU197・217・237・257 TU185・205・225・245 TU180・200・220・240	2	イ	ニ	610	A	G	70	70	

三菱

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロナー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
MT231・251・271・291 GO26・28・30 GO260・280・300 GO261・281・301	3	イ	ホ	690	A	G		TC74 に交換	
GS210・230・250 GS21・23・25	3	イ	ホ	590	A	G			
MT226・246・266 MT286・306 MT225・245・265	3	イ	ホ	630	A	G			
MTZ21・23 MTZ200 MT201・221・241 MT200・220・240	3	イ	ホ	600	A	G			
MTX225・245	3	イ	ホ	600	A	G			
MT18・20 MTX24	3	イ	ホ	540	A	G			これ以上トップ リンクが伸ばせ ないので伸ばす 場合にはトップ リンクを長いも のに交換して下 さい

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
MT21・22・23・24・25・26	3	イ	ホ	630	A	G			
MT27・30	4	イ	ホ	560	A	G			
MT22改・24改・26改	3	イ	ホ	610	A	G			
MTR250・270・300 MTM250・270・300	3	イ	ホ	640	A	G			
GOZ24～28	3	イ	ホ	690	A	G			これ以上トップ リンクが伸ばせ ないので伸ばす 場合にはトップ リンクを長いも のに交換して下 さい
GJ24～30	3	イ	ホ	650	A	G			

その他

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
D208(Q)・228(Q)	2	イ	ニ	550	A	G	50	50	
D238(Q)・258(Q)・278(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
D288(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
D235(Q)・265(Q)・275(Q)・ 295(Q) D26・28 D23(M)	2	イ	ホ	610	A	G			
D195・215 P19・21	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
N179・200	3	イ	ホ	560	C	G	100	100	
N189	3	イ	ホ	440	C	G	70	70	
N209	3	イ	ホ	480	C	G	30	30	
N229・239	3	イ	ホ	500	C	G			
N249・279	3	イ	ホ	510	C	G			
NTX227・247 NTX210・230 NTX25・23・21	4	イ	ヘ	590	A	G			
NTX227Q・247Q NTX210Q・230Q NTX25Q・23Q・21Q	1	口	ヘ	600	A	G			
NTX267 NTX250 NTX27	4	イ	ヘ	630	A	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
NTX267Q NTX250Q NTX27Q	1	イ	ヘ	640	A	G			
NX201・221・241 NX200・220・240 NX19・21・23	3	イ	ヘ	640	A	G			
NX201Q・221Q・231Q NX200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			
NX261・277・281 NX25・27 NX301Z・321Z	3	イ	ヘ	690	A	G			
NX261Q・277Q・260Q NX25Q・27Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
NX301 NX300 NX29	3	イ	ホ	750	A	G			
NX281Q・301Q NX280Q・300Q NX29Q	3	イ	ホ	740	C	G			
TZ215(B)・235 TZ210(B)・230	3	イ	ト	650	A	G			
TZ235B・255 TZ230B・250, TZ240S	3	イ	ト	630	A	G			
TZ255(B)・285 TZ250(B)・280	3	イ	ト	620	A	G			
TZ285B・305 TZ280B・300	3	イ	ト	610	A	G			
TZ20(B)・22(B)・24(B)・27	3	イ	ト	610	A	G			
KT27B・30(B)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ215(B)・235(B)・265	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
NZ265B・305(B)	3	イ	ト	610	A	G	50	50	
TX213・233	4	イ	ヘ	590	A	G			
TX213Q・233Q	1	ロ	ヘ	600	A	G			
TX253	4	イ	ヘ	630	A	G			
TX253Q	1	イ	ヘ	640	A	G			
TX273・303	4	イ	ヘ	690	A	G			
TX201・221・241 TX200・220・240	3	イ	ヘ	640	A	G			
TX201Q・221Q・241Q TX200Q・220Q・240Q	1	イ	ヘ	590	C	G			

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S/-1S	
							TC71M	TC69	
TX261・277・281 TX260・268・280	3	イ	ヘ	690	A	G			
TX261Q・277Q・281Q TX260Q・268Q・280Q	2	イ	ヘ	650	C	G			
TX301 TX300	3	イ	ホ	750	A	G			
TX301Q TX300Q	3	イ	ホ	750	C	G			

作業機のトラブルシューティング

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。再使用せず、直ちに対策を行ってください。

特に [] 部の対応については、触れずに必ず購入された販売店に相談して対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤー ケース	異 音 の 発 生	ペアリングの損傷	ペアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	オイルシール、O リングの劣化、損傷	オイルシール、O リング交換
		ケース取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェンの緩みによるカバーとの干渉	テンショナ調節、チェン交換
		チェンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ペアリングの損傷	ペアリング交換
		ペアリングの油ぎれ	ペアリングへの注油
		チェンの油ぎれ	チェンへの注油 (保守・点検参照)
耕うん軸	異 音 の 発 生	軸受け部のペアリングの損傷	ペアリング交換
		耕うん爪取り付けボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振 動 の 発 生	耕うん爪軸の曲がり	耕うん爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	ギヤーの損傷	ギヤーの交換
		チェンの折損	チェンの交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
	土のたまりすぎ	耕深が深い	耕深を浅く
ドラム	振 動 の 発 生	爪の耕深よりドラムが下がりすぎ	ドラムを上げる
	回 転 不 良	ドラム取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		チェンの折損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
フレーム	振 動 の 発 生	カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		グリス切れ	グリス注入

本体各部	症 状	原 因	対 策
フレーム	オフセット・旋回作動不良	リミットスイッチ故障 (電動仕様)	リミットスイッチの交換
		ハーネスの断線又は結合部、端子外れ (電動仕様)	ハーネス Assy の交換
		電動シリンダのエア漏れ又は故障 (電動仕様)	電動シリンダのエア抜き又は交換
		コントローラの故障 (電動仕様)	コントローラの交換
		バッテリの消耗 (電動仕様)	バッテリの充電又は交換
		ガススプリングの破損 (手動仕様)	ガススプリングの交換 販売店に相談してください
		各支点部及び摺動部の油切れ	支点部及び摺動部への注油 (保守・点検参照)
		爪軸がロックしている	PTO をニュートラルにし、 爪軸が回転するようにする
	リバース作業中、旋回ロックが外れる	フロントフレームとオフセットアームの間に異物がある	異物を取除く (P 44、46 参照)
		カムプレートとペアリングの接触 (手動仕様)	カムプレートの調整
ジョイント	異音の発生	機体が移動・格納状態になっていない	機体を移動・格納状態にする
		転倒防止フックの変形	交換
		グリス切れ	グリス注入
	たわみ発生	ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	スプライン部のガタ	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
		ノックピンとヨークの摩耗	交換

コントローラのトラブルシューティング(電動仕様)

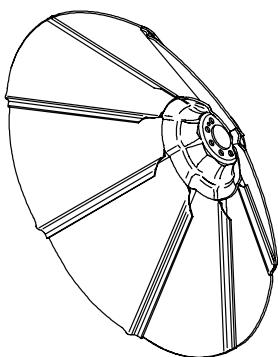
症状	確 認 事 項	対 处 作 業	掲載頁
電源が入らない	トラクタのキースイッチはONになっていますか？	バッテリカプラ・外部電源取出カプラを接続している場合、トラクタのキースイッチをONにしてください。	34
	各カプラは確実に根元まで挿入されていますか？	各カプラをしっかりと挿入してください。	
	バッテリカプラ・外部電源取出カプラは正しく接続されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>トラクタ側電源カプラに接続する場合</u> バッテリカプラはバッテリハーネス ASSY に、外部電源取出カプラはトラクタ側電源カプラの両方に接続してください。 ・ <u>トラクタ側電源カプラに接続しない場合</u> バッテリカプラはバッテリハーネス ASSY に、外部電源取出カプラはハーネス M の直結カプラに接続してください。 	32～34
	バッテリハーネス ASSY のヒューズが切れていませんか？	配線がカバー等にショートしていないか確認後、ヒューズを交換してください。	37
	トラクタ側電源カプラに接続している場合、トラクタの電源カプラのヒューズが切れていませんか？	トラクタ側のヒューズを交換してください。	トラクタの取扱説明書
	バッテリとバッテリハーネス ASSY の+は正しく接続されていますか？	逆に接続されていた場合、正しく接続しなおしてください。	35～36
スイッチを押しても	各カプラは確実に根元まで挿入されていますか？	各カプラをしっかりと挿入してください。	
	エンジンはかかるっていますか？	エンジンを始動させてください。	
	バッテリは消耗していませんか？	バッテリを交換してください。	
	バッテリの端子がサビているか、もしくは、緩んでいませんか？	端子を外し、サビを除去してから、しっかりと取付けて下さい。	
統 旋回途中にブザー音が連続で鳴り、動かなくなくなる	アゼローターが上がりすぎていませんか？	地面とドラムの高さを、20cm程度になるまで、下げて下さい。	44

その他不明なトラブルは、購入された販売店に御相談ください。

消耗部品

1. ドラム

コード 7660859



2. ナタ爪



3. ハイド爪



4. オフセット（メイン）用シャーボルト

シャーボルトキット（ホンタイ）

コード 7663036

※シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用して
ください。

5. 天場爪軸用シャーボルト（F仕様のみ）

シャーボルトキット（テンバ）

コード 7663109

※シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用して
ください。

6. テンションプレート

コード 7662868

7. ローラーチェーン

主要諸元

型式		RS752F (B)			
		T-0S	T-3S	T-4S	-1S
駆動方式		チェン駆動			
機体寸法※	全長 (mm)	1580	1765	1765	1765
	全幅 (mm)	1100 (1110)	1100 (1110)	1100 (1110)	1100 (1110)
	全高 (mm)	1415	1415	1415	1415
質量※	総質量 (kg)	251 (258)	284 (291)	286 (293)	271 (278)
	スタンド (kg)	20	20	20	20
ジョイント		TC69		TC71M	TC69
適応トラクタ (KW [PS])		11.8 ~ 23.5 [16 ~ 32]			
装着装置の種類		日農工標準 3P 0・I 形			標準 3P 直装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅 (mm)		1550			
あぜ高さ (cm)		20 ~ 30 (15 ~ 25)			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作業能率 (分 /100m)		6 ~ 15			
エンジン回転数 (rpm)		1600 ~ 2000			
入力軸回転速度 (rpm)		PTO 1速~2速 : 320 ~ 584			
ドラム外径 (cm)		75			
ローラ外径 (cm)		14 : 分割式標準ローラ (22 : 分割式大径ローラ)			
天場処理装置		標準装備			
オフセット方式		電動式無段階オフセット平行リンク機構 [前進作業側 : 300mm 無段階調節 後進作業側 : 固定]			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ () 内の数値は B 仕様を示しています。

主要諸元

型式		RS752F (B)			
		-S	-T	-U	-MU
駆動方式		チェン駆動			
機体寸法※	全長 (mm)	1775	1775	1740	1740
	全幅 (mm)	1100 (1110)	1100 (1110)	1100 (1110)	1100 (1110)
	全高 (mm)	1415	1415	1415	1415
質量※	総質量 (kg)	264 (271)	263 (270)	262 (269)	262 (269)
	スタンド (kg)	20	20	20	20
ジョイント		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ (KW [PS])		11.8 ~ 23.5 [16 ~ 32]			
装着装置の種類		日農工特殊3P			
		A1形	A2形	B形	三菱B形
最大タイヤ外幅 (mm)		1550			
あぜ高さ (cm)		20 ~ 30 (15 ~ 25)			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作業能率 (分 / 100m)		6 ~ 15			
エンジン回転数 (rpm)		1600 ~ 2000			
入力軸回転速度 (rpm)		PTO 1速~2速 : 320 ~ 584			
ドラム外径 (cm)		75			
ローラ外径 (cm)		14 : 分割式標準ローラ (22 : 分割式大径ローラ)			
天場処理装置		標準装備			
オフセット方式		電動式無段階オフセット平行リンク機構 [前進作業側 : 300mm 無段階調節 後進作業側 : 固定]			
旋回方法		電動式旋回機構			

※ () 内の数値はB仕様を示しています。

主要諸元

型式		RS752C (B)			
		T-0S	T-3S	T-4S	-1S
駆動方式		チェン駆動			
機体寸法※	全長 (mm)	1580	1765	1765	1765
	全幅 (mm)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)
	全高 (mm)	1435	1435	1435	1435
質量※	総質量 (kg)	251 (258)	284 (291)	286 (273)	271 (278)
	スタンド (kg)	20	20	20	20
ジョイント		TC69		TC71M	TC69
適応トラクタ (KW [PS])		11.8 ~ 23.5 [16 ~ 32]			
装着装置の種類		日農工標準 3P			標準 3P 直装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅 (mm)		1550			
あぜ高さ (cm)		20 ~ 30 (15 ~ 25)			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作業能率 (分 / 100m)		6 ~ 15			
エンジン回転数 (rpm)		1600 ~ 2000			
入力軸回転速度 (rpm)		PTO 1速~2速 : 320 ~ 584			
ドラム外径 (cm)		75			
ローラ外径 (cm)		14 : 分割式標準ローラ (22 : 分割式大径ローラ)			
天場処理装置		標準装備			
オフセット方式		手動式 2段階オフセット平行リンク機構 [前進作業側 : ~ 121 / ~ 148 後進作業側 : 固定]			
旋回方法		手動式旋回機構			

※ () 内の数値は B 仕様を示しています。

主要諸元

型式		RS752C (B)			
		-S	-T	-U	-MU
駆動方式		チェン駆動			
機体寸法※	全長 (mm)	1775	1775	1740	1740
	全幅 (mm)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)
	全高 (mm)	1435	1435	1435	1435
質量※	総質量 (kg)	264 (271)	263 (270)	262 (269)	262 (269)
	スタンド (kg)	20	20	20	20
ジョイント		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ (KW [PS])		11.8 ~ 23.5 [16 ~ 32]			
装着装置の種類		日農工特殊3P			
		A1形	A2形	B形	三菱B形
最大タイヤ外幅 (mm)		1550			
あぜ高さ (cm)		20 ~ 30 (15 ~ 25)			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作業能率 (分 / 100m)		6 ~ 15			
エンジン回転数 (rpm)		1600 ~ 2000			
入力軸回転速度 (rpm)		PTO 1速~2速 : 320 ~ 584			
ドラム外径 (cm)		75			
ローラ外径 (cm)		14 : 分割式標準ローラ (22 : 分割式大径ローラ)			
天場処理装置		標準装備			
オフセット方式		手動式2段階オフセット平行リンク機構 [前進作業側 : ~121 / ~148 後進作業側 : 固定]			
旋回方法		手動式旋回機構			

※ () 内の数値はB仕様を示しています。

主要諸元

型式		RS752 (B)			
		T-0S	T-3S	T-4S	-1S
駆動方式		チェン駆動			
機体寸法※	全長 (mm)	1580	1765	1765	1765
	全幅 (mm)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)
	全高 (mm)	1435	1435	1435	1435
質量※	総質量 (kg)	235 (242)	268 (275)	270 (277)	255 (262)
	スタンド (kg)	20	20	20	20
ジョイント		TC69		TC71M	TC69
適応トラクタ (KW [PS])		11.8 ~ 23.5 [16 ~ 32]			
装着装置の種類		日農工標準 3P			標準 3P 直装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅 (mm)		1550			
あぜ高さ (cm)		20 ~ 30 (15 ~ 25)			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作業能率 (分 / 100m)		6 ~ 15			
エンジン回転数 (rpm)		1600 ~ 2000			
入力軸回転速度 (rpm)		PTO 1速~2速 : 320 ~ 584			
ドラム外径 (cm)		75			
ローラ外径 (cm)		14 : 分割式標準ローラ (22 : 分割式大径ローラ)			
天場処理装置		—			
オフセット方式		手動式 2段階オフセット平行リンク機構 [前進作業側 : ~ 121 / ~ 148 後進作業側 : 固定]			
旋回方法		手動式旋回機構			

※ () 内の数値は B 仕様を示しています。

主要諸元

型式		RS752 (B)			
		-S	-T	-U	-MU
駆動方式		チェン駆動			
機体寸法	全長 (mm)	1775	1775	1740	1740
	全幅 (mm)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)	1160 (1170)
	全高 (mm)	1435	1435	1435	1435
質量	総質量 (kg)	248 (255)	247 (254)	246 (253)	246 (253)
	スタンド (kg)	20	20	20	20
ジョイント		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ (KW [PS])		11.8 ~ 23.5 [16 ~ 32]			
装着装置の種類		日農工特殊3P			
		A1形	A2形	B形	三菱B形
最大タイヤ外幅 (mm)		1550			
あぜ高さ (cm)		20 ~ 30 (15 ~ 25)			
標準耕深 (cm)		5 ~ 15			
標準作業速度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作業能率 (分 / 100m)		6 ~ 15			
エンジン回転数 (rpm)		1600 ~ 2000			
入力軸回転速度 (rpm)		PTO 1速~2速 : 320 ~ 584			
ドラム外径 (cm)		75			
ローラ外径 (cm)		14 : 分割式標準ローラ (22 : 分割式大径ローラ)			
天場処理装置		標準装備			
オフセット方式		手動式2段階オフセット平行リンク機構 [前進作業側 : ~121 / ~148 後進作業側 : 固定]			
旋回方法		手動式旋回機構			

※ () 内の数値はB仕様を示しています。

オプション

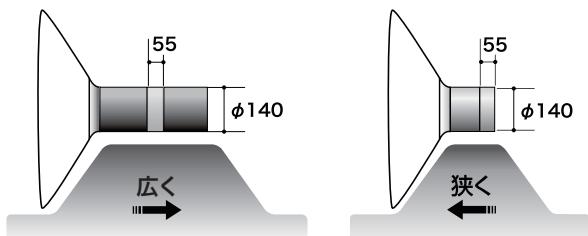
RS-2 には以下のオプションがあります。畠塗り作業を行う圃場条件に適したものをお選びください。(別途購入が必要になります)

1. 延長 / 分割ローラ

天場の幅が広い / 狹い場合に延長 / 分割ローラを取付けます。天場の幅によってローラの長さを調節できます。

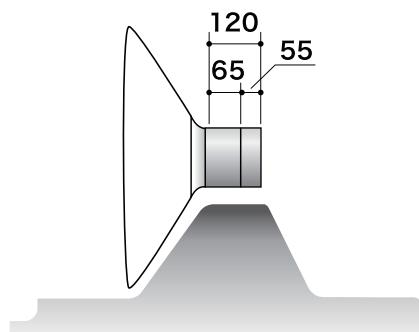
①ローラキット A (コード : 7560346)

整形したい天場の幅により、標準ローラに延長、または標準ローラを分割して取付けることができます。



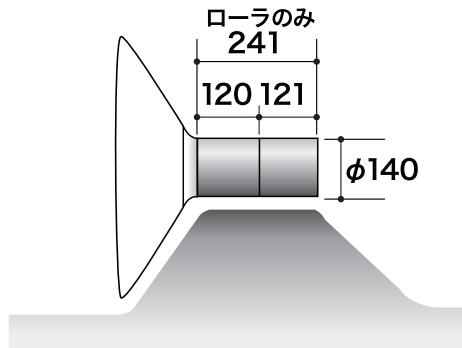
②ローラキット AS2 (コード : 7560348)

標準ローラの延長、または標準ローラを分割して取付けることができます。



③EX ローラキット AS (コード : 7560286)

標準ローラ 2 分割式タイプ。
(RS752 のみ)

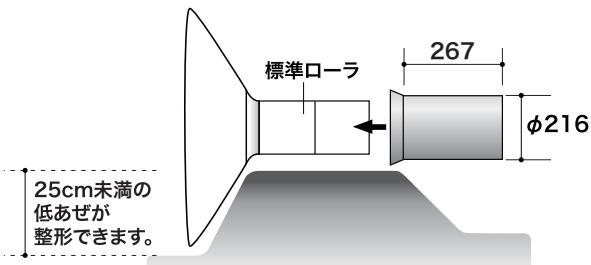


2. 大径ローラ

低畦対応用コーナー付大径ローラ。25cm 以下の低畦を整形する場合に最適です。

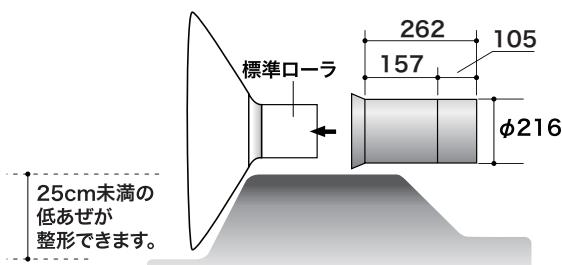
①ローラキット BS (コード : 7560503)

標準ローラを取付けた状態で装着できます。



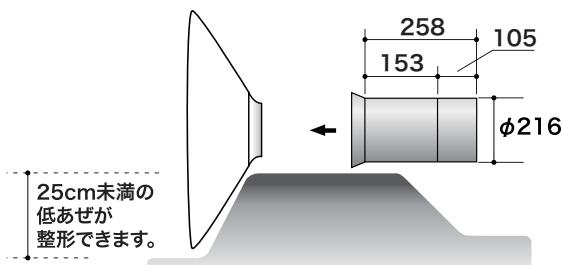
②ローラキット BS2 (コード : 7560504)

分割式大径ローラ。標準ローラの外側ローラを取り外してから装着します。



③ローラキット CS2 (コード : 7560502)

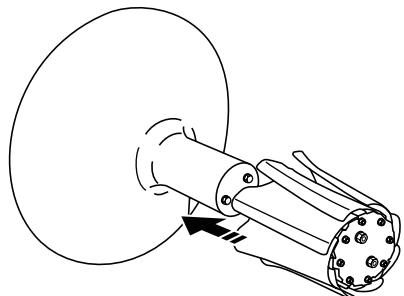
標準ローラを取付けなくとも装着できます。
(RS752 のみ)



3. 樹脂ローラ (コード : 7560246)

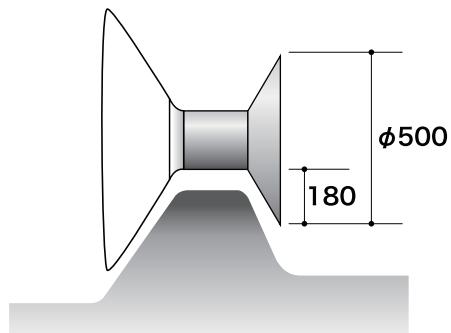
天場整形後もローラへ土が付着しようとする火山灰土を、樹脂プレートが元の形に戻ろうとする張力により剥がし、天場の整形をきれいにします。

標準ローラを取付けたまま装着できます。



4. 中畦キット A (コード : 7662115)

圃場の中に中畦をつくります。

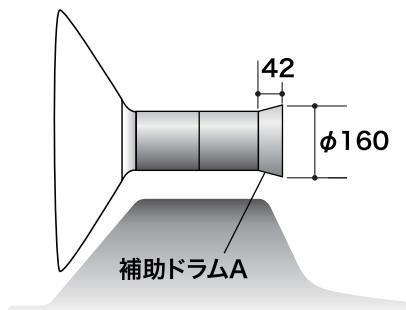


5. 補助ドラムキット

天場に供給された土で EX ローラからこぼれた土を塗るのに使用します。

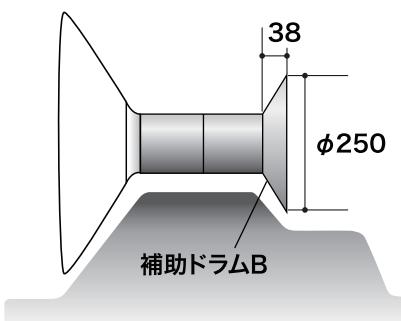
①補助ドラムキット A (コード : 7662364)

両側から畦塗作業ができます。



②補助ドラム B (コード : 7662365)

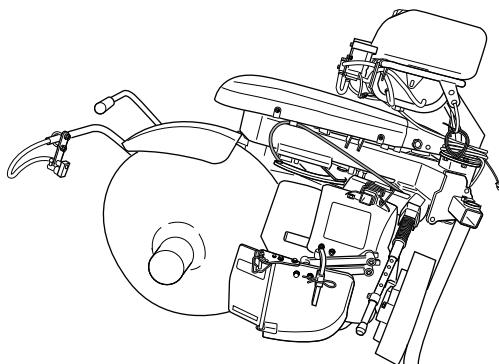
復路作業はできません。



6. 散水装置

畦塗り作業中に水や除草剤を撒くときに使用します。間欠モード付き。(30Lタンク)

注) 8090101タンクキット2と8090048トリツケキットDが必要です。



用語解説

アタッチメント

アゼローターに後付けする部品

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリープ

超低速の作業速度

耕 深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

作業機が左右に振れる量を規制するトラクタのチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚 力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリングと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリング

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202